

Advanced Lights out Management (ALOM) CMT v1.3 ガイド



Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.3 ガイド

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

本書には、富士通株式会社により提供および修正された技術情報が含まれています。

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対してSun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社とSun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社またはSun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/またはSun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社またはSun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴ、Java, Netra, Solaris, Sun StorEdge, docs.sun.com, OpenBoot, Sun VTS, Sun Solve, CoolThreads, J2EE および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および SunTM Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限り、このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われたいものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のものと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われたいものとします。

原典: Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT v1.3 Guide
Manual Code: C120-E386-01EN



Adobe PostScript

目次

はじめに xxiii

1. Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT の概要 1
 - ALOM CMT の機能 1
 - ALOM CMT の監視対象 2
 - ALOM CMT の使用 3
 - 障害およびエラー関連の用語 4
 - faulty 状態 4
 - failed 状態 5
 - プラットフォーム固有の情報 5
2. セキュリティーガイドライン 7
 - システムコントローラのセキュリティー保護 7
 - 遠隔接続のタイプの選択 8
 - Secure Shell の有効化 9
 - SSH を有効にする手順 10
 - SSH によってサポートされない機能 10
 - SSH ホスト鍵の変更 10
 - Solaris オペレーティングシステムのセキュリティー 11
3. ALOM CMT の構成 13

ALOM CMT の構成手順	13
ALOM CMT の構成計画	14
システムコントローラの通信ポートの選択	14
シリアル管理ポート	15
▼ シリアルポートに接続する	15
ネットワーク管理 (Ethernet) ポート	16
デフォルトの DHCP 接続	16
クライアント識別子 (clientid)	17
デフォルトパスワード	17
出荷時の新しいシステムで DHCP を使用するための高レベルな手順	18
構成ワークシート	19
構成変数ワークシート	20
関連情報	21
DHCP を使用したネットワークの構成	21
手動でのネットワークの構成	21
電子メールによる警告の構成	22
ALOM CMT の設定	22
ALOM CMT ソフトウェアのカスタマイズ	23
関連情報	23
4. 一般的な作業	25
ALOM CMT への接続	25
ALOM CMT アカウントへのログイン	26
▼ ALOM CMT にログインする	26
関連情報	27
ALOM CMT の再起動	27
▼ ALOM CMT を再起動する	27
システムコンソールと ALOM CMT 間の切り替え	28
ほかのデバイスへのシステムコンソールのリダイレクト	28

ALOM CMT のバージョンの表示	28
ロケータ LED の制御	29
ホストサーバの電源投入および電源切断	29
ホストサーバのリセット	30
サーバの環境情報の表示	30
▼ showenvironment コマンドを使用する	30
ALOM CMT 診断パラメータの再構成	31
▼ setupsc スクリプトを実行する	31
Ethernet ポートを使用するための ALOM CMT の再設定	32
▼ setupsc スクリプトを実行する	33
▼ ネットワークインタフェース変数を構成する	34
▼ ALOM CMT を再起動する	35
setsc コマンドを使用したネットワークインタフェース変数の設定	35
ALOM CMT ユーザーアカウントの追加	36
▼ ALOM CMT ユーザーアカウントを追加する	36
ALOM CMT ユーザーアカウントの削除	37
▼ sc> プロンプトから ALOM CMT ユーザーアカウントを削除する	38
自分のアカウントまたは別のユーザーのアカウントのパスワードの変更	38
▼ 自分の ALOM CMT パスワードを変更する	38
▼ 別のユーザーの ALOM CMT パスワードを変更する	39
警告メッセージの送受信	39
▼ 電子メールによる警告を設定する	40
ALOM CMT からの警告の受信	40
5. ALOM CMT の障害管理作業	41
障害情報の原因	41
障害管理のためのナレッジ記事の入手	42
▼ 適切なナレッジ記事を入手する	42

6. ALOM CMT コマンドシェルの使用	43
ALOM CMT コマンドシェルの概要	43
▼ コマンドオプションを入力する	44
関連情報	44
ALOM CMT シェルコマンド	44
関連情報	49
ALOM CMT シェルコマンドの説明	49
bootmode	49
▼ bootmode コマンドを使用する	50
▼ bootmode 設定を表示する	50
bootmode コマンドオプション	51
関連情報	51
break	51
▼ break コマンドを使用する	52
break コマンドオプション	52
関連情報	52
clearasrdb	53
▼ clearasrdb コマンドを使用する	53
clearfault	53
console	55
▼ console コマンドを使用する	56
console コマンドオプション	57
関連情報	58
consolehistory	58
▼ consolehistory コマンドを使用する	58
consolehistory コマンドオプション	59
関連情報	59
disablecomponent	60

▼ disablecomponent コマンドを使用する	61
enablecomponent	62
▼ enablecomponent コマンドを使用する	63
flashupdate	64
▼ flashupdate コマンドを使用する	64
flashupdate コマンドオプション	65
関連情報	65
help	65
▼ help コマンドを使用する	66
関連情報	68
logout	68
▼ logout コマンドを使用する	68
関連情報	68
password	69
▼ password コマンドを使用する	69
パスワードの制限	69
関連情報	70
powercycle	70
▼ powercycle コマンドを使用する	70
poweroff	70
▼ poweroff コマンドを使用する	71
poweroff コマンドオプション	72
関連情報	72
poweron	72
▼ poweron コマンドを使用する	72
poweron コマンドオプション	73
関連情報	73
removefru	73

▼ removefru コマンドを使用する	73
removefru コマンドオプション	74
reset	75
▼ reset コマンドを使用する	75
reset コマンドオプション	75
関連情報	76
resetsc	76
▼ resetsc コマンドを使用する	76
resetsc コマンドオプション	77
関連情報	77
restartssh	77
▼ restartssh コマンドを使用する	77
コマンドオプション	77
関連情報	77
setdate	78
▼ setdate コマンドを使用する	78
setdate コマンドオプション	79
関連情報	79
setdefaults	79
setdefaults コマンドを使用する	80
setdefaults コマンドオプション	80
関連情報	81
setfru	81
▼ setfru コマンドを使用する	81
setkeyswitch	81
▼ setkeyswitch コマンドを使用する	81
setkeyswitch コマンドオプション	82
setlocator	82

setlocator コマンドオプション	83
関連情報	83
setsc	83
▼ setsc コマンドを使用する	83
関連情報	84
setupsc	84
▼ setupsc コマンドを使用する	84
関連情報	85
showcomponent	86
▼ showcomponent コマンドを使用する	86
showdate	87
▼ showdate コマンドを使用する	88
関連情報	88
showenvironment	88
▼ showenvironment コマンドを使用する	88
関連情報	94
showfaults	94
▼ showfaults コマンドを使用する	94
showfru	95
showfru コマンドオプション	96
▼ showfru コマンドを使用する	96
関連情報	98
showhost	99
▼ showhost コマンドを使用する	99
showkeyswitch	99
▼ showkeyswitch コマンドを使用する	99
showlocator	100
▼ showlocator コマンドを使用する	100

- 関連情報 100
- showlogs 101
 - ▼ showlogs コマンドを使用する 101
 - showlogs コマンドオプション 102
 - 関連情報 103
- shownetwork 103
 - ▼ shownetwork コマンドを使用する 103
 - shownetwork コマンドオプション 104
 - 関連情報 104
- showplatform 104
 - ▼ showplatform コマンドを使用する 104
- showsc 105
 - ▼ showsc コマンドを使用する 105
 - showsc コマンドオプション 107
 - 関連情報 107
- showusers 108
 - ▼ showusers コマンドを使用する 108
 - showusers コマンドオプション 108
- ssh-keygen 109
 - ▼ ssh-keygen コマンドを使用する 109
 - コマンドオプション 109
 - 関連情報 109
- useradd 110
 - ▼ useradd コマンドを使用する 110
 - 関連情報 110
- userdel 111
 - ▼ userdel コマンドを使用する 111
 - userdel コマンドオプション 111

関連情報	111
userpassword	112
▼ userpassword コマンドを使用する	112
パスワードの制限	112
関連情報	113
userperm	113
アクセス権レベル	113
▼ userperm コマンドを使用する	114
関連情報	115
usershow	115
▼ usershow コマンドを使用する	115
関連情報	116
7. ALOM CMT 構成変数の使用	117
ALOM CMT 構成変数の概要	117
▼ ALOM CMT コマンドシェルで構成変数を使用する	117
シリアル管理ポート変数	118
関連情報	118
ネットワークインタフェース変数	119
関連情報	119
ネットワーク管理および通知変数	119
関連情報	120
システムユーザー変数	120
関連情報	121
診断制御変数	121
関連情報	121
構成変数の説明	121
diag_level	122
▼ setsc コマンドを使用して diag_level 変数を変更する	122

▼ setupsc コマンドを使用して diag_level 変数を変更する	122
diag_mode	123
▼ setsc コマンドを使用して diag_mode 変数を変更する	123
▼ setupsc コマンドを使用して diag_mode 変数を変更する	123
diag_trigger	124
▼ setsc コマンドを使用して diag_trigger 変数を変更する	124
▼ setupsc コマンドを使用して diag_trigger 変数を変更する	124
diag_verbosity	125
▼ setsc コマンドを使用して diag_verbosity 変数を変更する	125
▼ setupsc コマンドを使用して diag_verbosity 変数を変更する	126
if_connection	126
▼ setsc コマンドを使用して if-connection 変数を設定する	126
関連情報	127
if_emailalerts	127
▼ setupsc コマンドを使用して if_emailalerts 変数を設定する	128
▼ setsc コマンドを使用して if_emailalerts 変数を変更する	128
if_network	128
▼ setupsc コマンドを使用して if_network 変数を設定する	129
▼ setsc コマンドを使用して if_network 変数を変更する	129
mgt_mailalert	129
▼ setupsc コマンドを使用して mgt_mailalert 変数を設定する	130
▼ setsc コマンドを使用して mgt_mailalert 変数を変更する	130
関連情報	131
mgt_mailhost	131
▼ setsc コマンドを使用して mgt_mailhost 変数を変更する	132
関連情報	132
netsc_dhcp	133

関連情報	133
netsc_enetaddr	133
関連情報	133
netsc_ipaddr	134
関連情報	135
netsc_ipgateway	135
関連情報	136
netsc_ipnetmask	136
関連情報	137
sc_backupuserdata	137
▼ setsc コマンドを使用して sc_backupuserdata 変数を変更する	138
sc_clieventlevel	138
関連情報	139
sc_cliprompt	139
▼ setsc コマンドを使用して sc_cliprompt 変数を変更する	139
関連情報	140
sc_clitimeout	140
関連情報	141
sc_clipasswdecho	141
関連情報	142
sc_customerinfo	142
関連情報	143
sc_escapechars	143
関連情報	144
sc_powerondelay	144
関連情報	144
sc_powerstatememory	145
関連情報	145

ser_baudrate 146
 関連情報 146
ser_data 146
 関連情報 146
ser_parity 146
 関連情報 147
ser_stopbits 147
 関連情報 147
sys_autorestart 147
sys_autorunonerror 148
sys_eventlevel 148
sys_enetaddr 148
 関連情報 149

A. 障害追跡 151

ALOM CMT の問題の障害追跡 152
ALOM CMT を使用したサーバの問題の障害追跡 153
 システムコンソールの書き込みロックの概要 154
ALOM CMT シェルエラーメッセージ 154
 使用方法に関するエラー 155
 一般的なエラー 156
 FRU 状態に関する CLI メッセージ 158
 関連情報 159
ALOM CMT パスワードの復元 159
 ▼ ALOM CMT パスワードを復元する 159

B. ALOM CMT イベントメッセージ 161

イベントメッセージの概要 161
イベントの重要度レベル 162

イベントメッセージ 163

索引 179

表目次

表 2-1	プラットフォームセキュリティ構成チェックリスト	8
表 2-2	SSH サーバの属性	9
表 3-1	ALOM CMT 構成変数の DHCP デフォルトの内容	16
表 3-2	機能別 Ethernet 変数	20
表 6-1	ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト	44
表 6-2	bootmode コマンドオプション	51
表 6-3	break コマンドオプション	52
表 6-4	consolehistory コマンドオプション	59
表 6-5	flashupdate コマンドオプション	65
表 6-6	powercycle コマンドオプション	70
表 6-7	poweroff コマンドオプション	72
表 6-8	poweron コマンドオプション	73
表 6-9	removefru コマンドオプション	74
表 6-10	removefru の FRU 値	74
表 6-11	reset コマンドオプション	75
表 6-12	restartssh コマンドオプション	77
表 6-13	setdate コマンドオプション	79
表 6-14	setdefaults コマンドオプション	80
表 6-15	setkeyswitch コマンドオプション	82
表 6-16	showfru コマンドオプション	96

表 6-17	showlogs コマンドオプション	102
表 6-18	showsc コマンドオプション	107
表 6-19	ssh-keygen コマンドオプション	109
表 6-20	userperm のアクセス権レベル	113
表 7-1	diag_level のタスク	122
表 7-2	diag_mode のタスク	123
表 7-3	diag_trigger のタスク	124
表 7-4	diag_verbosity のタスク	125
表 7-5	if_connection のオプション	126
表 7-6	if_network のタスク	128
表 7-7	mgt_mailalert のタスク	129
表 7-8	mgt_mailhost のタスク	131
表 7-9	netsc_dhcp のタスク	133
表 7-10	netsc_ipaddr のタスク	134
表 7-11	netsc_ipgateway のタスク	135
表 7-12	netsc_ipnetmask のタスク	136
表 7-13	sc_backupuserdata のタスク	137
表 7-14	sc_clieventlevel のタスク	138
表 7-15	sc_cliprompt のタスク	139
表 7-16	sc_clitimeout のタスク	141
表 7-17	sc_clipasswdecho のタスク	142
表 7-18	sc_customerinfo のタスク	143
表 7-19	sc_escapechars のタスク	143
表 7-20	sc_powerondelay のタスク	144
表 7-21	sc_powerstatememory のタスク	145
表 A-1	ALOM CMT の診断	152
表 A-2	使用方法に関するエラーメッセージ	155
表 A-3	一般的なエラーメッセージ	156
表 A-4	FRU エラーメッセージ	158
表 B-1	システムコントローラの起動イベントメッセージ	163

表 B-2	システムコントローラの SCC PROM イベントメッセージ	165
表 B-3	システムコントローラの使用状況イベントメッセージ	167
表 B-4	環境監視イベントメッセージ	171
表 B-5	ホスト監視イベントメッセージ	177

コード例

コード例 6-1	help コマンドの出力例 67
コード例 6-2	SPARC Enterprise T2000 サーバの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時) 89
コード例 6-3	SPARC Enterprise T1000 サーバの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時) 91
コード例 6-4	showenvironment コマンドの出力例 (電源切断時) 93
コード例 6-5	SPARC Enterprise T2000 サーバで有効な引数を表示する showfru コマンドの出力 例 96
コード例 6-6	SPARC Enterprise T1000 サーバで有効な引数を表示する showfru コマンドの出力 例 97
コード例 6-7	有効な引数を使用した showfru コマンドの出力例 97
コード例 6-8	showlogs -p p コマンドの出力例 102
コード例 6-9	showsc での構成情報の表示例 105
コード例 6-10	showsc -v での構成情報の表示例 106

はじめに

『Advanced Lights Out Management (ALOM) CMT ガイド』では、Advanced Lights Out Manager (ALOM) システムコントローラについて説明します。このコントローラを使用すると、SPARC Enterprise サーバを遠隔で管理できます。このマニュアルは、UNIX[®]コマンドについての知識と経験が豊富なシステム管理者を対象としています。

安全な使用のために

このマニュアルには当製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。当製品を使用する前に、このマニュアルを熟読してください。また、このマニュアルは大切に保管してください。

富士通は、使用者および周囲の方の身体や財産に被害を及ぼすことなく安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本製品を使用する際は、マニュアルの説明に従ってください。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

第 1 章では、Advanced Lights Out Manager の概要について説明します。

第 2 章では、サーバのセキュリティーガイドラインについて説明します。

第 3 章では、サーバに合わせて ALOM ソフトウェアをカスタマイズする方法について説明します。

第 4 章では、ALOM で簡単に実行できる一部の一般的な作業について説明します。

第 5 章では、ALOM で実行できる一部の障害管理作業について説明します。

第 6 章では、ALOM コマンド行インタフェースについて説明します。

第 7 章では、ALOM の動作を変更するために使用できる構成変数について説明します。

付録 A では、診断について説明し、ALOM に関する問題を障害追跡する方法について説明します。

付録 B では、ALOM CMT イベントメッセージのリストと説明を示します。

関連マニュアル

次のマニュアルでは、ホストサーバでの作業に関して、ALOM に関連する特定の作業の実行方法について説明しています。

作業	タイトル
診断テストの実行	『SunVTS User's Guide』
	『SunVTS Quick Reference Card』
	『SunVTS Test Reference Manual』
	『Sun Management Center ユーザーガイド』
システムおよびネットワークの管理	Solaris 10 System Administrator Collection
オペレーティングシステムの使用	Solaris 10 User Collection

UNIX コマンドについて

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル
<http://docs.sun.com>

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define` \ XV_VERSION_STRING '

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

マニュアルへのコメント

本マニュアルに関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、下記内容を具体的にご記入の上、担当 SE、販売員または担当講師にお渡しください。

御提出日	200 年 月 日	マニュアル番号	
御氏名 (社名・所属・課名 など)		マニュアル名称	
連絡先	TEL () -		

ページ	行	区分*	要/否**	内 容

*A：御意見 B：御要望 C：内容不明瞭（間違い、説明不足、用語不統一、誤字・脱字、その他）の記号で御記入ください。

** 御意見、御要望の内容に対する当社からの回答の必要性について御記入ください。

*** 記入欄が不足した場合には、お手数ですが別用紙に御記入のうえ添付してください。

本マニュアルで下記の項目について、気が付かれた箇所に○印を御記入ください。

技術レベル（良、普通、不良）	図解の量（多い、普通、少ない）
構成（良、普通、不良）	実例の量（多い、普通、少ない）
内容の正確さ（良、普通、不良）	誤字・脱字（多い、少ない）
文章の理解のしやすさ（良、普通、不良）	索引（良、普通、不良）

担当 SE	所属		氏名
	ビル		
担当販売員	支 店		TEL.
担当講師	部	課	

(株) 富士通ラーニングメディア	
受付 No	受付担当印

第1章

Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT の概要

この章では、使用しているサーバの Advanced Lights Out Manager (ALOM) の概要について説明します。このバージョンの ALOM は、チップマルチスレッド (CMT) を搭載したシステムをサポートするように設計されています。この章は、次のセクションで構成されています。

- 1 ページの「ALOM CMT の機能」
- 2 ページの「ALOM CMT の監視対象」
- 4 ページの「障害およびエラー関連の用語」
- 5 ページの「プラットフォーム固有の情報」

このあとの章では、ALOM CMT の構成および使用について詳細に説明します。

ALOM CMT の機能

Advanced Lights Out Manager (ALOM) CMT を使用すると、サーバを遠隔で管理できます。

ALOM CMT ソフトウェアは、サーバにプリインストールされています。このため、ALOM CMT は、サーバを設置して電源を入れるとすぐに動作します。その後、特定のインストール環境で動作するように ALOM CMT をカスタマイズできます。詳細は、13 ページの「ALOM CMT の構成」を参照してください。

ALOM CMT を使用すると、ネットワーク経由か、端末または端末サーバに接続される専用のシリアルポートのいずれかを使用して、サーバを監視および制御できます。ALOM CMT で提供されるコマンド行インタフェースを使用して、地理的に分散されたマシンまたは物理的にアクセス不可能なマシンを遠隔から管理できます。44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」を参照してください。

また、ALOM CMT を使用すると、サーバのシリアルポートに物理的に近い場所で行う必要がある電源投入時自己診断 (POST) などの診断を遠隔で実行できます。153 ページの「ALOM CMT を使用したサーバの問題の障害追跡」を参照してください。また、ハードウェア障害、ハードウェア警告、およびサーバまたは ALOM CMT に関連するその他のイベントの電子メールによる警告を送信するように ALOM CMT を設定することもできます。

システムコントローラの回路は、サーバのスタンバイ電力を使用して、サーバとは独立して動作します。このため、サーバのオペレーティングシステムがオフラインになった場合、またはサーバの電源が切断された場合でも、ALOM CMT ファームウェアおよびソフトウェアは機能し続けます。

ALOM CMT の監視対象

このセクションでは、サーバ上で ALOM CMT が監視できるコンポーネントの一部について説明します。

監視対象コンポーネント	ALOM CMT の監視内容
ファン	ファンが取り付けられているかどうか、ファンの回転速度、およびファンが OK ステータスを報告しているかどうか
CPU	CPU で計測される温度、および温度の警告状態または障害状態
電源装置	電源装置の状態、および障害が報告されているかどうか
システム格納装置の温度	システム周辺の温度、および格納装置の温度の警告状態または障害状態
負荷	システム負荷 (アンペア)
電流	電流センサーの状態
電圧	正しい電圧が報告されているかどうか
サーバのフロントパネル	LED の状態

ALOM CMT の使用

ALOM CMT ソフトウェアは、ホストサーバにプリインストールされています。このため、ALOM CMT はサーバを設置して電源を入れるとすぐに動作します。外部 ASCII 端末をシリアル管理ポート (SER MGT) に接続すれば、ALOM CMT ソフトウェアを設定しなくてもすぐに ALOM CMT を開始できます。外部端末の接続の詳細は、使用しているホストサーバに付属のインストールガイドを参照してください。

ALOM CMT ソフトウェアを使用すると、システムコントローラが設置されているホストサーバを監視できます。この場合、ホストサーバのみを監視することができ、ネットワーク上のその他のサーバは監視できません。複数のユーザーがホストサーバを監視できますが、一度に 1 人のユーザーのみがコンソールへの書き込み権を持ちます。その他の接続は読み取り専用となります。その他のユーザーは、システムコンソールおよび ALOM CMT の出力を表示するためのコマンドを実行できますが、設定を変更することはできません。

システムコントローラに接続するいくつかの方法を、次に示します。

1. SER MGT ポートに ASCII 端末を直接接続します。詳細は、15 ページの「シリアル管理ポート」を参照してください。
2. telnet または ssh コマンドを使用し、ネットワーク管理 (Ethernet) (NET MGT) ポートに接続されている Ethernet 接続を介してシステムコントローラに接続します。詳細は、16 ページの「ネットワーク管理 (Ethernet) ポート」を参照してください。
3. SER MGT ポートに端末サーバのポートを接続してから、ssh または telnet コマンドを使用して端末サーバに接続します。

はじめてサーバに電源を入れると、ALOM CMT は事前設定されているデフォルトのアカウントを使用してシステムの監視を自動的に開始し、システムコンソールに出力を表示します。デフォルトのアカウントは admin で、完全なアクセス権 (cuar) を持っています。アクセス権の詳細は、113 ページの「userperm」を参照してください。

ALOM CMT にログインして admin のパスワードを指定するには、次の手順を実行します。

- ALOM CMT コマンドプロンプト (sc>) で password コマンドを入力し、次に admin アカウントのパスワードを指定します。詳細は、69 ページの「password」を参照してください。

ログインする前に ALOM CMT がタイムアウトした場合は、システムコンソールに戻り、次のメッセージが表示されます。

Enter #. to return to ALOM.

必要に応じて、ALOM CMT にログインしたあと、特定のインストール環境で動作するように ALOM CMT をカスタマイズできます。詳細は、13 ページの「ALOM CMT の構成」を参照してください。

これで、ALOM CMT ユーザーアカウントの追加など、一部の一般的な管理作業を実行できるようになります。詳細は、25 ページの「一般的な作業」を参照してください。

障害およびエラー関連の用語

すべての SPARC Enterprise サーバでは、ALOM を使用して表示および監視可能な 2 つの動作状態 (ok および failed) が表示されます。一部のサーバには、faulty という動作状態もあります。このセクションでは、faulty 状態と failed 状態の相違点について説明します。

faulty 状態

faulty 状態は、縮退状態でデバイスが動作しているが、デバイスは完全に機能していることを示しています。この縮退により、このデバイスは fault を示していないデバイスよりも信頼性が低くなることがあります。faulty 状態のデバイスは、主な機能を引き続き実行できます。

たとえば、内部ファンに障害が発生すると、電源装置は faulty を示します。ただし、温度が危険に近い値を超えないかぎり、この電源装置は安定した電源を供給し続けることができます。このような faulty 状態の電源装置は、温度、負荷、および効率に応じて適切に機能しなくなることがあります。このため、障害が発生していない電源装置よりも信頼性が低くなります。

failed 状態

failed 状態は、デバイスがシステムの要求どおりに機能していないことを示しています。重大な障害状態または複数の障害の併発が原因で、デバイスに障害が発生します。デバイスが failed 状態になると機能が停止するため、システム資源として使用することができなくなります。

電源装置の例では、電源装置は、安定した電源の供給を停止したときに failed 状態であるとみなされます。

プラットフォーム固有の情報

flashupdate コマンドを使用して ALOM CMT ファームウェアを更新する前に、次の点を確認してください。

- 仮想キースイッチがロック位置に設定されていない。
- ALOM CMT がネットワーク構成されている。サーバの現在のネットワーク構成を表示する方法については、103 ページの「shownetwork」を参照してください。
- 適切なアクセス権 (アクセス権レベル: a) を持っている。
- 有効な ALOM CMT ファームウェアイメージがネットワークアクセス可能なディレクトリに配置されている。

詳細は、使用しているシステムに付属のインストールガイドを参照してください。

第2章

セキュリティーガイドライン

この章では、セキュリティー上の重要なガイドラインについて説明します。承認されていないアクセスを制限するようにシステムを構成することを、セキュリティー強化と呼びます。この章の内容は、次のとおりです。

- 7 ページの「システムコントローラのセキュリティー保護」
- 8 ページの「遠隔接続のタイプの選択」
- 9 ページの「Secure Shell の有効化」
- 11 ページの「Solaris オペレーティングシステムのセキュリティー」

システムコントローラのセキュリティー保護

SC は、ホストドメインから独立して動作します。SC は、RAM メモリーや持続的記憶領域などのコンピュータリソースをホストドメインと共有しません。SC は専用ハードウェアを使用してホストドメインと通信します。SC は、ホストドメインにログインすることはありませんが、ユーザーログインのためにホストのシリアルコンソールポートへのアクセスを提供し、すべてのコンソールトラフィックをログに記録します。

考慮すべきセキュリティー上の対策は次のとおりです。

- すべてのパスワードがセキュリティーガイドラインに必ず準拠するようにします。たとえば、ホストドメインと SC には一意のパスワードを設定することをお勧めします。
- プラットフォームおよびホストドメインのパスワードを定期的に変更します。
- ログファイルを定期的に精査して、不正がないか確認します。

システムの強化に役立つ構成手順を次に示します。

- SC のアプリケーションファームウェアを更新した直後や、ホストドメインを構成またはインストールする前に、セキュリティーの変更を実装します。
- SC コマンドシェルへのアクセスを制限します。
- SC ユーザーに対し、役割に基づいて特定の権限を割り当てます。

- 特定の構成変更のあとには再起動を予定します。

表 2-1 のプラットフォームセキュリティ構成チェックリストに、setsc および setupsc コマンドのパラメータと、SC およびホストをセキュリティ保護するためのその他のタスクを示します。システムコントローラのセキュリティに関連する setsc および setupsc コマンドのパラメータの詳細は、83 ページの「setsc」および 84 ページの「setupsc」のコマンド説明を参照してください。

表 2-1 プラットフォームセキュリティ構成チェックリスト

設定またはタスク	推奨事項
遠隔接続のタイプ	setupsc コマンドまたは setsc if_connection ssh で、接続タイプとして ssh を選択します。 注: ネットワークベースの端末サーバを使用する場合は、端末サーバへのアクセスに SSH を使用して、サーバとのすべての通信が暗号化されるようにしてください。
SC のパスワードの設定	長さ 8 文字のパスワードを使用します。パスワードには、大文字、小文字、数字、および区切り文字を組み合わせて指定することをお勧めします。 69 ページの「password」の「パスワードの制限」を参照してください。
SC のユーザーアクセス権の設定	SC のユーザーアカウントには、必ずユーザーの役割に応じたアクセス権を付与してください。ユーザーアカウントには 4 つのアクセス権レベルを指定できます。113 ページの「userperm」の「アクセス権レベル」を参照してください。
シリアルポートへのアクセスの制限	シリアルポートへの物理的なアクセスを制限します。
アイドルセッションタイムアウトの設定	シリアル接続またはネットワーク接続 (Telnet または SSH) を介して確立された対話型セッションのタイムアウトを設定します。詳細は、140 ページの「sc_clitimeout」を参照してください。
必要に応じて再起動	特定の構成変数を変更した場合は、それらを有効にするためにリセットを実行する必要があります。必要に応じて、再起動が確実に行われるようにしてください。

遠隔接続のタイプの選択

SC では、遠隔接続に対して SSH プロトコルとともに DHCP がデフォルトで使用可能になっています。SSH セッションを確立するには、admin パスワード、またはシャードシリアル番号に基づくシステム固有のデフォルトパスワードが必要です。詳細は、16 ページの「デフォルトの DHCP 接続」を参照してください。SC へのすべてのネットワーク接続に適用されるセッションアイドルタイムアウト時間を定義できます。デフォルトでは、セッションアイドルタイムアウト時間は設定されていません。

Secure Shell の有効化

SC が汎用ネットワーク上にある場合は、Telnet ではなく Secure Shell を使用することで、SC へのセキュリティ保護された遠隔アクセスを確保できます。SSH は、ホストとクライアントの間で送受信されるデータを暗号化します。SSH はホストとユーザーの両方を識別する認証メカニズムを提供するため、既知のシステム間のセキュリティ保護された接続を可能にします。Telnet プロトコルではパスワードを含む情報が暗号化されずに転送されるため、基本的にセキュリティが保護されません。

注 – SSH は、FTP または Telnet プロトコルのセキュリティ保護には使用できません。FTP は新しい ALOM CMT イメージのダウンロードに使用されます。これらのプロトコルはセキュリティ保護されていないため、汎用ネットワーク上では慎重に使用することをお勧めします。

SC は、提供する SSH 機能に制限があり、SSH version 2 (SSHv2) のクライアント要求のみをサポートします。表 2-2 では、SSH サーバの各種属性を示し、このサブセットでその属性がどのように処理されるかについて説明します。これらの属性の設定は構成可能ではありません。

表 2-2 SSH サーバの属性

属性	値	コメント
Protocol	2	SSH v2 のサポートのみ
Port	22	待機ポート
ListenAddress	0.0.0.0	複数の IP アドレスをサポート
AllowTcpForwarding	no	ポート転送はサポートされない
RSAAuthentication	no	公開鍵の認証は使用不可
PubkeyAuthentication	no	公開鍵の認証は使用不可
PermitEmptyPasswords	yes	SC によって制御されるパスワード認証
MACs	hmac-sha1、hmac-md5	Solaris 9 オペレーティングシステムと同じ SSH サーバの実装
Ciphers	aes128-cbc、 blowfish-cbc、 3des-cbc	Solaris 9 オペレーティングシステムと同じ SSH サーバの実装

遠隔アクセスタイプとして SSH を使用する場合は、SC への SSH 接続を 8 つ同時に確立できます。

SSH を有効にする手順

詳細は、34 ページの「ネットワークインタフェース変数を構成する」を参照してください。

SSH によってサポートされない機能

ALOM CMT 上の SSH サーバは、次の機能をサポートしません。

- 遠隔でのコマンド行の実行
- scp コマンド (セキュリティ保護されたコピープログラム)
- sftp コマンド (セキュリティ保護されたファイル転送プログラム)
- ポート転送
- 鍵ベースのユーザー認証
- SSHv1 クライアント

上記のいずれかの機能の使用を試みると、エラーメッセージが生成されます。たとえば、次のコマンドを実行します。

```
# ssh SCHOST showplatform
```

この場合、次のメッセージが生成されます。

- SSH クライアントの場合:

```
Connection to SCHOST closed by remote host.
```

- SC コンソールの場合:

```
[0x89d1e0] sshdSessionServerCreate: no server registered  
          for showboards  
[0x89d1e0] sshd: Failed to create sshdSession
```

SSH ホスト鍵の変更

定期的に新しいホスト鍵を取得することは、マシンを適切に管理するための望ましいセキュリティ対策です。ホスト鍵が危殆化されている可能性がある場合は、ssh-keygen コマンドを使用して、システムのホスト鍵を再生成できます。

ホスト鍵は、いったん生成されると、置換のみ行うことができ、setdefaults コマンドを実行しないかぎり削除できません。新しく生成されたホスト鍵を使用可能にするには、restartssh コマンドを実行するか、reboot コマンドによる再起動を実行

して、SSH サーバを再起動します。ssh-keygen および restartssh コマンドの詳細とその例については、109 ページの「ssh-keygen」および 77 ページの「restartssh」を参照してください。

注 – ssh-keygen コマンドを使用して、SC 上のホスト鍵フィンガープリントを表示することもできます。

Solaris オペレーティングシステムのセキュリティ

Solaris オペレーティングシステムのセキュリティ保護の詳細は、次のマニュアルおよび記事を参照してください。

- Solaris のセキュリティに関する最良事例
- Solaris Security Toolkit
- 使用している Solaris OS の Solaris System Administrator Collection にある『Solaris のシステム管理 (セキュリティサービス)』

第3章

ALOM CMT の構成

この章では、次の基本的な構成作業について説明します。

- 13 ページの「ALOM CMT の構成手順」
- 14 ページの「ALOM CMT の構成計画」
- 14 ページの「システムコントローラの通信ポートの選択」
- 19 ページの「構成ワークシート」
- 22 ページの「電子メールによる警告の構成」
- 22 ページの「ALOM CMT の設定」

ALOM CMT の構成手順

ALOM CMT ソフトウェアはホストサーバにプリインストールされているため、サーバの電源を入れるとすぐに動作します。シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続し、ALOM での作業をすぐに開始できます。

ただし、インストール環境に合わせて ALOM CMT をカスタマイズする場合は、ALOM CMT に関するいくつかの基本的な作業を実行する必要があります。

ALOM をカスタマイズするために完了する必要がある作業は、次のとおりです。

1. 構成のカスタマイズ方法を計画します。詳細は、14 ページの「ALOM CMT の構成計画」を参照してください。
2. 構成ワークシートを使用して設定を記録します。20 ページの「構成変数ワークシート」を参照してください。
3. `setupsc` コマンドを実行します。22 ページの「ALOM CMT の設定」を参照してください。
4. 構成変数を使用して ALOM CMT ソフトウェアをカスタマイズします。117 ページの「ALOM CMT コマンドシェルで構成変数を使用する」を参照してください。

次に、これらの作業について説明します。

ALOM CMT の構成計画

ALOM CMT ソフトウェアは、ホストサーバにプリインストールされています。ALOM CMT を再インストールまたは更新するには、このセクションの指示に従ってください。

注 – システムコントローラのシリアル接続および Ethernet 接続の場所については、使用しているシステムの管理マニュアルを参照してください。

setupsc コマンドを実行して ALOM を設定する前に、ALOM CMT でホストサーバを管理する方法を決定する必要があります。構成に関して決定する必要がある事項は次のとおりです。

- 使用するシステムコントローラの通信ポート。詳細は、14 ページの「システムコントローラの通信ポートの選択」を参照してください。
- 警告メッセージの使用の有無および警告メッセージの送信先。詳細は、19 ページの「構成ワークシート」を参照してください。

これらの事項を決定したら、20 ページの「構成変数ワークシート」に示す構成ワークシートを印刷し、このシートを使用して setupsc コマンドに対する応答を記録します。

システムコントローラの通信ポートの選択

システムコントローラには、次の 2 種類の通信ポートがあります。

- シリアル管理ポート (SER MGT)
- ネットワーク管理 (Ethernet) ポート (NET MGT)

どちらのポートでも、ALOM CMT コマンドシェルにアクセスできます。デフォルトでは、ALOM CMT は起動時に SER MGT ポートを使用して通信します。

注 – サーバのシリアル管理接続およびネットワーク管理 (Ethernet) 接続の場所については、使用しているシステムの管理マニュアルを参照してください。

シリアル管理ポート

システムコントローラのシリアル管理ポートには、ASCII 端末または端末エミュレータ (ワークステーションからのシリアル接続など) を接続できます。

このポートは汎用シリアルポートではありません。ALOM CMT および ALOM CMT を使用したサーバコンソールへのアクセスに使用される専用ポートです。

サーバ上のこのポートは、SER MGT ポートと呼ばれます。このポートには、標準の RJ-45 コネクタを使用します。

コンソールシリアルポートに次のパラメータが設定されていることを確認してください。

- 9600 ボー
- 8 ビット
- パリティなし
- ストップビット 1
- ハンドシェークなし

ホストサーバは、起動時に ALOM CMT に対してこれらのパラメータを自動的に設定します。設定は読み取り専用であり、sc> プロンプトからは変更できません。ALOM CMT セッションの確立後に sc> プロンプトからパラメータの設定を参照するには、シリアルポート変数を確認します。詳細は、118 ページの「シリアル管理ポート変数」を参照してください。

▼ シリアルポートに接続する

1. ALOM に接続します。

ALOM CMT セッションの確立に関する詳細な手順は、25 ページの「ALOM CMT への接続」および 26 ページの「ALOM CMT アカウントへのログイン」を参照してください。

ALOM CMT シェルプロンプト (sc>) が表示されます。

2. システムコンソールに接続するには、ALOM CMT シェルプロンプト (sc>) で次のように入力します。

```
sc> console
```

3. ALOM CMT シェルプロンプト (sc>) に戻るには、エスケープシーケンス (ハッシュとピリオド) を入力します。

```
sc> #.
```

ネットワーク管理 (Ethernet) ポート

10/100M ビットの Ethernet ポートを使用すると、社内ネットワーク内から ALOM CMT にアクセスできます。任意の標準 Telnet クライアントと TCP/IP (伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル) または Secure Shell (ssh) を使用して、ALOM CMT に遠隔から接続できます。サーバ上のシステムコントローラ Ethernet ポートは、NET MGT ポートと呼ばれます。

注 – NET MGT ポートに端末デバイスを接続する場合は、サーバを 10M ビットネットワークまたは 100M ビットネットワークに接続する必要があります。NET MGT ポートは、10M ビットネットワークおよび 100M ビットネットワークの両方に対して、全二重および半二重のどちらのモードもサポートしています。ALOM CMT では、1G ビットネットワークはサポートされていません。

デフォルトの DHCP 接続

動的ホスト構成プロトコルを使用可能にすると、SC は IP アドレスなどのネットワーク構成を DHCP サーバから自動的に取得します。DHCP はデフォルトで使用可能です。

DHCP がデフォルトで使用可能になっていることで、最初にシリアル接続を確立してネットワーク構成を手動で構成する必要なく、SC へのネットワーク接続を確立できます。管理者は、この機能を最大限に利用するために、DHCP サーバと、SC へのログインに関連するデフォルト構成変数およびデフォルトパラメータを認識しておいてください。

次の ALOM CMT 変数およびデフォルトの内容は、デフォルトで DHCP をサポートしています。

表 3-1 ALOM CMT 構成変数の DHCP デフォルトの内容

構成変数	デフォルトの内容
if_network	true
if_connection	ssh
netsc_dhcp	true

DHCP クライアント (この場合は SC) は、自身を識別する一意のクライアント識別子 (clientid) を DHCP サーバに提供します。clientid は、システムに物理的にアクセスできる承認された管理者が容易に取得できるシステムプロパティに基づきます。clientid が特定されると、その clientid を既知の IP アドレスに割り当てるように DHCP サーバを事前構成できます。SC に IP アドレスが割り当てられたあと、SC は SSH サーバを起動します。管理者はその後、SC との ssh セッションを開

始できます。システムが出荷されたばかりの新品であるか、`setdefaults -a` コマンドの実行後に再起動した直後である場合、デフォルトの `admin` ユーザーアカウントでログインするには、デフォルトパスワードが必要です。デフォルトパスワードも、システムに物理的にアクセスできる管理者が容易に取得できるシステムプロパティで構成されています。次の 2 つのセクションでは、`clientid` およびデフォルトパスワードの構築方法について説明します。

クライアント識別子 (`clientid`)

注 – ALOM CMT v1.2 より前に使用されていた DHCP の構成方法は、このリリースでは機能しません。アドレス指定ロジックが、以前のリリースで使用されていた MAC アドレスベースのアプローチから変更されています。ALOM CMT ファームウェアでは、以降に説明するように、一意のクライアント識別子を生成する別の方法が使用されるようになりました。このリリースにアップグレードしたあとで、以前の構成方法で構成されたシステムに、機能する IP アドレスが確実に設定されるように、新しいクライアント識別子を使用して DHCP サーバを再構成してください。

`clientid` はシステムのベース Ethernet アドレスに基づきます。ベース Ethernet アドレスは、各システムに付属の **Customer Information Sheet** で入手できます。また、システムシャーシの背面パネルにあるラベルでも確認できます。`clientid` は次の連結で構成されます。

`SUNW, SC=base-ethernet-address`

たとえば、`base-ethernet-address` が `08:00:20:7C:B4:08` の場合、`SC` によって生成される `clientid` は、接頭辞 `SUNW, SC=` と、コロンを除いた 12 桁の `base-ethernet-address` を結合した文字列になります。

`SUNW, SC=0800207CB408`

この `clientid` は ASCII 形式です。DHCP サーバは ASCII の `clientid` でプログラムできるはずですが。DHCP マッピング表の実際のエントリは、これに対応する 16 進数になります。

デフォルトパスワード

システムが新たに出荷されたものであるか、`setdefaults -a` コマンドの実行後に再起動した直後である場合、`ssh` セッションからログインするにはデフォルトパスワードが必要です。デフォルトパスワードはシステムごとに一意です。これはシャーシシリアル番号から導き出されます。シャーシシリアル番号は、各プラットフォームに付属の **Customer Information Sheet** と、シャーシの背面パネルに貼られたラベルで確認できます。デフォルトパスワードはシャーシシリアル番号の下 8 桁で構成されます。たとえば、シャーシシリアル番号が `0547AE81D0` の場合、デフォルトパスワードは次のようになります。

注 – admin パスワードを設定すると、以降のログインではその admin パスワードが必要になります。デフォルトパスワードは、`setdefaults -a` コマンドが実行されない限り、適用できなくなります。たとえば、`-a` オプションを指定せずに `setdefaults` コマンドを実行すると、admin パスワードは `setdefaults` コマンドを実行する前と同じ値のままです。

出荷時の新しいシステムで DHCP を使用するための高レベルな手順

1. ホストシステムのベース Ethernet アドレスから `clientid` を特定します。ベース Ethernet アドレスは、Customer Information Sheet またはシャーシの背面パネルのラベルで確認できます。
2. シャーシシリアル番号から、デフォルトの admin ユーザーログインパスワードを特定します。シャーシシリアル番号は、Customer Information Sheet またはシャーシの背面パネルのラベルで確認できます。
3. 新しい `clientid` にサービスを提供するように DHCP サーバをプログラムします。
4. システムをネットワークに接続し、システムの AC 電源を確保します。
5. DHCP サーバによって割り当てられた IP アドレスを使用して、ssh セッションを開始します。
6. あらかじめ特定したデフォルトパスワードを使用して、admin ユーザーとしてログインします。

注 – SC の `clientid` を明示的な IP アドレスに割り当てるように DHCP サーバを再プログラムする必要はありませんが、これは最適な方法であり、これを行うと長期的に管理を簡素化することができます。

DHCP サーバが一定範囲の IP アドレスから取り出すように設定されている場合、管理者は DHCP 管理ユーティリティーを使用して、割り当てられた IP アドレスを特定できます。ただし、最初に `clientid` を対応する 16 進数に変換する作業が必要な場合があります。たとえば、DHCP サーバで Solaris OS が動作している場合は、

pntadm(1M) コマンドを使用して IP アドレスの割り当てを表示できます。次の例では、Ethernet アドレス 123456789012 の SC が、.203 サブネットに接続されています。

```
# pntadm -P 129.156.203.0
Client ID                               Flags  Client IP    ...

53554E572C5353433D313233343536373839404142  00      129.156.203.240 ...
...
```

この場合、IP アドレスの割り当てを特定するには、ASCII を対応する 16 進数の clientid に変換する必要があります。次に例を示します。

```
53|55|4E|57|2C|53|43|3D|31|32|33|34|35|36|37|38|39|30|31|32
S  U  N  W  ,  S  C  =  1  2  3  4  5  6  7  8  9  0  1  2
```

構成ワークシート

インストール環境に合わせて ALOM CMT をカスタマイズする場合は、このワークシートを使用するだけで済みます。

ALOM CMT をカスタマイズするには、構成変数を使用します。変数の詳細は、117 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」を参照してください。

ALOM CMT の構成変数の設定には、次の 2 つの方法があります。

- setupsc コマンドの実行時に変数の値を指定します。詳細は、84 ページの「setupsc」を参照してください。
- 83 ページの「setsc」で説明する setsc コマンドを使用して各変数を個別に構成します。

このセクションを印刷し、表を使用して入力時の値を記録します。この表は、サーバソフトウェアの再インストールまたは ALOM CMT 設定の変更が必要になった場合に、ホストサーバ構成の記録として使用することもできます。

ALOM CMT ソフトウェアをカスタマイズする前に、端末デバイスが ALOM CMT に接続されていることを確認します。処理の詳細は、14 ページの「システムコントロールの通信ポートの選択」を参照してください。

構成変数ワークシート

表 3-2 に、Ethernet を制御する構成変数とそのデフォルト値を示します。一番右の列に値を入力してください。

表 3-2 機能別 Ethernet 変数

機能	値/応答	構成変数	デフォルト値	使用する値
ネットワーク構成の 制御方法	手動 (21 ページの「手 動でのネットワークの 構成」を参照)。 DHCP を使用 (21 ペー ジの「DHCP を使用し たネットワークの構 成」を参照)。	if_network (128 ページ の「if_network」を参 照)	true	
サーバへの遠隔接続	none、ssh、または telnet	if_connection (126 ペー ジの「if_connection」 を参照)	ssh	
ALOM CMT のイン ターネットプロトコ ル (IP) アドレス		netsc_ipaddr (134 ペー ジの「netsc_ipaddr」 を参照)。	0.0.0.0	
サブネットマスクの IP ネットマスク値		netsc_ipnetmask (136 ページの 「netsc_ipnetmask」を 参照)。	255.255.255.0	
宛先が ALOM CMT と同じサブネット上 に存在しない場合に 使用するデフォルト ゲートウェイの IP ア ドレス		netsc_ipgateway (135 ページの 「netsc_ipgateway」を 参照)。	0.0.0.0	
ALOM CMT で電子 メールによる警告の 送信の有無 警告の送信に使用す る電子メールアドレス (最大 2 つのメール サーバをサポート)		mgt_mailalert (129 ページの 「mgt_mailalert」を参 照)。	[] デフォルトで は、電子メー ルアドレスは 設定されてい ません	
Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) メー ルサーバの IP アドレ ス (最大 2 台のメール サーバをサポート)		mgt_mailhost (131 ページの 「mgt_mailhost」を参 照)。	0.0.0.0	

関連情報

- ALOM CMT 構成変数については、117 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」を参照
- 112 ページの「userpassword」

DHCP を使用したネットワークの構成

ALOM CMT の動的ホスト構成プロトコル (DHCP) の設定には、次の 2 つの方法があります。

- 133 ページの「netsc_dhcp」に示すように、setupsc スクリプト (84 ページの「setupsc」) を使用して netsc_dhcp 変数を設定します。
- 133 ページの「netsc_dhcp」に示すように、setsc コマンド (83 ページの「setsc」) を使用して netsc_dhcp 変数の値を true に設定し、DHCP を使用可能にします。

注 – ネームサーバマップ (ネットワーク情報サービス (NIS) またはドメインネームシステム (DNS)) でインターネットプロトコル (IP) アドレスに関連付けられている ALOM CMT デバイス名は、ホストサーバ名に `-sc` を追加した名前に設定することをお勧めします。たとえば、ホストサーバの名前が `bert` の場合、ALOM CMT デバイス名は `bert-sc` です。

DHCP を使用してネットワーク構成を制御する場合は、ALOM CMT に固定 IP アドレスを割り当てるように DHCP サーバを構成します。

手動でのネットワークの構成

ALOM CMT に対してネットワークを手動で構成するには、次の 2 つの方法があります。

- setupsc スクリプトを使用して、一度にすべてのネットワーク構成変数を設定します。
- setsc コマンドを使用して、各ネットワーク構成変数の値を個別に設定します。

各変数を個別に設定する場合は、次の変数を設定する必要があります。

- 128 ページの「if_network」
- 134 ページの「netsc_ipaddr」
- 136 ページの「netsc_ipnetmask」
- 135 ページの「netsc_ipgateway」

電子メールによる警告の構成

電子メールによる警告を送信するには、システムコントローラの Ethernet ポートが使用可能になっている必要があります (16 ページの「ネットワーク管理 (Ethernet) ポート」を参照)。

問題が発生すると、ALOM CMT は、そのサーバ上の ALOM CMT アカウントにログインしているすべてのユーザーに警告メッセージを送信します。また、ログインしていないユーザーに電子メールで警告を送信するように ALOM CMT を構成することもできます。警告を受信したユーザーは、そのホストサーバの ALOM CMT アカウントに接続して警告状態に対処できます。

ALOM CMT ソフトウェアでは、最大 8 個の一意の電子メールアドレスを警告の受信用に設定できます。各電子メールアドレスは、それぞれ独自の重要度 (クリティカル、メジャー、マイナー) の警告を受信するように構成できます。詳細は、39 ページの「警告メッセージの送受信」を参照してください。

ALOM CMT の設定

構成計画の終了後、84 ページの「setupsc」に示す setupsc コマンドを実行します。画面のプロンプトに従って、インストール環境に合わせて ALOM CMT ソフトウェアをカスタマイズします。

注 – ALOM CMT ソフトウェアは、カスタマイズしなくても使用できます。ALOM CMT ソフトウェアは、サーバに電源を入れるとすぐに動作します。

setupsc コマンドは、カスタマイズできる各 ALOM CMT 機能を順番に処理するスクリプトを実行します。各機能は、1 つ以上の構成変数に関連付けられています。構成変数の詳細は、第 7 章を参照してください。機能を構成するには、setupsc スクリプトで確認プロンプトが表示されたときに **y** と入力します。機能をスキップするには、**n** と入力します。

あとで設定を変更する必要がある場合は、83 ページの「setsc」の説明に従って setsc コマンドを実行します。

ALOM CMT ソフトウェアのカスタマイズ

`setupsc` スクリプトを使用すると、一度に多くの ALOM CMT 構成変数を設定できます。詳細は、第 7 章を参照してください。`setupsc` スクリプトを実行せずに 1 つ以上の構成変数を変更する場合は、83 ページの「`setsc` コマンドを使用する」に示す `setsc` コマンドを使用します。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 19 ページの「構成ワークシート」
- 13 ページの「ALOM CMT の構成手順」

第4章

一般的な作業

ALOM CMT に admin としてログインし、admin パスワードを指定すると、次のような一般的な管理作業を実行できます。

- 25 ページの「ALOM CMT への接続」
- 26 ページの「ALOM CMT アカウントへのログイン」
- 27 ページの「ALOM CMT の再起動」
- 28 ページの「システムコンソールと ALOM CMT 間の切り替え」
- 28 ページの「ほかのデバイスへのシステムコンソールのリダイレクト」
- 28 ページの「ALOM CMT のバージョンの表示」
- 28 ページの「ほかのデバイスへのシステムコンソールのリダイレクト」
- 29 ページの「ホストサーバの電源投入および電源切断」
- 30 ページの「ホストサーバのリセット」
- 30 ページの「サーバの環境情報の表示」
- 31 ページの「ALOM CMT 診断パラメータの再構成」
- 32 ページの「Ethernet ポートを使用するための ALOM CMT の再設定」
- 36 ページの「ALOM CMT ユーザーアカウントの追加」
- 37 ページの「ALOM CMT ユーザーアカウントの削除」
- 38 ページの「自分のアカウントまたは別のユーザーのアカウントのパスワードの変更」
- 39 ページの「警告メッセージの送受信」

ALOM CMT への接続

ALOM CMT に接続するには、次に示すいくつかの方法があります。

- SER MGT ポートに ASCII 端末を直接接続します。詳細は、15 ページの「シリアル管理ポート」を参照してください。
- telnet または ssh コマンドを使用して、NET MGT ポートに接続されている Ethernet 接続を介して ALOM CMT に接続します。詳細は、32 ページの「Ethernet ポートを使用するための ALOM CMT の再設定」を参照してください。

- SER MGT ポートに端末サーバのポートを接続してから、telnet または ssh コマンドを使用して端末サーバに接続します。

ALOM CMT アカウントへのログイン

使用するシステムコントローラポートへのハードウェア接続が確立されていることを確認します。サーバの Ethernet ポートには NET MGT というラベルが付いています。シリアルポートには SER MGT というラベルが付いています。これらのポートの詳細およびこれらのポートへのデバイスの接続方法については、使用しているサーバのインストールガイドを参照してください。

はじめてシリアル管理ポートを使用して ALOM CMT に接続する場合は、自動的に admin アカウントとして接続されます。このアカウントには、完全な (cuar) アクセス権があります。ALOM CMT の使用を継続するには、このアカウントのパスワードを指定する必要があります。パスワードを指定すると、ALOM CMT を継続して使用できます。次回ログインするときは、そのパスワードを指定してください。admin としてログインすると、新規ユーザーの追加、およびこれらのユーザーのパスワードとアクセス権を指定できます。

デフォルトで使用可能な DHCP がサポートされるプラットフォームでは、シリアル管理ポートに接続する前にネットワーク管理ポートに接続できます。この場合、SC が確実にデフォルトでセキュリティー保護されるように、追加のセキュリティー層が存在します。ユーザーは Secure Shell (ssh) セッションを使用した接続のみ許可されます。事前に特定されたシステム固有のパスワードを入力してください。これについては、16 ページの「デフォルトの DHCP 接続」で説明しています。デフォルトパスワードを入力して、続行が許可されたら、admin アカウントの新しいパスワードを指定してください。

このプロセスの詳細は、113 ページの「アクセス権レベル」、110 ページの「useradd」、112 ページの「userpassword」、および 113 ページの「userperm」を参照してください。

▼ ALOM CMT にログインする

すべてのユーザー (admin およびその他のユーザー) は、次の手順に従って ALOM CMT にログインします。

1. ALOM CMT に接続します。

詳細は、25 ページの「ALOM CMT への接続」を参照してください。

2. SER MGT ポートを使用して ALOM CMT に接続する場合は、接続が確立されたら、#.(ハッシュとピリオド)を入力してシステムコンソールからエスケープします。NET MGT ポートを使用して ALOM CMT に接続する場合は、手順 3 に進みます。
3. ALOM CMT ログイン名とパスワードを入力します。

パスワードは画面に表示されません。ホストサーバでは、入力した各文字の代わりにアスタリスク (*) が表示されます。正常にログインすると、ALOM CMT のコマンドプロンプトが表示されます。

```
sc>
```

これで、ALOM CMT コマンドを使用したり、システムコンソールに切り替えたりできるようになります。詳細は、43 ページの「ALOM CMT コマンドシェルの概要」および 15 ページの「シリアル管理ポート」を参照してください。

ALOM CMT イベントログにログイン情報が記録されます。5 分間でログインに 6 回以上失敗すると、ALOM CMT によってクリティカルイベントが生成されます。詳細は、101 ページの「showlogs」を参照してください。

関連情報

- 14 ページの「システムコントローラの通信ポートの選択」
- 15 ページの「シリアル管理ポート」

ALOM CMT の再起動

システムコントローラをリセットすると、ALOM CMT ソフトウェアが再起動されます。netsc_ipaddr などの特定の変数に新しい値を指定するなど、ALOM の設定を変更したあとで、システムコントローラのリセットが必要になる場合があります。

▼ ALOM CMT を再起動する

- sc> プロンプトで、resetsc コマンドを入力します。

詳細は、76 ページの「resetsc」を参照してください。

システムコンソールと ALOM CMT 間の切り替え

- コンソール出力から ALOM CMT の `sc>` プロンプトに切り替えるには、`#.` (ハッシュとピリオド) を入力します。
- `sc>` プロンプトからコンソールに切り替えるには、`console` と入力します。

注 – `#.` (ハッシュとピリオド) 文字シーケンスは、ALOM CMT のデフォルトのエスケープ文字シーケンスです。必要に応じて、`sc_escapechars` 変数を使用してエスケープシーケンスの最初の文字を変更できます。たとえば、`sc> setsc sc_escapechars a.` のように変更できます。詳細は、143 ページの「`sc_escapechars`」を参照してください。

ほかのデバイスへのシステムコンソールのリダイレクト

はじめてホストサーバの電源を入れると、ALOM CMT はシステムコンソール出力を表示するように初期設定されます。SER MGT ポートは、ホストサーバ上に `virtual-console` として表示されます。

ALOM CMT のバージョンの表示

`showsc` コマンドは、ALOM CMT ソフトウェアの構成に関する情報を表示します。

たとえば、ALOM CMT のバージョンを表示するには、`sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc version
Advanced Lights Out Manager CMT v1.3
```

詳細は、105 ページの「`showsc` コマンドを使用する」を参照してください。

ロケータ LED の制御

ロケータ LED のオンとオフの切り替えおよび LED の状態の確認を行うには、ALOM CMT コマンドを使用します。

- LED のオンとオフを切り替えるには、`setlocator` コマンドを使用します。詳細は、82 ページの「`setlocator`」を参照してください。
- LED の状態を確認するには、`showlocator` コマンドを使用します。詳細は、100 ページの「`showlocator`」を参照してください。

ホストサーバの電源投入および電源切断

`sc>` プロンプトからホストサーバの電源投入および電源切断を行うには、複数の方法があります。

- サーバの電源を入れるには、`poweron` コマンドを入力します。詳細は、72 ページの「`poweron`」を参照してください。
- サーバの電源を入れたあとでシステムコンソールに接続するには、`poweron -c` コマンドを入力します。
- サーバの正常なリセットを実行するには、`powercycle` コマンドを入力します。
正常なリセットを実行すると、Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) を停止できます。代わりに、`poweron` コマンドを入力せずに `poweroff` コマンドを入力すると、ALOM CMT はホストサーバの電源を切り、スタンバイモードにします。詳細は、70 ページの「`powercycle`」または 70 ページの「`poweroff`」を参照してください。
- ホストサーバの状態に関係なくサーバを強制的に停止するには、`poweroff -f` コマンドを入力します。

これにより、なんらかの理由で Solaris OS に障害が発生した場合または Solaris OS がハングアップした場合でも、ホストサーバはただちにリセットされます。この停止は正常な停止ではないため、作業内容が失われることがあります。

ホストサーバのリセット

sc> プロンプトからホストサーバをリセットするには、次の 4 つの方法があります。

- サーバの正常なリセットを実行するには、`powercycle` コマンドを入力します。
正常なリセットを実行すると、Solaris OS を停止できます。代わりに、`poweron` コマンドを入力せずに `poweroff` コマンドを入力すると、ALOM CMT はホストサーバの電源を切り、スタンバイモードにします。詳細は、70 ページの「`powercycle`」を参照してください。
- ホストサーバの状態に関係なくサーバを強制的に停止するには、`powercycle -f` コマンドを入力します。これにより、なんらかの理由で Solaris OS に障害が発生した場合または Solaris OS がハングアップした場合でも、ホストサーバはただちにリセットされます。この停止は正常な停止ではないため、作業内容が失われることがあります。
- 正常な停止を実行せずにサーバをただちにリセットするには、`reset` コマンドを入力します。詳細は、75 ページの「`reset`」を参照してください。
- サーバに OpenBoot PROM プロンプト (`ok`) をすぐに表示するには、`break` コマンドを入力します。詳細は、51 ページの「`break`」を参照してください。

サーバの環境情報の表示

このセクションでは、サーバの環境状態の表示および監視について説明します。

`showenvironment` コマンドは、サーバの環境状態のスナップショットを表示します。このコマンドで表示可能な情報には、システムの温度、ハードディスクドライブの状態、電源装置とファンの状態、フロントパネルの LED の状態、電圧センサー、電流センサーなどがあります。

▼ `showenvironment` コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- `showenvironment` コマンドを使用するには、`sc>` プロンプトで次のように入力します。

```
sc> showenvironment
```

表示される出力は、ホストサーバのモデルおよび構成によって異なります。サーバがスタンバイモードの場合は、一部の環境情報が使用できないことがあります。詳細は、88 ページの「`showenvironment`」を参照してください。

ALOM CMT 診断パラメータの再構成

診断制御変数は、ホストサーバ上でエラーが検出された場合の ALOM CMT の動作方法を指定します。

▼ `setupsc` スクリプトを実行する

1. `setupsc` スクリプトを実行するには、次のように `sc>` プロンプトで `setupsc` を入力します。

```
sc> setupsc
```

設定スクリプトが開始されます。

2. スクリプトを終了するには、次のいずれかの処理を実行します。
 - スクリプトを終了し、行なった変更を保存するには、`Ctrl-Z` を押します。
 - 変更を保存せずにスクリプトを終了するには、`Ctrl-C` を押します。

たとえば、スクリプトには、次のメッセージおよび質問が含まれます。

```
SC> setupsc
Entering interactive script mode. To exit and discard changes to
that point, use Ctrl-C or to exit and save changes to that point,
use Ctrl- Z.

...

Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
Enter the type of reset which will initiate system diagnostic
[power-on-reset error-reset]? power-on-reset error-reset
Enter the verbosity level of diagnostic output [normal]? normal
Enter the test coverage level of the system diagnostic [max]? max
Enter the automatic system diagnostic mode [normal]? normal
Should the host continue to boot after error is encountered [n]? y

...

Your ALOM configuration profile has been successfully completed.
To activate your network configuration, please reset the SC.
```

必要に応じて、スクリプトの対話型の質問に答えることによって、すべての ALOM CMT 構成変数を一度にカスタマイズできます。詳細は、117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」を参照してください。診断変数のみを構成するには、次のプロンプトが表示されるまで各プロンプトで **Return** を押します。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters?
```

詳細は、121 ページの「診断制御変数」を参照してください。

Ethernet ポートを使用するための ALOM CMT の再設定

システムコントローラのシリアルポート (SER MGT) は、外部端末またはその他の ASCII デバイスとの通信に常に使用できます。デフォルトでは、ALOM CMT は Ethernet ネットワーク管理 (NET MGT) ポートを使用して、DHCP によってネットワーク情報を取得し、SSH 接続を受け入れるようにも構成されています。必要に応じて、システムコントローラの NET MGT ポートを再構成するか、使用不可にすることができます。

NET MGT ポートは、標準の RJ-45 コネクタに対応しています。

注 – NET MGT ポートに端末デバイスを接続する場合は、サーバを 10M ビットネットワークまたは 100M ビットネットワークに接続する必要があります。ALOM CMT では、1G ビットネットワークはサポートされていません。

NET MGT ポートを再構成または使用不可にするには、ネットワークインタフェース変数の値を指定する必要があります。詳細は、119 ページの「ネットワークインタフェース変数」を参照してください。

これらの変数に値を指定するには、次の 2 つの方法があります。

- `sc>` プロンプトから `setupsc` スクリプトを実行します。詳細は、84 ページの「`setupsc`」を参照してください。
- `sc>` プロンプトから `setsc` コマンドを使用して、各変数に値を設定します。詳細は、83 ページの「`setsc`」を参照してください。

▼ `setupsc` スクリプトを実行する

1. `setupsc` スクリプトを実行するには、次のように `sc>` プロンプトで **`setupsc`** を入力します。

```
sc> setupsc
```

設定スクリプトが開始されます。

2. スクリプトを終了するには、次のいずれかの処理を実行します。
 - スクリプトを終了し、行なった変更を保存するには、**Ctrl-Z** を押します。
 - 変更を保存せずにスクリプトを終了するには、**Ctrl-C** を押します。

たとえば、スクリプトには、次のメッセージおよび質問が含まれます。

```
sc> setupsc
Entering interactive script mode. To exit and discard changes to
that point, use Ctrl-C or to exit and save changes to that point,
use Ctrl- Z.

Do you wish to configure the enabled interfaces [y]?
Should the SC network interfaces be enabled [y]?
Should the SC email alerts be enabled [y]?
Do you wish to configure the network interface [y]?
Do you wish to configure the network management interfaces [y]?
Do you wish to configure the SC parameters [y]?

Your ALOM configuration profile has been successfully completed.
To activate your network configuration, please reset the SC.
```

必要に応じて、スクリプトの対話型の質問に答えることによって、すべての ALOM CMT 構成変数を一度にカスタマイズできます。詳細は、117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」を参照してください。ネットワークインタフェース変数のみを設定するには、次のプロンプトが表示されるまで各プロンプトで **Return** を押します。

```
Do you wish to configure the enabled interfaces?
```

詳細は、119 ページの「ネットワークインタフェース変数」を参照してください。

▼ ネットワークインタフェース変数を構成する

1. `sc>` プロンプトで `y` を入力して、ネットワークインタフェース変数を設定することを確定します。

`setupsc` スクリプトによって、次のプロンプトが返されます。

```
Should the SC network interface be enabled [y]?
```

2. ネットワークインタフェースを有効にするには、`y` を入力するか、**Return** を押します。無効にするには `n` を入力します。

これにより、`if_network` 変数の値が設定されます。詳細は、128 ページの「`if_network`」を参照してください。

3. スクリプトの対話型の質問に答えます。スクリプトによって、次の変数の値の設定を求めるプロンプトが表示されます。

- if_connection – 126 ページの「if_connection」を参照
 - netsc_dhcp – 133 ページの「netsc_dhcp」を参照
 - netsc_ipaddr – 134 ページの「netsc_ipaddr」を参照
 - netsc_ipnetmask – 134 ページの「netsc_ipnetmask」を参照
 - netsc_ipgateway – 135 ページの「netsc_ipgateway」を参照
4. ネットワークインタフェース変数の設定が終了したら、Ctrl-Z を押して変更を保存し、setupsc スクリプトを終了します。
- 必要に応じて、すべての ALOM CMT 構成変数の設定を終了できます。
- ネットワーク構成を使用する前に、システムコントローラをリセットして ALOM CMT を再起動する必要があります。

▼ ALOM CMT を再起動する

- sc> プロンプトで、resetsc コマンドを入力します。
- 詳細は、76 ページの「resetsc」を参照してください。

setsc コマンドを使用したネットワークインタフェース変数の設定

sc> プロンプトから setsc コマンドを使用すると、ネットワークインタフェース変数の値を設定できます。設定する変数ごとにこのコマンドを 1 回実行します。次に例を示します。

```
sc> setsc if_network true
sc> setsc netsc_ipaddr 123.123.123.123
sc> setsc if_connection ssh
```

次の各変数に対して値を指定するか、デフォルト値を使用します。

- if_connection – 126 ページの「if_connection」を参照
- if_network – 128 ページの「if_network」を参照
- netsc_dhcp – 133 ページの「netsc_dhcp」を参照
- netsc_ipaddr – 134 ページの「netsc_ipaddr」を参照
- netsc_ipnetmask – 136 ページの「netsc_ipnetmask」を参照
- netsc_ipgateway – 135 ページの「netsc_ipgateway」を参照

ALOM CMT ユーザーアカウントの追加

このセクションでは、ALOM CMT ユーザーアカウントの追加手順について説明します。

注 – ALOM CMT には、最大で 15 の一意のユーザーアカウントを追加できます。

▼ ALOM CMT ユーザーアカウントを追加する

1. `sc>` プロンプトで、ユーザーに割り当てるユーザー名を指定して `useradd` コマンドを入力します。

次に例を示します。

```
sc> useradd joeuser
```

詳細は、110 ページの「`useradd`」を参照してください。

2. アカウントにパスワードを割り当てるには、アカウントに割り当てたユーザー名を指定して `userpassword` コマンドを入力します。

`userpassword` コマンドの詳細は、112 ページの「`userpassword`」を参照してください。ALOM CMT によって、パスワードの指定および確認を求めるプロンプトが表示されます。ALOM CMT では、パスワードは画面に表示されません。次に例を示します。

```
sc> userpassword joeuser
New password:
Re-enter new password:
```

注 – ユーザーパスワードには、一定の制限があります。割り当てるパスワードがこれらの制限に準拠していることを確認してください。詳細は、69 ページの「パスワードの制限」を参照してください。

3. アカウントにアクセス権を割り当てるには、アカウントに割り当てたユーザー名およびユーザーに与えるアクセス権レベルを指定して `userperm` コマンドを入力します。

次に例を示します。

```
sc> userperm joeuser cr
```

詳細は、113 ページの「userperm」または 113 ページの「アクセス権レベル」を参照してください。

また、1 人の ALOM CMT ユーザーのアクセス権およびパスワードの状態を表示したり、すべての ALOM CMT ユーザーアカウントの情報を表示したりすることもできます。

- 1 人の ALOM CMT ユーザーのアクセス権およびパスワードの状態を表示するには、`sc>` プロンプトで、割り当てられたユーザー名を指定して `usershow` コマンドを入力します。

次に例を示します。

```
sc> usershow joeuser
Username                Permissions              Password
joeuser                  --cr                     Assigned
```

詳細は、115 ページの「usershow」を参照してください。

- ALOM CMT のユーザーアカウント、アクセス権、およびパスワードの状態のリストを表示するには、`sc>` プロンプトで **`usershow`** を入力します。

次に例を示します。

```
sc> usershow
Username                Permissions              Password
admin                   cuar                     Assigned
wwilson                 --cr                     none
joeuser                  --cr                     Assigned
```

ALOM CMT ユーザーアカウントの削除

ALOM CMT ユーザーアカウントを削除するには、`userdel` コマンドを使用します。

注 – デフォルトの admin アカウントを ALOM CMT から削除することはできません。

▼ sc> プロンプトから ALOM CMT ユーザーアカウントを削除する

sc> プロンプトから ALOM CMT ユーザーアカウントを削除するには、次の手順を実行します。

- sc> プロンプトで、削除するアカウントのユーザー名を指定して `userdel` コマンドを入力します。

次に例を示します。

```
sc> userdel joeuser
Are you sure you want to delete user <joeuser> [y/n]? y
sc>
```

自分のアカウントまたは別のユーザーのアカウントのパスワードの変更

次の手順に従って、自分のパスワードまたは別のユーザーのパスワードを変更できます。

▼ 自分の ALOM CMT パスワードを変更する

sc> プロンプトから自分の ALOM CMT アカウントのパスワードを変更できます。自分のパスワードを変更する場合、アクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> password
```

このコマンドを実行すると、ALOM CMT によって現在のパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。パスワードを正しく入力すると、新しいパスワードの入力を求めるプロンプトが 2 回表示されます。次に例を示します。

```
sc> password
password: Changing password for username
Enter current password: *****
Enter new password: *****
Re-enter new password: *****
sc>
```

▼ 別のユーザーの ALOM CMT パスワードを変更する

注 – 別のユーザーのパスワードを変更するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。詳細は、113 ページの「userperm」を参照してください。

別のユーザーの ALOM CMT アカウントのパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

- **sc> プロンプトで、userpassword コマンドを実行します。**
詳細は、112 ページの「userpassword」を参照してください。

警告メッセージの送受信

ALOM CMT をカスタマイズして、イベントの発生時に電子メールによる警告を複数の電子メールアドレスに送信できます。送信する電子メールによる警告のイベントレベル (クリティカル、メジャー、マイナー) をユーザーごとに指定できます。

警告には、次の 3 つのレベルがあります。

- クリティカル
- メジャー
- マイナー

注 – 電子メールによる警告は最大 8 ユーザーに対して設定できます。各電子メールアドレスは、独自の重要度の警告を受信するように設定できます。

▼ 電子メールによる警告を設定する

1. ALOM がシステムコントローラの Ethernet ネットワーク管理ポート (NET MGT) を使用するよう設定されており、ネットワークインタフェース変数が設定されていることを確認します。

詳細は、32 ページの「Ethernet ポートを使用するための ALOM CMT の再設定」を参照してください。

2. `if_emailalerts` 変数を `true` に設定します。

詳細は、127 ページの「`if_emailalerts`」を参照してください。

3. `mgt_mailhost` 変数の値を設定して、ネットワーク上の 1 つまたは 2 つのメールホストを指定します。

詳細は、131 ページの「`mgt_mailhost`」を参照してください。

4. `mgt_mailalert` 変数の値を設定して、各ユーザーの電子メールアドレスおよび警告レベルを指定します。

詳細は、129 ページの「`mgt_mailalert`」を参照してください。

ALOM CMT からの警告の受信

ホストサーバのコンソールに接続せずに ALOM CMT コマンドシェルを使用する場合、クリティカルレベルまたはメジャーレベルのイベントが検出されると、ALOM CMT から警告メッセージを受信します。警告メッセージは、ALOM CMT コマンドを入力しているときに表示される場合があります。この場合は、コマンドの入力を続けるか、Ctrl-D を押して再度コマンドを入力することができます。

次に例を示します。

```
SC> cons
SC Alert: SYS_FAN at FT0.F0 has Failed
SC> console
```

第5章

ALOM CMT の障害管理作業

ALOM CMT には、障害管理機能が備わっています。この機能を使用するには、`showfaults` および `clearfault` コマンドを使用します。この章では、次の内容について説明します。

- 障害情報の原因
 - 障害管理のためのナレッジ記事の入手
-

障害情報の原因

障害は、なんらかの修正措置が必要であることを示すイベントです。

障害は、次の 3 つの原因によって発生する可能性があります。

- 環境条件
- POST によって報告されるハードウェアの問題
- Solaris OS によって報告される実行時の問題

障害によって示される修正措置には、次の 3 種類があります。

- 環境条件の修正。たとえば、障害メッセージによって温度が高すぎることが報告された場合は、サーバが設置されている部屋の温度を下げる必要がある場合があります。障害メッセージによって電源装置への電源供給が断続的であることが示される場合は、電源装置の電源コードが完全に差し込まれているかどうかを確認する必要がある場合があります。
- 物理コンポーネントの交換。障害メッセージによって、ハードウェアコンポーネント (ファン、電源装置、DIMM など) に障害が発生していることが示される場合は、そのコンポーネントを交換します。
- www.sun.com/msg でオンライン提供されているナレッジ記事の詳細な手順の実行。

障害管理のためのナレッジ記事の入手

システム障害を効率的に管理するには、www.sun.com のナレッジ記事データベースにアクセスします。

▼ 適切なナレッジ記事を手に入る

1. `sc>` プロンプトで、`showfaults` コマンドを実行します。

```
sc> showfaults
ID FRU                      Fault
 0 FIOBD                    Host detected fault, MSGID: SUN4V-8000-8Q
 1 MB                       Host detected fault, MSGID: SUN4V-8000-8Q
```

2. `showfaults` 出力の `SUNW-MSG-ID string` を確認します。
この例では、`SUN4V-8000-8Q` です。
3. ブラウザに `http://www.sun.com/msg/SUN4V-8000-8Q` を指定します。
または、ブラウザに `http://www.sun.com/msg/` を指定し、Web ページ `http://www.sun.com/msg/` の検索ウィンドウに `SUNW-MSG-ID` の `SUN4V-8000-8Q` を入力します。
4. Web サイト `www.sun.com/msg` で提供されている記事を読み、その指示に従います。
たとえば、ナレッジ記事では次のようにアドバイスされることがあります。
 - 指定されたパッチのインストール、および `clearfault` コマンドの実行
 - より詳細な診断の実行
 - 障害が発生したハードウェアコンポーネントの交換

第6章

ALOM CMT コマンドシェルの使用

この章は、次のセクションで構成されています。

- 43 ページの「ALOM CMT コマンドシェルの概要」
- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 49 ページの「ALOM CMT シェルコマンドの説明」

ALOM CMT コマンドシェルの概要

ALOM CMT コマンドシェルは、単純なコマンド行インタフェース (CLI) です。ALOM CMT コマンドシェルでは、ホストサーバを管理、診断、または制御できます。また、ALOM CMT を設定および管理できます。

sc> プロンプトが表示されている場合は、ALOM CMT コマンドシェルを使用しています。ALOM CMT では、サーバごとに合計 8 つの並行 Telnet セッション、および 1 つのシリアルセッションがサポートされています。つまり、一度に 9 つのコマンドシェル操作を実行できます。

ALOM CMT アカウントにログインすると、システムコントローラシェルプロンプト (sc>) が表示され、ALOM CMT シェルコマンドを入力できます。詳細は、26 ページの「ALOM CMT アカウントへのログイン」および 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」を参照してください。

▼ コマンドオプションを入力する

使用するコマンドに複数のオプションがある場合は、次の例に示すように、オプションを個別に入力することも、まとめて入力することもできます。次の 2 つのコマンドは同一です。

```
SC> poweroff -f -y
SC> poweroff -fy
```

関連情報

- 154 ページの「ALOM CMT シェルエラーメッセージ」
- 26 ページの「ALOM CMT アカウントへのログイン」

ALOM CMT シェルコマンド

次の表に、ALOM CMT シェルコマンドとその機能の概要を示します。

表 6-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト

CLI コマンド	概要	説明
構成コマンド		
password	現在のユーザーのログインパスワードを変更します。	69 ページの「password」
restartssh [-y]	ssh-keygen コマンドによって生成された新しいホスト鍵が再ロードされるように、SSH サーバを再起動します。	77 ページの「restartssh」
setdate [[mmd]HHMM mmdHHMM[cc]yy][.SS]	ALOM CMT の日付および時刻を設定します。	77 ページの「restartssh」
setdefaults [-y] [-a]	すべての ALOM CMT 構成パラメータをデフォルト値にリセットします。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。-a オプションを指定すると、ユーザー情報が出荷時のデフォルト (1 つの管理アカウントのみ) にリセットされます。	79 ページの「setdefaults」

表 6-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト (続き)

CLI コマンド	概要	説明
setkeyswitch [normal stby diag locked] [-y]	仮想キースイッチの状態を設定します。仮想キースイッチをスタンバイ (stby) に設定すると、サーバの電源が切断されます。ホストサーバの電源を切る前に、ALOM CMT によって電源切断の確認が求められます。-y フラグを設定すると、確認に対して yes が選択されます。	81 ページの「setkeyswitch」
setsc [param] [value]	指定した ALOM CMT パラメータに割り当てる値を設定します。	83 ページの「setsc」
setupsc	対話型の構成スクリプトを実行します。このスクリプトでは、ALOM CMT 構成変数が設定されます。	84 ページの「setupsc」
showplatform [-v]	ホストシステムのハードウェア構成に関する情報と、そのハードウェアがサービスを提供しているかどうかを表示します。-v オプションを指定すると、表示されているコンポーネントに関する詳細情報が表示されます。	104 ページの「showplatform」
showfru [-g lines] [-sl-d] [FRU]	ホストサーバ内の現場交換可能ユニット (FRU) に関する情報を表示します。	95 ページの「showfru」
showusers [-g lines]	ALOM CMT に現在ログインしているユーザーのリストを表示します。このコマンドの表示書式は、UNIX コマンド who の表示書式と類似しています。-g オプションを指定すると、lines で指定した行数を表示するたびに表示を一時停止します。	108 ページの「showusers」
showhost [version]	ホスト側のコンポーネントのバージョン情報を表示します。	99 ページの「showhost」
showkeyswitch	仮想キースイッチの状態を表示します。	99 ページの「showkeyswitch」
showsc [-v] [param]	現在の非揮発性のランダムアクセスメモリー (Non-Volatile Random-Access Memory、NVRAM) の構成パラメータを表示します。完全な情報を表示するには、-v オプションを使用する必要があります。	105 ページの「showsc」
showdate	ALOM CMT の日付を表示します。ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。	87 ページの「showdate」
ssh-keygen [-l -r] -t {rsa dsa}	Secure Shell (SSH) ホスト鍵を生成し、ホスト鍵フィンガープリントを SC に表示します。	109 ページの「ssh-keygen」
usershow [username]	すべてのユーザーアカウント、アクセス権レベル、およびパスワード割り当ての有無を示すリストを表示します。	115 ページの「usershow」
useradd [username]	ALOM CMT にユーザーアカウントを追加します。	110 ページの「useradd」

表 6-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト (続き)

CLI コマンド	概要	説明
userdel [-y] [username]	ALOM CMT からユーザーアカウントを削除します。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	111 ページの「userdel」
userpassword [username]	ユーザーのパスワードを設定または変更します。	112 ページの「userpassword」
userperm [username] [c] [u] [a] [r]	ユーザーアカウントのアクセス権レベルを設定します。	113 ページの「userperm」
ログコマンド		
showlogs [-b lines -e lines -v] [-g lines] [-p logtype [r p]]	ALOM CMT RAM イベントログに記録されたすべてのイベントの履歴、または持続ログに記録されたメジャーイベントおよびクリティカルイベントを表示します。-p オプションを指定すると、RAM イベントログ (<i>logtype r</i>) のエントリのみを表示するか、持続イベントログ (<i>logtype p</i>) のエントリのみを表示するかを選択できます。	101 ページの「showlogs」
consolehistory [-b lines -e lines -v] [-g lines] [boot run]	ホストサーバコンソールの出力バッファーを表示します。-v オプションを指定すると、指定したログのすべての内容が表示されます。	58 ページの「consolehistory」

表 6-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト (続き)

CLI コマンド	概要	説明
状態コマンドおよび制御コマンド		
showenvironment	ホストサーバの環境状態を表示します。この情報には、システムの温度、電源装置の状態、フロントパネルの LED の状態、ハードディスクドライブの状態、ファンの状態、電圧と電流のセンサーの状態があります。	88 ページの「showenvironment」
shownetwork [-v]	現在のネットワーク構成情報を表示します。-v オプションを指定すると、DHCP サーバの情報などのネットワークに関する追加情報が表示されます。	103 ページの「shownetwork」
console [-f]	ホストシステムのコンソールに接続します。-f オプションを指定すると、コンソールの書き込みロックが強制的に別のユーザーに移動します。	55 ページの「console」
break [-D] [-y] [-c]	ホストサーバ上で動作している Solaris OS ソフトウェアを中断し、Solaris ソフトウェアが起動されたモードに応じて、OpenBoot PROM または kmdb に制御を移します。	51 ページの「break」
bootmode [normal] [reset_nvram] [bootscript=string]	ホストサーバの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。	49 ページの「bootmode」
flashupdate -s IPaddr -f pathname [-v]	ホストファームウェアおよび ALOM CMT ファームウェアの両方のシステムファームウェアをダウンロードおよび更新します。	64 ページの「flashupdate」
reset [-y] [-c]	ホストサーバでハードウェアリセットを生成します。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	75 ページの「reset」
powercycle [-y] [-f]	poweroff のあとに poweron を実行します。-f オプションを指定すると、poweroff が強制的に即時に実行されます。-f オプションを指定しない場合は、正常な停止が試行されます。	70 ページの「powercycle」
poweroff [-y] [-f]	ホストサーバの主電源を切ります。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。ALOM CMT は、正常なサーバの停止を試行します。-f オプションを指定すると、即時停止が強制的に行われます。	70 ページの「poweroff」
poweron [-c] [FRU]	ホストサーバまたは FRU の主電源を入れます。	72 ページの「poweron」
setlocator [on/off]	サーバのロケータ LED をオンまたはオフに切り替えます。	82 ページの「setlocator」
showfaults [-v]	現在検出されているシステム障害を表示します。	94 ページの「showfaults」

表 6-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト (続き)

CLI コマンド	概要	説明
<code>clearfault <i>UUID</i></code>	手動でシステム障害を修復します。	53 ページの「clearfault」
<code>showlocator</code>	ロケータ LED の現在の状態がオンまたはオフのいずれであるかを表示します。	100 ページの「showlocator」
FRU コマンド		
<code>setfru -c <i>data</i></code>	-c オプションを使用すると、システムのすべての FRU にインベントリコードなどの情報を格納できます。	81 ページの「setfru」
<code>showfru [-g lines] [-s -d] [<i>FRU</i>]</code>	ホストサーバ内の FRU に関する情報を表示します。	95 ページの「showfru」
<code>removefru [-y] [<i>FRU</i>]</code>	電源装置などの FRU を取り外す準備をします。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	73 ページの「removefru」
自動システム回復 (Automatic System Recovery、ASR) コマンド		
<code>enablecomponent <i>asr-key</i></code>	asr-db ブラックリストからコンポーネントを削除します。	62 ページの「enablecomponent」
<code>disablecomponent <i>asr-key</i></code>	asr-db ブラックリストにコンポーネントを追加します。	60 ページの「disablecomponent」
<code>showcomponent <i>asr-key</i></code>	システムコンポーネントおよびそのテスト状態 (ASR 状態) を表示します。	86 ページの「showcomponent」
<code>clearasrdb</code>	asr-db ブラックリストからすべてのエントリを削除します。	53 ページの「clearasrdb」
その他のコマンド		
<code>help [<i>command</i>]</code>	すべての ALOM CMT コマンドのリスト、およびその構文と機能の概要を表示します。オプションとしてコマンド名を指定すると、そのコマンドのヘルプを表示できます。	65 ページの「help」
<code>resetsc [-y]</code>	ALOM CMT を再起動します。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	76 ページの「resetsc」

表 6-1 ALOM CMT シェルコマンドの機能別リスト (続き)

CLI コマンド	概要	説明
showlogs [-b lines -e lines -v] [-g lines] [-p logtype [r p]]	ALOM CMT RAM イベントログに記録されたすべてのイベントの履歴、または持続ログに記録されたメジャーイベントおよびクリティカルイベントを表示します。-p オプションを指定すると、RAM イベントログ (logtype r) のエントリのみを表示するか、持続イベントログ (logtype p) のエントリのみを表示するかを選択できます。	101 ページの「showlogs」
usershow [username]	すべてのユーザーアカウント、アクセス権レベル、およびパスワード割り当ての有無を示すリストを表示します。	115 ページの「usershow」
useradd username	ALOM CMT にユーザーアカウントを追加します。	110 ページの「useradd」
userdel [-y] username	ALOM CMT からユーザーアカウントを削除します。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	111 ページの「userdel」
userpassword username	ユーザーのパスワードを設定または変更します。	112 ページの「userpassword」
userperm username [c] [u] [a] [r]	ユーザーアカウントのアクセス権レベルを設定します。	113 ページの「userperm」
logout	ALOM CMT シェルセッションからログアウトします。	68 ページの「logout」

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」

ALOM CMT シェルコマンドの説明

以降のページでは、ALOM CMT シェルコマンドについてアルファベット順に詳細に説明します。

bootmode

bootmode コマンドを使用すると、ホストサーバの初期化中またはホストサーバのリセット後に、ホストサーバのファームウェアの動作を制御できます。

bootmode の normal コマンドオプションは、OpenBoot の非揮発性のランダムアクセスメモリー (Non-Volatile Random-Access Memory、NVRAM) 変数の現在の設定を維持したまま、システムコントローラファームウェアのリセットの準備を行います。

bootmode の reset_nvram コマンドオプションは、OpenBoot NVRAM 変数をデフォルト値に設定します。

▼ bootmode コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。詳細は、113 ページの「userperm」を参照してください。

bootmode コマンドでは、このコマンドを実行してから 10 分以内にホストサーバをリセットする必要があります。poweroff コマンドおよび poweron コマンド、または reset コマンドを 10 分以内に実行しないと、ホストサーバによって bootmode コマンドは無視されます。詳細は、70 ページの「powercycle」、72 ページの「poweron」、および 75 ページの「reset」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> bootmode reset_nvram
sc> reset
```

▼ bootmode 設定を表示する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> bootmode
sc> reset
Bootmode: reset_nvram
Expires WED MAR 05 21:18:33 2003
bootscript="setenv diagswitch? true"
```


bootmode コマンドオプション

bootmode コマンドでは、次のオプションを使用できます。

表 6-2 bootmode コマンドオプション

オプション	説明
normal	次のリセット時に、現在の NVRAM 変数の設定を維持します。
reset_nvram	次のリセット時に、NVRAM 変数をデフォルト設定に戻します。
bootscript = <i>string</i>	ホストサーバの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。現在の bootmode 設定には影響を与えません。<i>string</i> には、最大 64 バイトの長さまで指定できます。bootmode 設定を指定して、同じコマンド内で bootscript を設定できません。 次に例を示します。 <pre>sc> bootmode reset_nvram bootscript = "setenv diag-switch? true" SC Alert: SC set bootmode to reset_nvram, will expire 20030305211833 SC Alert: SC set bootscript to "setenv diag-switch? true"</pre> サーバをリセットしたあとに OpenBoot PROM が bootscript に格納されている値を読み取ると、OpenBoot PROM 変数 diag-switch? はユーザーが要求した値 true に設定されます。 注: bootmode bootscript = "" を設定すると、ALOM CMT は bootscript を空にします。

reset_nvram オプションを指定して bootmode コマンドを使用すると、ホストシステムの OpenBoot PROM NVRAM 設定内のすべてのパラメータが出荷時のデフォルト値にリセットされます。10 分以内にサーバをリセットする必要があります。75 ページの「reset」を参照してください。

オプションを指定せずに bootmode コマンドを使用すると、ALOM CMT は現在選択されているモード、およびそのモードの期限が切れる時刻を表示します。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 75 ページの「reset」
- 28 ページの「システムコンソールと ALOM CMT 間の切り替え」

break

break コマンドを使用すると、サーバに OpenBoot PROM プロンプト (ok) が表示されます。kmdb デバッガを設定している場合は、break コマンドを使用すると、サーバはデバッグモードになります。

サーバでこの機能をサポートしているバージョンの Solaris が動作している場合は、このコマンドを使用して、Solaris OS のパニックコアダンプを強制的に実行することもできます。

システムコンソールが ALOM CMT に接続されていることを確認してください。詳細は、5 ページの「プラットフォーム固有の情報」を参照してください。

▼ break コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、c レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> break option
```

option は、-D、-y、-c、またはオプション指定なしです。これらのオプションは、任意の組み合わせで使用できます。相互に排他的なオプションはありません。

break コマンドを入力すると、サーバに ok プロンプトが表示されます。

break コマンドオプション

break コマンドでは、次のオプションを使用できます。

表 6-3 break コマンドオプション

オプション	説明
-D	管理対象のシステム OS のパニックコアダンプを強制的に行います (すべてのバージョンの OS でサポートされているとはかぎらない)。
-y	最初に「Are you sure you want to send a break to the system [y/n]?」という確認の質問を表示せずに処理を続行するように、ALOM CMT に指示します。
-c	処理を実行したあと、システムコンソールに接続するよう ALOM CMT に指示します。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

■ 113 ページの「userperm」

clearasrdb

clearasrdb コマンドを使用すると、自動システム回復データベース (asr-db) ブラックリストからすべてのエントリを削除できます。これによって、デバイスが手動または POST のどちらで使用不可になったかにかかわらず、すべてのデバイスがふたたび使用可能になります。

▼ clearasrdb コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> clearasrdb
```

clearfault

clearfault コマンドを使用すると、システム管理者はホストで報告された障害を手動で修復できます。これにより、showfaults コマンドでこの障害が表示されなくなります。

次の例では、ホストで検出された障害が showfaults コマンドによって特定されています。

```
sc> showfaults
ID FRU                               Fault
0 MB/CMP0/CH0/R0/D0 Host detected fault, MSGID: SUN4U-8000-2S
```

次のように、showfaults コマンドに -v (冗長) オプションを指定します。

```
sc> showfaults -v
ID Time                               FRU                               Fault
0 SEP 09 11:09:26 MB/CMP0/CH0/R0/D0 Host detected fault,
MSGID:
SUN4U-8000-2S  UUID: 7ee0e46b-ea64-6565-e684-e996963f7b86
```

次のように、引数を指定せずに `clearfault` コマンドを実行すると、ALOM CMT によって、コマンドの使用法に関する情報が表示されます。

```
sc> clearfault
Error: Invalid command option
Usage: clearfault <UUID>
```

`clearfault` コマンドには、直前の例に示すように、引数として数値文字列であるユニバーサル固有 ID (Universal Unique Identifier、UUID) を 1 つ指定します。次の例では、`clearfault` コマンドの引数として UUID を指定しています。

```
sc> clearfault 7ee0e46b-ea64-6565-e684-e996963f7b86
Clearing fault from all indicted FRUs...
Fault cleared.
```

`clearfault` コマンドが正常に実行されると、次のように、ホストで検出された障害が `showfaults` コマンドで表示されなくなります。

```
sc> showfaults
No failures found in System
```

注 – 障害は、プロキシとして機能する FRU 経由で間接的に報告される可能性もあります。

次の例では、`showfru` コマンドによって、`SASBP.SEEPROM` が、最初の `showfaults` 出力に表示されている障害の発生したコンポーネント HDD0 のプロキシとして機能していることが示されています。

```
sc> showfaults
ID FRU                      Fault
  9 HDD0                    Host detected fault, MSGID: SUNW-TEST07
```

showfru コマンドを使用して、イベント状態情報を表示します。

```
sc> showfru SASBP.SEEFROM
...
/Status_EventsR (1 iterations)
/Status_EventsR[0]
/Status_EventsR[0]/UNIX_Timestamp32:      FRI MAY 20 12:16:02 2005
/Status_EventsR[0]/Old_Status:              0x00 (OK)
/Status_EventsR[0]/New_Status:              0x10 (PROXIED FAULT)
/Status_EventsR[0]/Initiator:              0xE0 (FM)
/Status_EventsR[0]/Component:              0x20
/Status_EventsR[0]/Message (FM)
/Status_EventsR[0]/FM/fault_diag_time:     0x0000000000000000
/Status_EventsR[0]/FM/diagcode:            SUNW-TEST07
/Status_EventsR[0]/FM/uuid:
66616b65-7575-6964-0000-000000000000
/Status_EventsR[0]/FM/DE_Name:             ALOM-DE
/Status_EventsR[0]/FM/DE_Version:          v1.0
...
SEGMENT: ST
/Status_Proxy1R/
/Status_Proxy1R/UNIX_Timestamp32: FRI MAY 20 12:16:02 2005
/Status_Proxy1R/version:                0x01
/Status_Proxy1R/StatusMap31:
0x0700000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
/Status_CurrentR/
/Status_CurrentR/UNIX_Timestamp32: FRI MAY 20 12:16:02 2005
/Status_CurrentR/status:                 0x10 (PROXIED FAULT)
```

障害が発生したコンポーネント (この例では HDD0) を交換したあと、clearfault *UUID* コマンドを実行して、プロキシとして機能している SEEPROM から障害を削除できます。

```
console
```

console コマンドを使用すると、コンソールモードを実行して ALOM CMT コマンドシェルからシステムコンソールに接続できます。システムコンソールを終了して ALOM CMT コマンドシェルに戻るには、**#.** (ハッシュとピリオド) を入力します。

複数のユーザーが ALOM CMT からシステムコンソールに接続できますが、コンソールへの書き込み権は一度に 1 人のユーザーのみが持ちます。ほかのユーザーが入力した文字は、すべて無視されます。これは書き込みロックと呼ばれており、その他のユーザーセッションには読み取り専用モードでコンソールセッションが表示されます。システムコンソールにアクセスしているユーザーがほかに存在しない場合は、最初にコンソールセッションを実行したユーザーが、コンソールコマンドを実行するこ

とによって書き込みロックを自動的に取得します。別のユーザーが書き込みロックを持っている場合は、`-f` オプションを使用すると、強制的にコンソールの書き込みロックを取得できます。これにより、その他のユーザーの接続は強制的に読み取り専用モードになります。

ALOM CMT は、システムコンソールのフローレートを制御して、書き込みロックを保持しているユーザーセッションのフローレートに一致させます。これによって、書き込みロックを保持するユーザーセッションでデータが損失されないことが保証されます。ただし、この処理によって、読み取り専用のコンソールアクセス権を持つユーザーセッションのデータが失われる可能性があります。たとえば、書き込みロックを持つユーザーセッションが高速の NET MGT ポートを介して接続されており、読み取り側のセッションが低速の SER MGT ポートを介して接続されている場合、読み取り側のセッションの容量を超過する速度でコンソールの出力が生成される可能性があります。このようなコンソールデータの損失の可能性を低減するため、コンソールの各読み取り側セッションには 65535 文字のバッファ領域が割り当てられます。

▼ console コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、`c` レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「`userperm`」を参照してください。

1. `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> console option
```

`option` は、必要に応じて使用するオプションです。

注 – 表示される Solaris システムプロンプトは、ホストサーバのデフォルトの Solaris シェルによって異なります。xxvi ページの「シェルプロンプトについて」を参照してください。

2. Solaris システムプロンプトから `sc>` プロンプトに戻るには、エスケープ文字シーケンスを入力します。

デフォルトシーケンスは、`#.` (ハッシュとピリオド) です。

セッションに使用中のコンソールがない場合、ALOM CMT は次の情報を表示します。

```
sc> showusers
Username      Connection    Login Time    Client IP Addr  Console
-----
admin         serial       Nov 13 6:19
jeff          net-1        Nov 13 6:20   xxx.xxx.xxx.xxx
sc> console
Enter #. to return to ALOM.
%
```

別のセッションに書き込みロックが設定されている場合、ALOM CMT は次の例に示すように、console コマンドでは別のメッセージを返します。

```
sc> console
Console session already in use. [view mode]
Enter #. to return to ALOM.
%
```

別のセッションに書き込みロックが設定されている場合に、-f オプションを指定して console コマンドを使用すると、ALOM CMT は console コマンドで次のようなメッセージを返します。

```
sc> console -f
Warning: User <admin> currently has write permission to this
console and forcibly removing them will terminate any current write
actions and all work will be lost. Would you like to continue?
[y/n]
```

console コマンドオプション

console コマンドでは、オプション -f のみを使用します。このオプションは、ほかのユーザーの書き込みロックを強制的に解放し、自分のコンソールセッションに割り当てます。これにより、ほかのユーザーのコンソールセッションは読み取り専用モードになります。このオプションを使用すると、次のメッセージが返されます。

```
Warning: User username currently has write permission to this
console and forcibly removing them will terminate any current write
actions and all work will be lost. Would you like to continue
[y/n]?
```

同時に、書き込みロックが設定されているユーザーは、次のメッセージを受け取ります。

Warning: Console connection forced into read-only mode.

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 113 ページの「アクセス権レベル」
- 118 ページの「シリアル管理ポート変数」

consolehistory

`consolehistory` コマンドを使用すると、ALOM CMT バッファに記録されているシステムコンソールメッセージを表示できます。次のシステムコンソールログを参照できます。

- `boot` ログ – 最後にリセットしたあとでホストサーバから受信した POST、OpenBoot PROM、および Solaris の起動メッセージが含まれています。
- `run` ログ – POST、OpenBoot PROM、および Solaris の起動メッセージの最新のコンソール出力が含まれています。また、このログには、ホストサーバのオペレーティングシステムの出力も記録されています。

各バッファには、最大 64K バイトの情報を含めることができます。

ALOM CMT はホストサーバのリセットを認識すると、Solaris OS が起動および動作中であることがサーバによって通知されるまで、`boot` ログバッファに起動情報および初期化データを書き込みます。

▼ consolehistory コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、c レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「`userperm`」を参照してください。

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

`sc> consolehistory logname options`

`logname` は、表示するログの名前 (`boot` または `run`) です。オプションを指定せずに `consolehistory` コマンドを入力すると、`run` ログの末尾の 20 行が返されます。

注 – コンソールログに記録されるタイムスタンプには、サーバの時刻が反映されています。これらのタイムスタンプには現地時刻が反映されており、ALOM CMT のイベントログでは協定世界時 (UTC) が使用されます。Solaris OS のシステム時刻は ALOM CMT の時刻から完全に独立しています。

consolehistory コマンドオプション

consolehistory コマンドの両方のログでは、次のオプションを使用します。-g オプションは、-b、-e、または -v オプションと組み合わせて使用できます。-g オプションを指定しない場合、画面出力は一時停止しません。

表 6-4 consolehistory コマンドオプション

オプション	説明
-b <i>lines</i>	ログバッファの先頭から表示する行数を指定します。次に例を示します。 consolehistory boot -b 10
-e <i>lines</i>	ログバッファの末尾から表示する行数を指定します。このコマンドの実行中に新しいデータがログに記録された場合、この新しいデータは画面出力に追加されます。次に例を示します。 consolehistory run -e 15
-g <i>lines</i>	画面出力を一時停止する前に表示する行数を指定します。一時停止するたびに、「Paused: Press 'q' to quit, any other key to continue」というメッセージが表示されます。次に例を示します。 consolehistory run -v -g 5
-v	指定したログのすべての内容を表示します。
boot	boot ログを指定します。
run	run ログを指定します。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

disablecomponent

disablecomponent コマンドを使用すると、コンポーネントを **asr-db** ブラックリストに追加できます。これにより、このコンポーネントはシステム構成から削除されます。パラメータを指定せずに disablecomponent コマンドを使用すると、すべての **asr-key** が表示されます。

注 – サーバでは、サーバの電源を再投入するか、サーバをリセットするまで、ブラックリストに記載されているコンポーネントが継続して使用されます。

▼ disablecomponent コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> disablecomponent asr-device
```

次に例を示します。

```
sc> disablecomponent MB/CMP0/CH3/R0/D1
sc> showcomponent
Keys:
MB/CMP0/CORE0
...
    MB/CMP0/P0
...
    MB/CMP0/CH0/R0/D0
    MB/CMP0/CH0/R0/D1
    MB/CMP0/CH0/R1/D0
    MB/CMP0/CH0/R1/D1
    MB/CMP0/CH1/R0/D0
    MB/CMP0/CH1/R0/D1
    MB/CMP0/CH1/R1/D0
    MB/CMP0/CH1/R1/D1
    MB/CMP0/CH2/R0/D0
    MB/CMP0/CH2/R0/D1
    MB/CMP0/CH2/R1/D0
    MB/CMP0/CH2/R1/D1
    MB/CMP0/CH3/R0/D0
    MB/CMP0/CH3/R0/D1
    MB/CMP0/CH3/R1/D0
    MB/CMP0/CH3/R1/D1
    IOBD/PCIEa
    IOBD/PCIEb
    PCIX1
    PCIX0
    PCIE2
    PCIE1
    PCIE0
    TTYA

ASR state:  Disabled Devices
            MB/CMP0/CH3/R0/D1 : <no reason>
```

enablecomponent

enablecomponent コマンドを使用すると、コンポーネントを **asr-db** ブラックリストから削除できます。これにより、このコンポーネントはシステム構成に戻されます。パラメータを指定せずに enablecomponent コマンドを使用すると、現在ブラックリストに登録されているすべての **asr-key** が表示されます。

注 – サーバの電源を再投入するか、サーバをリセットするまで、コンポーネントは使用されません。

▼ enablecomponent コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> enablecomponent asr-device
```

次に例を示します。

```
sc> enablecomponent MB/CMP0/CH3/R0/D1
sc> showcomponent
Keys:
    MB/CMP0/CORE0
    ...
    MB/CMP0/P0
    ...
    MB/CMP0/CH0/R0/D0
    MB/CMP0/CH0/R0/D1
    MB/CMP0/CH0/R1/D0
    MB/CMP0/CH0/R1/D1
    MB/CMP0/CH1/R0/D0
    MB/CMP0/CH1/R0/D1
    MB/CMP0/CH1/R1/D0
    MB/CMP0/CH1/R1/D1
    MB/CMP0/CH2/R0/D0
    MB/CMP0/CH2/R0/D1
    MB/CMP0/CH2/R1/D0
    MB/CMP0/CH2/R1/D1
    MB/CMP0/CH3/R0/D0
    MB/CMP0/CH3/R0/D1
    MB/CMP0/CH3/R1/D0
    MB/CMP0/CH3/R1/D1
    IOBD/PCIEa
    IOBD/PCIEb
    PCIX1
    PCIX0
    PCIE2
    PCIE1
    PCIE0
    TTYA

ASR state: clean
```

flashupdate

flashupdate コマンドを使用すると、指定した場所からすべてのシステムファームウェアを更新できます。コマンドオプションとして入力する値では、ダウンロードするサイトの IP アドレス、およびファームウェアイメージが配置されているパスを指定します。

▼ flashupdate コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

このコマンドを使用するには、次の情報が必要となります。

- ファームウェアイメージをダウンロードする FTP サーバの IP アドレス
- イメージが格納されているパス
- プロンプトで入力するユーザー名およびパスワード

この情報が不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。手順を開始する前に、仮想キースイッチがロック位置に設定されていないことを確認します。仮想キースイッチの詳細は、81 ページの「setkeyswitch」を参照してください。

1. `sc>` プロンプトで、flashupdate コマンドを入力します。

ipaddr をファームウェアイメージが格納されているサーバの IP アドレスに置き換え、*pathname* をパス名に置き換えます。

```
sc> flashupdate -s ipaddr -f pathname
```

2. プロンプトが表示されたあと、ユーザー名およびパスワードを入力します。

ユーザー名およびパスワードは、ALOM CMT のユーザー名およびパスワードではなく、UNIX または LDAP のユーザー名およびパスワードに基づいています。

ユーザー名およびパスワードを入力すると、ダウンロード処理が続行されます。ダウンロード処理の進行中に、連続したピリオドが画面に表示されます。

ダウンロード処理が終了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Update complete. Reset device to use new image.
```

3. `resetsc` コマンドを入力して、ALOM CMT を再起動します。

詳細は、76 ページの「resetsc」を参照してください。

次に例を示します。123.45.67.89 を有効な IP アドレスに置き換えます。

```
sc> flashupdate -s 123.45.67.89 -f filename

SC Alert: System poweron is disabled.
Username: username
Password: *****
.....
.....
.....

Update complete. Reset device to use new software.

SC Alert: SC firmware was reloaded
```

flashupdate コマンドオプション

flashupdate コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 6-5 flashupdate コマンドオプション

オプション	説明
-s <i>ipaddr</i>	<i>ipaddr</i> にあるサーバからファームウェアイメージをダウンロードするように ALOM CMT に指示します。 <i>ipaddr</i> には、123.456.789.012 などの標準的なドット表記で IP アドレスを指定します。
-f <i>pathname</i>	イメージファイルの場所を ALOM CMT に指示します。 <i>pathname</i> は、イメージファイルの名前を含めたフルディレクトリパスです。
-v	詳細な出力を表示します。このオプションを指定すると、ダウンロード処理の進行状況に関する詳細な情報が表示されます。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

help

help コマンドを使用すると、すべての ALOM CMT コマンドとその構文のリストを表示できます。

▼ help コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- 次のいずれかの処理を実行します。

- 使用可能なすべてのコマンドのヘルプを表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc > help
```

- 特定のコマンドのヘルプを表示するには、sc> プロンプトで、**help** とコマンド名を入力します。

```
sc> help command-name
```

command-name は、特定のコマンド名です。次に例を示します。

```
sc> help poweroff  
This command shuts down the managed system to the powered off  
state.  
sc>
```

- システムコントローラのパラメータのヘルプを表示するには、sc> プロンプトで、**help setsc** とパラメータ名を入力します。

```
sc> help setsc parameter
```

parameter は、システムコントローラのパラメータです。次に例を示します。

```
sc> help setsc if_network  
if_network  
  
Enables or disables the SC network interface. The default is true.  
  
sc>
```


次の例に、コマンドを指定せずに help を入力した場合に表示される出力を示します。

コード例 6-1 help コマンドの出力例

```
sc> help
Available commands
-----
Power and Reset control commands:
    powercycle [-y] [-f]
    poweroff [-y] [-f]
    poweron [-c] [FRU]
    reset [-y] [-c]
Console commands:
    break [-D] [-y] [-c]
    console [-f]
    consolehistory [-b lines|-e lines|-v] [-g lines] [boot|run]
Boot control commands:
    bootmode [normal|reset_nvram|bootscript="string"]
    setkeyswitch [-y] <normal|stby|diag|locked>
    showkeyswitch
Locator LED commands:
    setlocator [on|off]
    showlocator
Status and Fault commands:
    clearasrdb
    clearfault <UUID>
    disablecomponent [asr-key]
    enablecomponent [asr-key]
    removefru [-y] <FRU>
    setfru -c [data]
    showcomponent [asr-key]
    showenvironment
    showfaults [-v]
    showfru [-g lines] [-s|-d] [FRU]
    showlogs [-b lines|-e lines|-v] [-g lines] [-p logtype[r|p]]
    shownetwork [-v]
    showplatform [-v]
ALOM Configuration commands:
    setdate <[mmdd]HHMM | mmddHHMM[cc]yy[.SS]>
    setsc [param] [value]
    setupsc
    showdate
    showhost [version]
    showsc [-v] [param]
```

コード例 6-1 help コマンドの出力例 (続き)

```
ALOM Administrative commands:
  flashupdate <-s IPaddr -f pathname> [-v]
  help [command]
  logout
  password
  resetsc [-y]
  restartssh [-y]
  setdefaults [-y] [-a]
  ssh-keygen [-l|-r] <-t {rsa|dsa}>
  showusers [-g lines]
  useradd <username>
  userdel [-y] <username>
  userpassword <username>
  userperm <username> [c][u][a][r]
  usershow [username]
```

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

logout

logout コマンドを使用すると、ALOM CMT セッションを終了し、シリアル接続またはネットワーク接続を終了できます。

▼ logout コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> logout
```

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

password

password コマンドを使用すると、現在ログインしているアカウントの ALOM CMT パスワードを変更できます。このコマンドは、UNIX の passwd(1) コマンドと同様に機能します。

▼ password コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用すると、自分の ALOM CMT アカウントのパスワードを変更できます。このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。管理者がユーザーアカウントのパスワードを変更する場合は、userpassword コマンドを使用します。詳細は、112 ページの「userpassword」を参照してください。

- sc> プロンプトで、password を入力します。

このコマンドを実行すると、ALOM CMT によって現在のパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。パスワードを正しく入力すると、新しいパスワードの入力を求めるプロンプトが 2 回表示されます。

次に例を示します。

```
sc> password
password: Changing password for username
Enter current password: *****
Enter new password: *****
Re-enter new password: *****
sc>
```

パスワードの制限

パスワードには、次の制限があります。

- 6 ～ 8 文字にする必要があります。
- 2 つ以上の英字 (大文字または小文字) および 1 つ以上の数値または特殊文字が含まれている必要があります。
- ログイン名、ログイン名の逆、またはログイン名の文字を並び替えたものとは異なる必要があります。比較には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。
- 古いパスワードと 3 字以上異なっている必要があります。比較には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

powercycle

ホストシステムで電源の再投入を実行します。powercycle は、poweroff に続けて poweron を実行するように定義されています。ホストシステムで poweroff コマンドが実行され、指定した秒数を待機したあとで poweron コマンドが実行されます。

▼ powercycle コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、r レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> powercycle [-y] [-f]
```

表 6-6 powercycle コマンドオプション

オプション	説明
-y	プロンプトを表示せずに処理を続行するように ALOM CMT に指示します。
-f	ホストの状態に関係なく、強制的に即時停止を行います。なんらかの理由により Solaris OS の停止が失敗した場合は、このオプションを使用して、システムの電源を強制的に即時に切ってください。このコマンドでは、システムの正常な停止、またはファイルシステムの同期化は行われず、処理した内容が失われる場合があります。システムの正常な停止、またはファイルシステムの同期化は行われません。

poweroff

poweroff コマンドを使用すると、ホストサーバの電源を切ってスタンバイモードにすることができます。サーバの電源がすでに切断されている場合、このコマンドは機能しません。ただし、ALOM CMT はサーバのスタンバイ電力を使用するため、サーバの電源が切断されている場合でも ALOM CMT は機能し続けます。サーバがスタンバイモードのときには、一部の環境情報は参照できません。

▼ poweroff コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、`r` レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「`userperm`」を参照してください。

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> poweroff options
```

option は、必要に応じて使用するオプションです。

オプションを指定せずに `poweroff` コマンドを入力すると、Solaris OS の正常な停止が開始されます。これは、Solaris コマンドの `shutdown`、`init`、または `uadmin` と類似しています。

`poweroff` コマンドでシステムを完全に停止するまで最大 65 秒かかる場合があります。これは、正常な停止が完了するまで ALOM CMT が待機してからシステムの電源を切るためです。

注 – `poweroff` コマンドでシステムを停止したあとで、ALOM CMT は次のメッセージを表示します。

```
SC Alert: Host system has shut down.
```

このメッセージが表示されるまで待機してから、システムの電源を再投入してください。

poweroff コマンドオプション

poweroff コマンドでは、次のオプションを使用します。これら 2 つのオプションは一緒に使用できます。詳細は、44 ページの「コマンドオプションを入力する」を参照してください。

表 6-7 poweroff コマンドオプション

オプション	説明
-y	プロンプトを表示せずに処理を続行するように ALOM CMT に指示します。
-f	ホストの状態に関係なく、強制的に即時停止を行います。なんらかの理由により Solaris OS の停止が失敗した場合は、このオプションを使用して、システムの電源を強制的に即時に切ってください。このコマンドでは、システムの正常な停止、またはファイルシステムの同期化は行われず、処理した内容が失われる場合があります。システムの正常な停止、またはファイルシステムの同期化は行われません。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 49 ページの「bootmode」
- 72 ページの「poweron」

poweron

poweron コマンドを使用すると、サーバの電源を入れることができます。ホストサーバの電源がすでに入っている場合、このコマンドは機能しません。

▼ poweron コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、r レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

sc> poweron [fru] [-c]

注 – poweroff コマンドを使用してホストサーバの電源を切ると、ALOM CMT は次のメッセージを表示します。

SC Alert: Host system has shut down.

このメッセージが表示されるまで待機してから、システムの電源を再投入してください。

poweron コマンドオプション

poweron コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 6-8 poweron コマンドオプション

オプション	説明
<i>fru</i>	FRU の電源は個別に入れることはできません。このオプションは、将来使用できるようになる予定です。
<i>-c</i>	処理を実行したあと、システムコンソールに接続するよう ALOM CMT に指示します。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 49 ページの「bootmode」
- 70 ページの「poweroff」
- 73 ページの「removefru」

removefru

removefru コマンドを使用すると、現場交換可能ユニット (FRU) を取り外すための準備を行うことができます。

▼ removefru コマンドを使用する

- SC> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

SC> **removefru** fru

fru は、取り外すための準備を行う FRU の名前です。

たとえば、電源装置 0 を取り外すための準備を行うには、次のコマンドを入力します。

```
sc> removefru PS0
```

注 – SPARC Enterprise T1000 サーバでは、PS0 を指定して `removefru` コマンドを実行しようとする、次のエラーメッセージが生成されます。

```
sc> removefru PS0  
Could not remove <PS0>.  
System only has one power supply.
```

removefru コマンドオプション

`removefru` コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 6-9 `removefru` コマンドオプション

オプション	説明
<i>fru</i>	取り外すための準備を行う FRU の名前
-y	確認の質問を表示せずに処理を続行するように ALOM CMT に指示します。

fru オプションを指定すると、指定した FRU の取り外しを準備できます。FRU の取り外しの準備ができていかどうかを示すメッセージが表示されます。

表 6-10 `removefru` の FRU 値

値	説明
PS0	ホストサーバの電源装置 0 の取り外す準備をします。
PS1	ホストサーバの電源装置 1 の取り外す準備をします。

reset

reset コマンドを使用すると、ホストサーバを強制的に即時にリセットできます。サーバは、bootmode コマンドで必要に応じて指定したオプションを使用して再起動します。詳細は、49 ページの「bootmode」を参照してください。reset ではシステムの正常な停止を行わないため、データが失われる可能性があります。できるかぎり、Solaris OS からサーバをリセットしてください。

OpenBoot PROM 変数 auto-boot? が false に設定されている場合は、サーバで Solaris OS を起動して処理を再開する必要があることがあります。

▼ reset コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、r レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> reset options
```

reset コマンドオプション

reset コマンドでは、次の 2 つのオプションを使用します。これら 2 つのオプションは一緒に使用できます。詳細は、43 ページの「ALOM CMT コマンドシェルの概要」を参照してください。

表 6-11 reset コマンドオプション

オプション	説明
-c	処理を実行したあと、システムコンソールに接続するよう ALOM CMT に指示します。
-y	プロンプトを表示せずに処理を続行するように ALOM CMT に指示します。

次に例を示します。

```
sc> reset -c
Are you sure you want to reset the system [y/n]? n
```

```
sc> reset -yc
Enter #. to return to ALOM.

SC Alert: SC Request to Reset Host.
```

```
sc> reset -c
Are you sure you want to reset the system [y/n]? y
Enter #. to return to ALOM.

SC Alert: SC Request to Reset Host.
```

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 113 ページの「アクセス権レベル」

resetsc

resetsc コマンドを使用すると、システムコントローラのハードリセットを実行できます。これにより、現在のすべての ALOM CMT セッションが終了します。

▼ resetsc コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

1. リセットを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
sc> resetsc option
```

option には、必要に応じて -y を指定します。

次のメッセージが表示されます。

```
Are you sure you want to reset the SC [y/n]?
```

2. 処理を続行するには y を、システムコントローラをリセットせずに終了するには n を入力します。

resetsc コマンドオプション

resetsc コマンドでは、オプション `-y` のみを使用します。

`-y` オプションを使用すると、最初にリセットするかどうかの確認なしでリセットが
続行されます。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 113 ページの「アクセス権レベル」

restartssh

ssh-keygen コマンドを使用して新しいホスト鍵を生成したあと、restartssh コ
マンドを使用して SSH サーバを再起動します。これによって、サーバの専用データ
構造がメモリーにふたたび読み込まれます。

▼ restartssh コマンドを使用する

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> restartssh option
```

`options` には、表 6-12 に示すオプションを指定します。

コマンドオプション

restartssh コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 6-12 restartssh コマンドオプション

オプション	説明
<code>-y</code>	確認のプロンプトを表示しません。

関連情報

- 109 ページの「ssh-keygen」

setdate

setdate コマンドを使用すると、現在の ALOM CMT の日付および時刻を設定できます。

サーバの起動時または実行中に setdate コマンドを使用すると、次のエラーメッセージが返されます。

```
sc> setdate 1200  
Error: Unable to set clock while managed system is running.
```

注 – setdate コマンドは、サーバの電源が切断されている場合にのみ機能します。

▼ setdate コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setdate mmd dHHMMccyy.SS
```

このコマンドは、月、日、時、分、世紀、年、および秒の設定を受け入れます。月、日、および年を省略すると、現在の値がデフォルトとして適用されます。また、このとき、世紀の値および秒の値を省略することもできます。

注 – サーバでは現地時刻が使用されますが、ALOM CMT では協定世界時 (UTC) が使用されます。ALOM CMT は、タイムゾーンの変換または夏時間の変更には対応していません。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。

次の例では、現在の年の 9 月 12 日午後 9 時 45 分 (協定世界時) に時刻を設定します。

```
sc> setdate 09122145  
MON SEP 12 21:45:00 2005 UTC
```

次の例では、現在の月、日、および年の午後 9 時 45 分 (協定世界時) に時刻を設定します。

```
SC> setdate 2145
MON SEP 12 21:45:00 2005 UTC
```

setdate コマンドオプション

setdate コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 6-13 setdate コマンドオプション

オプション	説明
mm	月
dd	日
HH	時 (24 時間制)
MM	分
.SS	秒
cc	世紀 (年の上 2 桁)
yy	年 (年の下 2 桁)

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

setdefaults

setdefaults コマンドを使用すると、すべての ALOM CMT 構成変数を出荷時のデフォルト値に戻すことができます。-a オプションを指定すると、ALOM CMT 構成とすべてのユーザー情報が出荷時のデフォルト値に戻されます。

setdefaults コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。アクセス権レベルのコマンドを実行するには、パスワードを設定する必要があります。

1. `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setdefaults options
```

`options` は、必要に応じて使用するオプションです。
次に例を示します。

```
sc> setdefaults  
Are you sure you want to reset the SC configuration [y/n]? y
```

```
sc> setdefaults -a  
Are you sure you want to reset the SC configuration and users  
[y/n]? y
```

2. `resetsc` コマンドを入力して、ALOM を再起動します。
ALOM CMT を再起動すると、出荷時のデフォルト値が使用されます。

setdefaults コマンドオプション

`setdefaults` コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 6-14 `setdefaults` コマンドオプション

オプション	説明
-a	すべての ALOM CMT 構成変数を出荷時のデフォルトに設定し、ユーザーアカウントおよび構成情報もクリアします。パスワードが設定されていない admin ユーザーアカウントのみがシステムに残ります。
-y	最初に「Are you sure you want to reset the SC configuration?」という確認の質問を表示せずに処理を続行するように ALOM CMT に指示します。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

setfru

setfru コマンドを使用すると、すべての FRU PROM に情報を格納できます。

▼ setfru コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setfru -c data
```

-c オプションを単独で使用する、すべての FRU PROM から以前のデータが消去されます。この情報は、showfru コマンドを使用して表示できます。詳細は、95 ページの「showfru」を参照してください。

setkeyswitch

setkeyswitch コマンドを使用すると、システムの仮想キースイッチの位置を制御できます。

▼ setkeyswitch コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。アクセス権レベルのコマンドを実行するには、パスワードを設定する必要があります。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setkeyswitch option
```

setkeyswitch コマンドオプション

setkeyswitch コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 6-15 setkeyswitch コマンドオプション

オプション	説明
normal	システムは、システム自体の電源を入れて、起動処理を開始できます。
stby	システムは、システム自体の電源を入れることができません。
diag	システムは、診断変数の事前設定値を使用して全体の障害カパレージを表示し、システム自体の電源を入れることができます (121 ページの「構成変数の説明」を参照)。このオプションは、設定した診断変数の値よりも優先されます。ユーザーが設定可能な診断制御変数については、121 ページの「診断制御変数」を参照してください。
locked	システムは、システム自体の電源を入れることができますが、フラッシュデバイスの更新または break コマンドの使用は許可されません。
-y	仮想キースイッチをスタンバイ (stby) に設定すると、サーバの電源が切断されます。ホストサーバの電源を切る前に、ALOM CMT によって電源切断の確認が求められます。-y フラグを設定すると、確認に対して yes が選択されます。*

* サーバの電源を切るには r アクセス権が必要です。一方、setkeyswitch コマンドでは a アクセス権が必要です。

setlocator

setlocator コマンドを使用すると、ホストサーバのロケータ LED をオンまたはオフに切り替えることができます。ロケータ LED の詳細は、使用しているシステムの管理マニュアルを参照してください。

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setlocator option
```

option は、on または off のいずれかです。

次に例を示します。

```
SC> setlocator on  
SC> setlocator off
```

ロケータ LED の状態を表示するには、showlocator コマンドを使用します。詳細は、100 ページの「showlocator」を参照してください。

setlocator コマンドオプション

setlocator コマンドでは、on および off の 2 つのオプションを使用します。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 100 ページの「showlocator」

setsc

ALOM CMT ソフトウェアはホストサーバにプリインストールされているため、サーバの電源を入れるとすぐに実行できます。ALOM CMT 構成をカスタマイズする場合は、setupsc コマンドを使用して初期構成を設定します。ALOM CMT の初期構成を設定したあとで設定を更新する必要がある場合は、setsc コマンドを使用します。構成の詳細は、13 ページの「ALOM CMT の構成手順」を参照してください。setupsc コマンドの詳細は、84 ページの「setupsc」を参照してください。

▼ setsc コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

このコマンドを実行する場合は、構成テーブルが存在し、変更する予定の各構成変数に指定されている値に間違いがないことを確認してください。詳細は、19 ページの「構成ワークシート」および 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」を参照してください。

- SC> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
SC> setsc variable value
```

variable および *value* を構成変数とその変数の値に置き換えます。

次に例を示します。

```
sc> setsc netsc_ipaddr xxx.xxx.xxx.xxx
```

xxx.xxx.xxx.xxx は、有効な IP アドレスです。

構成する変数に複数の値が必要な場合は、空白文字で区切って値を入力します。
setsc コマンドはコマンドプロンプトだけでなくスクリプトでも使用されるため、
変数に値を入力しても情報は返されません。

構成変数を指定せずに setsc を入力すると、構成可能な変数のリストが返されます。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

setupsc

setupsc コマンドを使用すると、ALOM CMT をカスタマイズできます。

このコマンドを実行する場合は、構成ワークシートが存在し、変更する予定の各構成変数に指定されている値に間違いがないことを確認します。詳細は、19 ページの「構成ワークシート」および 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」を参照してください。

▼ setupsc コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

1. sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

設定スクリプトが開始されます。

2. スクリプトを終了するには、次のいずれかの処理を実行します。

- スクリプトを終了し、行なった変更を保存するには、**Ctrl-Z** を押します。
- 変更を保存せずにスクリプトを終了するには、**Ctrl-C** を押します。

たとえば、スクリプトは次のように開始されます。

```
SC> setupsc  
Entering interactive script mode. To exit and discard changes to  
that point, use Ctrl-C or to exit and save changes to that point,  
use Ctrl-Z.
```

3. 対話型の質問に答えて、ALOM CMT をカスタマイズします。

スクリプトでは、一連の構成変数を使用可能にするかどうか尋ねられます。詳細は、117 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」を参照してください。

- 一連の変数を使用可能にしてその設定を構成するには、**y** を入力します。
- 括弧内に表示されるデフォルト値を受け入れるには、**Return** を押します。
- 一連の変数を使用不可にして次に進むには、**n** を入力します。

次に例を示します。

```
Should the SC network interface be enabled [y]?
```

y を入力するか、**Return** を押してデフォルト値を受け入れた場合は、**setupsc** スクリプトによってその変数の値の入力を求めるプロンプトが表示されます。このスクリプトでは、次の種類の変数を設定できます。

- 119 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 119 ページの「ネットワーク管理および通知変数」
- 120 ページの「システムユーザー変数」

注 – シリアルインタフェース変数を設定または調整する必要はありません。これらの変数は、ホストサーバで自動的に設定されます。

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」
- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 19 ページの「構成ワークシート」
- 13 ページの「ALOM CMT の構成」

showcomponent

showcomponent コマンドを使用すると、システムコンポーネントおよびそのテスト状態を表示できます。asr-key を指定すると、そのキーの情報のみが表示されます。指定しない場合は、asr データベース全体が表示されます。-h (ヘルプ) オプションを指定すると、すべての有効な asr-key とその使用状況が表示されます。

▼ showcomponent コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

- SC> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
SC> showcomponent
```

次に例を示します。

```
SC> showcomponent
Keys:

    MB/CMP0/P0
    ...
    MB/CMP0/CH0/R0/D0
    MB/CMP0/CH0/R0/D1
    MB/CMP0/CH0/R1/D0
    MB/CMP0/CH0/R1/D1
    MB/CMP0/CH1/R0/D0
    MB/CMP0/CH1/R0/D1
    MB/CMP0/CH1/R1/D0
    MB/CMP0/CH1/R1/D1
    MB/CMP0/CH2/R0/D0
    MB/CMP0/CH2/R0/D1
    MB/CMP0/CH2/R1/D0
    MB/CMP0/CH2/R1/D1
    MB/CMP0/CH3/R0/D0
    MB/CMP0/CH3/R0/D1
    MB/CMP0/CH3/R1/D0
    MB/CMP0/CH3/R1/D1
    IOBD/PCIEa
    IOBD/PCIEb
    PCIX1
    PCIX0
    PCIE2
    PCIE1
    PCIE0
    TTYA

ASR state: clean
```

showdate

showdate コマンドを使用すると、現在の ALOM CMT の日付および時刻を表示できます。

ALOM CMT の時刻は現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。

▼ showdate コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showdate
```

次に例を示します。

```
sc> showdate
MON SEP 16 21:45:00 2002 UTC
```

ALOM CMT の日付および時刻を変更するには、`setdate` コマンドを使用します。詳細は、78 ページの「`setdate`」を参照してください。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

showenvironment

`showenvironment` コマンドを使用すると、サーバの環境状態のスナップショットを表示できます。このコマンドで表示可能な情報には、システムの温度、ハードドライブの状態、電源装置とファンの状態、フロントパネルの LED の状態、電圧センサー、電流センサーなどがあります。出力形式は、UNIX コマンドの `prtdiag (1m)` と同じです。

▼ showenvironment コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showenvironment
```

サーバがスタンバイモードの場合は、一部の環境情報が使用できないことがあります。

次に、ホストサーバの電源が入っている場合の出力例を示します。電源装置やハードドライブの数など、次の例に示す情報の一部は、使用しているシステムとは異なる場合があります。

コード例 6-2 SPARC Enterprise T2000 サーバの `showenvironment` コマンドの出力例 (電源投入時)

```
sc> showenvironment

===== Environmental Status =====

-----
System Temperatures (Temperatures in Celsius):
-----
Sensor                Status  Temp LowHard LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft HighHard
-----
PDB/T_AMB             OK      24   -10    -5     0     45     50     55
MB/T_AMB              OK      28   -10    -5     0     45     50     55
MB/CMP0/T_TCORE      OK      44   -10    -5     0     95    100    105
MB/CMP0/T_BCORE      OK      44   -10    -5     0     95    100    105
IOBD/IOB/TCORE       OK      43   -10    -5     0     95    100    105
IOBD/T_AMB           OK      29   -10    -5     0     45     50     55

-----

System Indicator Status:
-----
SYS/LOCATE            SYS/SERVICE          SYS/ACT
OFF                   OFF                   ON
-----
SYS/REAR_FAULT        SYS/TEMP_FAULT        SYS/TOP_FAN_FAULT
OFF                   OFF                   OFF
-----

-----
System Disks:
-----
Disk   Status                Service  OK2RM
-----
HDD0   OK                      OFF      OFF
HDD1   NOT PRESENT             OFF      OFF
HDD2   NOT PRESENT             OFF      OFF
HDD3   NOT PRESENT             OFF      OFF
-----

Fans Status:
```

コード例 6-2 SPARC Enterprise T2000 サーバの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時)

Fans (Speeds Revolution Per Minute):

Sensor	Status	Speed	Warn	Low
FT0/FM0	OK	3586	--	1920
FT0/FM1	OK	3525	--	1920
FT0/FM2	OK	3650	--	1920
FT2	OK	2455	--	1920

Voltage sensors (in Volts):

Sensor	Status	Voltage	LowSoft	LowWarn	HighWarn	HighSoft
MB/V_+1V5	OK	1.48	1.27	1.35	1.65	1.72
MB/V_VMEML	OK	1.79	1.53	1.62	1.98	2.07
MB/V_VMEMR	OK	1.78	1.53	1.62	1.98	2.07
MB/V_VTTL	OK	0.89	0.76	0.81	0.99	1.03
MB/V_VTTR	OK	0.89	0.76	0.81	0.99	1.03
MB/V_+3V3STBY	OK	3.39	2.80	2.97	3.63	3.79
MB/V_VCORE	OK	1.31	1.18	1.20	1.39	1.41
IOBD/V_+1V5	OK	1.48	1.27	1.35	1.65	1.72
IOBD/V_+1V8	OK	1.79	1.53	1.62	1.98	2.07
IOBD/V_+3V3MAIN	OK	3.36	2.80	2.97	3.63	3.79
IOBD/V_+3V3STBY	OK	3.41	2.80	2.97	3.63	3.79
IOBD/V_+1V	OK	1.11	0.93	0.99	1.21	1.26
IOBD/V_+1V2	OK	1.17	1.02	1.08	1.32	1.38
IOBD/V_+5V	OK	5.15	4.25	4.50	5.50	5.75
IOBD/V_-12V	OK	-12.04	-13.80	-13.20	-10.80	-10.20
IOBD/V_+12V	OK	12.18	10.20	10.80	13.20	13.80
SC/BAT/V_BAT	OK	3.04	--	2.25	--	--

System Load (in amps):

Sensor	Status	Load	Warn	Shutdown
MB/I_VCORE	OK	34.640	80.000	88.000
MB/I_VMEML	OK	7.560	60.000	66.000
MB/I_VMEMR	OK	6.420	60.000	66.000

Current sensors:

コード例 6-2 SPARC Enterprise T2000 サーバの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時)

Sensor		Status
IOBD/I_USB0	OK	
IOBD/I_USB1	OK	
FIOBD/I_USB	OK	

Power Supplies:						
Supply	Status	Underspeed	Overtemp	Overvolt	Undervolt	Overcurrent
PS0	OK	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PS1	OK	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

次に、ホストサーバの SPARC Enterprise T1000 の電源が入っている場合の出力例を示します。

コード例 6-3 SPARC Enterprise T1000 サーバの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時)

SC> showenvironment								
===== Environmental Status =====								
----- System Temperatures (Temperatures in Celsius):								

Sensor	Status	Temp	LowHard	LowSoft	LowWarn	HighWarn	HighSoft	HighHard

MB/T_AMB	OK	26	-10	-5	0	45	50	55
MB/CMP0/T_TCORE	OK	42	-10	-5	0	85	90	95
MB/CMP0/T_BCORE	OK	42	-10	-5	0	85	90	95
MB/IOB/T_CORE	OK	36	-10	-5	0	95	100	105

System Indicator Status:								

SYS/LOCATE		SYS/SERVICE		SYS/ACT				
OFF		OFF		ON				

Fans (Speeds Revolution Per Minute):								

コード例 6-3 SPARC Enterprise T1000 サーバの showenvironment コマンドの出力例 (電源投入時)

Sensor	Status	Speed	Warn	Low
FT0/F0	OK	6653	2240	1920
FT0/F1	OK	6653	2240	1920
FT0/F2	OK	6653	2240	1920
FT0/F3	OK	6547	2240	1920

Sensor	Status	Voltage	LowSoft	LowWarn	HighWarn	HighSoft
MB/V_VCORE	OK	1.31	1.20	1.24	1.36	1.39
MB/V_VMEM	OK	1.78	1.69	1.72	1.87	1.90
MB/V_VTT	OK	0.89	0.84	0.86	0.93	0.95
MB/V_+1V2	OK	1.19	1.09	1.11	1.28	1.30
MB/V_+1V5	OK	1.49	1.36	1.39	1.60	1.63
MB/V_+2V5	OK	2.50	2.27	2.32	2.67	2.72
MB/V_+3V3	OK	3.29	3.06	3.10	3.49	3.53
MB/V_+5V	OK	5.02	4.55	4.65	5.35	5.45
MB/V_+12V	OK	12.18	10.92	11.16	12.84	13.08
MB/V_+3V3STBY	OK	3.31	3.13	3.16	3.53	3.59

Sensor	Status	Load	Warn	Shutdown
MB/I_VCORE	OK	21.520	80.000	88.000
MB/I_VMEM	OK	1.740	60.000	66.000

Sensor	Status
MB/BAT/V_BAT	OK

Supply	Status	Underspeed	Overtemp	Overvolt	Undervolt	Overcurrent
PS0	OK	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

次に、ホストサーバの電源が切れている場合の出力例を示します。

コード例 6-4 showenvironment コマンドの出力例 (電源切断時)

```
SC> showenvironment

===== Environmental Status =====

-----
System Temperatures (Temperatures in Celsius):
-----
Sensor          Status  Temp LowHard LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft HighHard
-----
CPU temperature information cannot be displayed when System power is off.
PDB/T_AMB       OK      24    -10    -5     0      45     50     55

-----
System Indicator Status:
-----
SYS/LOCATE      SYS/SERVICE      SYS/ACT
OFF             OFF              STANDBY BLINK
-----
SYS/REAR_FAULT  SYS/TEMP_FAULT    SYS/TOP_FAN_FAULT
OFF            OFF              OFF
-----

Disk Status information cannot be displayed when System power is off.

Fan Status information cannot be displayed when System power is off.

Voltage Rail Status information cannot be displayed when System power is off.

System Load information cannot be displayed when System power is off.

Current sensor information cannot be displayed when System power is off.

-----
Power Supplies:
-----
Supply  Status          Underspeed  Overtemp  Overvolt  Undervolt  Overcurrent
-----
PS0     OK              OFF        OFF      OFF      OFF      OFF
PS1     OK              OFF        OFF      OFF      OFF      OFF
```

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

showfaults

showfaults コマンドを使用すると、現在検出されているシステム障害を表示できます。標準的な出力では、障害 ID、障害が発生した FRU デバイス、および障害メッセージが表示されます。このコマンドを実行すると、POST 結果も表示されます。

showfaults コマンドで -v 引数を使用すると、より詳細な出力が表示されます。

▼ showfaults コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showfaults
ID FRU                               Fault
   0 MB/CMP0/CH0/R0/D0 Host detected fault, MSGID: SUN4U-8000-2S
```

-v 引数を追加すると、次のように表示されます。

```
sc> showfaults -v
ID Time           FRU                               Fault
   0 SEP 09 11:02:09 MB/CMP0/CH0/R0/D0 Host detected fault, MSGID:
SUN4U-8000-2S  UUID: 7ee0e46b-ea64-6565-e684-e996963f7b86
```

showfaults 出力で報告される FRU ID を指定して showfru コマンドを使用すると、より詳細な情報を取得できます。

```
sc> showfru MB/CMP0/CH0/R0/D0
/SPD/Timestamp: MON JUN 27 12:00:00 2005
/SPD/Description: DDR2 SDRAM, 512 MB
/SPD/Manufacture Location:
/SPD/Vendor: Micron Technology
/SPD/Vendor Part No: 18HTF6472Y-53EB2
/SPD/Vendor Serial No: 751d9239
SEGMENT: ST
/Platform_Name: platform_name-T1000
/Status_CurrentR/
/Status_CurrentR/UNIX_Timestamp32: FRI SEP 09 10:28:08 2005
/Status_CurrentR/status: 0x64 (MAINTENANCE REQUIRED, SUSPECT,
DEEMED FAULTY)
/Event_DataR/
/Event_DataR/Initiator: FM
/Event_DataR/Diagcode: SUN4U-8000-2S
/Event_DataR/UUID: 7ee0e46b-ea64-6565-e684-e996963f7b86
```

showfaults コマンドおよび showfru コマンドで報告される診断コード (例: SUN4U-8000-2S) を使用して、次の URL にアクセスできます。

<http://www.sun.com/msg/SUN4U-8000-2S>

障害に関する詳細情報が表示されます。また、次の URL に移動することもできます。

<http://www.sun.com/msg>

その後、「SUNW-MSG-ID:」ウィンドウに SUN4U-8000-2S と入力します。

showfru コマンドの詳細は、95 ページの「showfru」を参照してください。障害管理作業の詳細は、第 5 章を参照してください。

showfru

showfru コマンドを使用すると、ホストサーバ内のすべての現場交換可能ユニットのプログラム可能な読み取り専用メモリー (FRU PROM) の現在の状態および障害履歴を表示できます。出力形式は、Solaris OS の prtfru コマンドと同じです。

showfru コマンドオプション

showfru コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 6-16 showfru コマンドオプション

オプション	説明
-g <i>lines</i>	画面出力を一時停止する前に表示する行数を指定します。一時停止するたびに、「Paused: Press 'q' to quit, any other key to continue」というメッセージが表示されます。
-s	システムの FRU に関する静的情報を表示します。値が指定されていない場合は、すべての FRU のデフォルトになります。
-d	システムの FRU に関する動的情報を表示します。値が指定されていない場合は、すべての FRU のデフォルトになります。
FRU	個々の FRU です。

▼ showfru コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showfru argument
```

次に、SPARC Enterprise T2000 サーバで無効な引数を指定した場合の showfru コマンドの出力例を示します。

コード例 6-5 SPARC Enterprise T2000 サーバで有効な引数を表示する showfru コマンドの出力例

```
sc> showfru x
No such FRU_PROM. Valid arguments are:
SC/SEEPROM
IOBD/SEEPROM
MB/SEEPROM
PDB/SEEPROM
FIOBD/SEEPROM
SASBP/SEEPROM
PS0/SEEPROM
PS1/SEEPROM
MB/CMP0/CH0/R0/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH0/R0/D1/SEEPROM
```

コード例 6-5 SPARC Enterprise T2000 サーバで有効な引数を表示する showfru コマンドの出力例 (続き)

```
MB/CMP0/CH0/R1/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH0/R1/D1/SEEPROM
MB/CMP0/CH1/R0/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH1/R0/D1/SEEPROM
MB/CMP0/CH1/R1/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH1/R1/D1/SEEPROM
MB/CMP0/CH2/R0/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH2/R0/D1/SEEPROM
MB/CMP0/CH2/R1/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH2/R1/D1/SEEPROM
MB/CMP0/CH3/R0/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH3/R0/D1/SEEPROM
MB/CMP0/CH3/R1/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH3/R1/D1/SEEPROM
```

次に、SPARC Enterprise T1000 サーバで無効な引数を指定した場合の showfru コマンドの出力例を示します。

コード例 6-6 SPARC Enterprise T1000 サーバで有効な引数を表示する showfru コマンドの出力例

```
sc> showfru x
No such FRU_PROM. Valid arguments are:
MB/SEEPROM
PS0/SEEPROM
MB/CMP0/CH0/R0/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH0/R0/D1/SEEPROM
MB/CMP0/CH0/R1/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH0/R1/D1/SEEPROM
MB/CMP0/CH3/R0/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH3/R0/D1/SEEPROM
MB/CMP0/CH3/R1/D0/SEEPROM
MB/CMP0/CH3/R1/D1/SEEPROM
```

次に、有効な FRU 名および -s を引数として指定した場合の showfru コマンドの出力例を示します。

コード例 6-7 有効な引数を使用した showfru コマンドの出力例

```
sc> showfru -s MB
SEGMENT: SD
/ManR
/ManR/UNIX_Timestamp32:      THU OCT 06 14:47:58 2005
/ManR/Description:           ASSY, platform_name-T1000, Motherboard
```

コード例 6-7 有効な引数を使用した showfru コマンドの出力例 (続き)

```
/ManR/Manufacture Location:  Sriracha,Chonburi,Thailand
/ManR/Sun Part No:           5017302
/ManR/Sun Serial No:         000854
/ManR/Vendor:                 Celestica
/ManR/Initial HW Dash Level: 01
/ManR/Initial HW Rev Level:  01
/ManR/Shortname:             T1000_MB
/SpecPartNo:                 885-0504-03
```

デフォルトでは、showfru コマンドの出力は多量になる場合があります。次に例を示します。

```
sc> showfru MB
...
/Status_EventsR[2]
/Status_EventsR[2]/UNIX_Timestamp32:  FRI MAR 03 18:31:06 2006
/Status_EventsR[2]/Old_Status:         0x00 (OK)
/Status_EventsR[2]/New_Status:         0x64 (MAINTENANCE
REQUIRED, SUSPECT, DEEMED FAULTY)
/Status_EventsR[2]/Initiator:          0xD3 (FM)
/Status_EventsR[2]/Component:          0x00
/Status_EventsR[2]/Message (FM)
/Status_EventsR[2]/FM/fault_diag_time: 0x0000000044088B69
/Status_EventsR[2]/FM/diagcode:        SUN4V-8000-8Q
/Status_EventsR[2]/FM/UUID:            61b9738d-2761-c3f6-a2ae-
fcf11e99681c
/Status_EventsR[2]/FM/DE_Name:          cpumem-diagnosis
/Status_EventsR[2]/FM/DE_Version:      1.5
...

/Status_CurrentR/
/Status_CurrentR/UNIX_Timestamp32:  FRI MAR 03 18:31:06 2006
/Status_CurrentR/status:             0x64 (MAINTENANCE REQUIRED,
SUSPECT, DEEMED FAULTY)
```

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

showhost

showhost コマンドを使用すると、ホストの構成をサポートしているファームウェアのバージョン情報を表示できます。

▼ showhost コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- SC> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
SC> showhost
Host flash versions:
  Reset V1.0.0
  Hypervisor 1.0.0 2005/09/28 18:56
  OBP 4.19.0 2005/09/28 12:34
  MPT SAS FCode Version 1.00.37 (2005.06.13)>R
  Integrated POST 4.19.0 2005/09/28 12:52
```

showkeyswitch

showkeyswitch コマンドを使用すると、システムの現在の仮想キースイッチの位置を表示できます。

▼ showkeyswitch コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- SC> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
SC> showkeyswitch
Keyswitch is in the NORMAL position.
SC>
```

showlocator

showlocator コマンドを使用すると、ホストサーバのロケータ LED の状態 (オンまたはオフ) を表示できます。ロケータ LED の詳細は、使用しているシステムの管理マニュアルを参照してください。

注 – このコマンドは、フロントパネルのロケータ LED が存在するサーバでのみ機能します。

▼ showlocator コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- **sc>** プromptで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showlocator
```

- ロケータ LED がオンの場合、ALOM CMT は次の結果を返します。

```
sc> showlocator
Locator LED is ON
```

- ロケータ LED がオフの場合、ALOM CMT は次の結果を返します。

```
sc> showlocator
Locator LED is OFF
```

ロケータ LED の状態を変更するには、setlocator コマンドを使用します。詳細は、82 ページの「setlocator」を参照してください。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 82 ページの「setlocator」

showlogs

showlogs コマンドを使用すると、ALOM CMT イベントバッファに記録されたすべてのイベントの履歴を表示できます。これらのイベントには、サーバリセットイベント、およびシステムの状態を変更するすべての ALOM CMT コマンド (reset、poweroff、poweron など) があります。詳細は、75 ページの「reset」、70 ページの「poweroff」、および 72 ページの「poweron」を参照してください。

ログに記録される各イベントでは、次の形式が使用されます。

date ID: message

各変数の説明は、次のとおりです。

- *date* – ALOM CMT で記録されたイベントの発生時刻
- *ID* – メッセージタイプに対する数値識別子。
- *message* – イベントに関する簡単な説明

オプションを指定せずに showlogs コマンドを使用すると、RAM イベントログの末尾の 20 行が表示されます。

▼ showlogs コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- **sc>** プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showlogs options
```

options は、必要に応じて使用するオプションです。

コマンドによって、次のような情報が返されます。

```
sc> showlogs

Log entries since AUG 27 03:35:12
-----
AUG 27 03:35:12: 00060003: "SC System booted."
AUG 27 03:37:01: 00060000: "SC Login: User admin Logged on."
```

注 – ALOM CMT のイベントログに表示されるタイムスタンプには、UTC が反映されます。

次に、`-p p` オプションを指定した場合の `showlogs` コマンドの出力例を示します。
`-p p` オプションは、持続イベントログを表示します。持続イベントログは、重要度がメジャーおよびクリティカルのイベントのみで構成されています。

コード例 6-8 `showlogs -p p` コマンドの出力例

```
SC> showlogs -p p
Persistent event log
-----
JUN 07 04:16:44: 00060003: "SC System booted."
JUN 07 04:17:12: 00040002: "Host System has Reset"
JUN 07 04:48:03: 00040081: "Input power unavailable for PSU at PS1."
```

showlogs コマンドオプション

`showlogs` コマンドでは、5 つのオプションを使用します。`-g` および `-p` オプションは、`-b`、`-e`、または `-v` オプションと組み合わせて使用できます。`-g` オプションを指定しない場合は、`-p p` オプションとともに `-v` オプションを指定していないかぎり、画面出力は一時停止しません。`-p p` オプションは持続ログのオプションで、これを指定すると表示は 25 行ごとに一時停止します。

表 6-17 `showlogs` コマンドオプション

オプション	説明
<code>-v</code>	指定したログのすべての内容を表示します。この持続ログが要求されると、表示は 25 イベントごとに自動的に一時停止します。
<code>-b lines</code>	バッファの先頭からイベントを表示します。 <i>lines</i> は、指定する行数です。たとえば、次のコマンドでは、バッファの最初の 100 行が表示されます。 <code>showlogs -b 100</code>
<code>-e lines</code>	バッファの末尾からイベントを表示します。 <i>lines</i> は、指定する行数です。このコマンドの実行中に新しいデータがログに記録された場合、この新しいデータは画面出力に追加されます。次に例を示します。 <code>showlogs -e 10</code>
<code>-g lines</code>	一度に画面に表示される行数を制御します。 <i>lines</i> は、指定する行数です。一時停止するたびに、次のメッセージが表示されます。 <code>--pause-- Press 'q' to quit, any other key to continue.</code> <code>-g</code> を 0 (ゼロ) に設定すると、表示は一時停止しません。
<code>-p logtype [r p]</code>	RAM イベントログ (<i>logtype r</i>) のエントリのみを表示するか、持続イベントログ (<i>logtype p</i>) のエントリのみを表示するかを選択できます。 <code>-p</code> が指定されていないければ、デフォルトのオプションでは RAM ログのエントリのみを表示します。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」
- 58 ページの「consolehistory」

shownetwork

shownetwork コマンドを使用すると、現在の ALOM CMT のネットワーク構成を表示できます。

注 – ALOM CMT を最後に起動したあとに ALOM CMT のネットワーク構成を変更すると、このコマンドの出力に更新した構成情報が表示されないことがあります。変更した構成を表示するには、ALOM CMT を再起動します。ALOM CMT の再起動については、28 ページの「ほかのデバイスへのシステムコンソールのリダイレクト」を参照してください。

▼ shownetwork コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- SC> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
SC> shownetwork option
```

option には、必要に応じて *-v* を指定します。

このコマンドの出力は、次の例のように表示されます。*xxx.xxx.xxx.xxx* の位置には、ネットワーク構成の実際の IP アドレス、ネットマスク、および Ethernet アドレスが表示されます。

```
SC> shownetwork  
SC network configuration is:  
IP Address: XXX.XXX.XXX.XXX  
Gateway address: XXX.XXX.XXX.XXX  
Netmask: XXX.XXX.XXX.XXX  
Ethernet Address: XX:XX:XX:XX:XX:XX
```

注 – ネットワーキングが適切に構成されていない場合、shownetwork コマンドはアドレスとして 0.0.0.0 を表示します。

shownetwork コマンドオプション

shownetwork コマンドでは、オプション `-v` のみを使用します。

shownetwork `-v` を入力すると、動的ホスト構成プロトコル (DHCP) サーバの情報 (構成されている場合) など、ネットワークに関する追加情報が返されます。詳細は、21 ページの「DHCP を使用したネットワークの構成」を参照してください。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

showplatform

showplatform コマンドを使用すると、ホストサーバのプラットフォーム ID および状態を表示できます。

▼ showplatform コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- `sc>` プロンプトで、`showplatform` を入力します。
コマンドによって、次のような情報が返されます。

```
sc> showplatform
SUNW,platform_name-T1000
Chassis Serial Number: 0529AP000882

Domain Status
-----
S0          OS Standby

sc>
```

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

showsc

showsc コマンドを使用すると、ALOM CMT のソフトウェア構成およびファームウェアのバージョンに関する情報を表示できます。

▼ showsc コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- 次のいずれかの処理を実行します。
 - ALOM CMT のすべての構成情報を表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc
```

次に例を示します。

コード例 6-9 showsc での構成情報の表示例

```
sc> showsc
Advanced Lights Out Manager CMT v1.3

parameter                value
-----
if_network                true
if_connection             ssh
if_emailalerts            false
netsc_dhcp                false
netsc_ipaddr              129.148.57.109
netsc_ipnetmask           255.255.255.0
netsc_ipgateway           129.148.57.254
mgt_mailhost
mgt_mailalert
sc_customerinfo
sc_escapechars            #.
sc_powerondelay           false
sc_powerstatememory       false
sc_clipasswdecho          true
sc_cliprompt              sc
sc_clitimeout             0
sc_clieventlevel          3
sc_backupuserdata         true
diag_trigger              power-on-reset error-reset
```

コード例 6-9 showsc での構成情報の表示例 (続き)

diag_verbosity	normal
diag_level	min
diag_mode	off
sys_autorunonerror	false
sys_autorestart	none
sys_eventlevel	3
ser_baudrate	9600
ser_parity	none
ser_stopbits	1
ser_data	8
netsc_enetaddr	00:03:ba:d8:b2:ac
sys_enetaddr	00:03:ba:d8:b2:a4

特定のファームウェアのバージョンの値を表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

次に例を示します。

コード例 6-10 showsc -v での構成情報の表示例

```
sc> showsc version -v
Advanced Lights Out Manager CMT v1.3
SC Firmware version: CMT 1.3.0
SC Bootmon version: CMT 1.3.0

VBSC 1.3.0
VBSC firmware built Oct 25 2006, 23:10:58

SC Bootmon Build Release: 01
SC bootmon checksum: B4314B90
SC Bootmon built Sep 27 2006, 14:09:06

SC Build Release: 01
SC firmware checksum: 2BEE8286

SC firmware built Oct 25 2006, 23:12:54
SC firmware flashupdate THU OCT 26 03:17:50 2006

SC System Memory Size: 32 MB
SC NVRAM Version = 12
SC hardware type: 4

FPGA Version: 4.2.2.7
```


特定の構成変数の値を表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc param
```

param は、*param* オプションです。次に例を示します。

```
sc> showsc if_network  
true  
sc>
```

詳細は、117 ページの「ALOM CMT 構成変数の使用」を参照してください。

showsc コマンドオプション

showsc コマンドでは、次のオプションを使用します。オプションを指定せずに showsc を入力すると、すべての構成変数が表示されます。

表 6-18 showsc コマンドオプション

オプション	説明
-v	<i>param</i> オプションとともに使用すると、-v オプションは、指定した構成変数に関する詳細な情報を表示します (表示内容は変数によって異なります)。 version オプションとともに使用すると、-v オプションは、指定したファームウェアのバージョンに関する詳細な情報を表示します。
version	指定した構成変数またはパラメータのバージョンを表示するように showsc コマンドに指示します。
<i>param</i>	指定した構成変数またはパラメータの値を表示するように showsc コマンドに指示します。
if_connection	遠隔接続のタイプの none、telnet、または ssh を表示します。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

showusers

showusers コマンドを使用すると、ALOM CMT に現在ログインしているユーザーのリストを表示できます。このリストには、接続の種類、各ユーザーのセッションの期間、クライアントの IP アドレス (ユーザーがネットワーク接続を使用している場合)、ユーザーがホストシステムコンソールの書き込みロックを持っているかどうかなどの詳細が含まれています。ユーザーが書き込みロックを持っているかどうかによって、コンソールセッションに入力可能であるか、または読み取り専用モードでコンソールストリームを監視するだけかどうかが決まります。

▼ showusers コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用には、ユーザーアクセス権は必要ありません。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> showusers option
```

option には、必要に応じて `-g lines` を指定します。

次に例を示します。

```
sc> showusers
username connection  login time          client IP addr      console
-----
admin      serial      Sep 16 10:30
joeuser    ssh-1       Sep 14 17:24        123.123.123.123
sueuser    ssh-2       Sep 15 12:55        123.223.123.223
```

ユーザーが複数のセッションを実行している場合は、各セッションが一覧表示されます。

showusers コマンドオプション

showusers コマンドでは、オプション `-g lines` のみを使用します。

このオプションは、*lines* で指定した行数を表示するごとに表示を一時停止します。一時停止するたびに、次のメッセージが返されます。

```
--pause-- Press 'q' to quit, any other key to continue
```

ALOM CMT で警告状態または警告イベントが発生すると、このメッセージのあとにその情報が表示されます。任意のキーを押して続行するか、または **q** を押して表示を終了し、sc> プロンプトに戻ります。

ssh-keygen

Secure Shell (SSH) ホスト鍵の新しいセットを生成し、ホスト鍵フィンガープリントをシステムコントローラに表示するには、ssh-keygen コマンドを使用します。フィンガープリントのデフォルト形式 (rsa) は次のとおりです。

md5 1024 a3:28:0d:45:01:e4:ba:21:c8:13:90:df:4e:69:7a:5e

▼ ssh-keygen コマンドを使用する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> ssh-keygen options
```

options は、表 6-19 に示すオプションのいずれかです。

コマンドオプション

ssh-keygen コマンドでは、次のオプションを使用します。

表 6-19 ssh-keygen コマンドオプション

オプション	説明
-l	ホスト鍵のフィンガープリントを表示します。
-t type	鍵のタイプの dsa または rsa を表示または生成します。この引数は必須です。RSA は公開鍵暗号方式であり、DSA は米国政府の標準であるデジタル署名アルゴリズムです。
-r	ホスト鍵を再生成します。ホスト鍵がすでに存在する場合は、このオプションを指定する必要があります。

関連情報

- 77 ページの「restartssh」

useradd

useradd コマンドを使用すると、ALOM CMT にユーザーアカウントを追加できます。

▼ useradd コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> useradd username
```

username は、ALOM CMT に追加するアカウントのユーザー名です。

username には、次の制限があります。

- 有効な文字は、英字と数字、ピリオド (.)、下線 (_)、およびハイフン (-) です。
- 名前には最大 16 文字使用できますが、少なくとも 1 文字は小文字の英字である必要があります。
- 最初の文字は英字である必要があります。

ALOM CMT には、最大で 15 の一意のユーザーアカウントを追加できます。

ユーザー名にパスワードを割り当てるには、userpassword コマンドを使用します。詳細は、112 ページの「userpassword」を参照してください。

ユーザー名にアクセス権レベルを割り当てるには、userperm コマンドを使用します。詳細は、113 ページの「userperm」を参照してください。

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

userdel

userdel コマンドを使用すると、ALOM CMT のユーザーアカウントを削除できます。いったんアカウントを削除すると、削除されたユーザーの構成情報は復元できません。

指定したユーザー名が ALOM CMT のユーザーリストに存在しない場合は、エラーメッセージが返されます。また、リストに存在するユーザーが 1 人のみの場合、そのユーザーアカウントは削除されません。

注 – デフォルトの admin ユーザーアカウントは削除されません。

▼ userdel コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> userdel useracct
```

useracct は、削除するユーザーアカウントの名前です。

userdel コマンドオプション

userdel コマンドでは、オプション -y のみを使用します。

-y オプションを指定すると、userdel は次の確認の質問を表示せずにアカウントを削除します。

```
Are you sure you want to delete user username [y/n]?
```

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

userpassword

userpassword コマンドを使用すると、指定したユーザーアカウントのパスワードを変更できます。このコマンドは、管理者が ALOM CMT でユーザーのパスワードを変更する必要があるが、そのユーザーアカウントのパスワードが不明な場合に使用します。自分の ALOM CMT アカウントのパスワードを変更する場合は、password コマンドを使用します。詳細は、69 ページの「password」を参照してください。

▼ userpassword コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「userperm」を参照してください。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> userpassword username
```

username は、パスワードを変更するユーザーアカウントの名前です。

このコマンドを使用する場合、既存のパスワードの入力を求めるプロンプトは表示されません。

次に例を示します。

```
sc> userpassword username
New password:
Re-enter new password:
sc>
```

パスワードの制限

パスワードには、次の制限があります。

- 6 ～ 8 文字にする必要があります。
- 2 つ以上の英字 (大文字または小文字) および 1 つ以上の数値または特殊文字が含まれている必要があります。
- ログイン名、ログイン名の逆、またはログイン名の文字を並び替えたものとは異なる必要があります。比較には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。
- 古いパスワードと 3 字以上異なっている必要があります。比較には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

注 – 制限を満たしていない場合でもパスワードは受け入れられますが、セキュリティー上の推奨ガイドラインを満たしていないことを示す警告が表示されます。

関連情報

44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

userperm

userperm コマンドを使用すると、指定したユーザーアカウントのアクセス権レベルを設定または変更できます。デフォルトでは、初期設定手順で **ALOM CMT** の **admin** アカウントが作成されます。このアカウントは削除できません。また、このアカウントのユーザーアクセス権も変更できません。

アクセス権レベル

すべてのユーザーは **ALOM CMT** の情報を参照できますが、**ALOM CMT** の機能の実行や設定の変更には権限が必要です。

指定したユーザーにアクセス権レベルを割り当てない場合 (アクセス権レベル 0 を割り当ててる場合) は、ユーザーのアクセス権レベルは読み取り専用になります。これは、新規 **ALOM CMT** ユーザーアカウントのデフォルトのレベルです。

ユーザーの権限を追加するアクセス権レベルは 4 つあります。0 ～ 4 のアクセス権レベルを指定できます。

表 6-20 userperm のアクセス権レベル

アクセス権レベル	説明
a	管理。このユーザーは、 ALOM CMT 構成変数の状態の変更や、 ALOM CMT の再起動を行う権限が付与されています。詳細は、117 ページの「 ALOM CMT 構成変数の使用」および 76 ページの「resetsc」を参照してください。
u	ユーザー管理。このユーザーは、ユーザーの追加と削除、ユーザーアクセス権の変更、およびその他のユーザーの権限レベルの変更を行うことができます。詳細は、110 ページの「useradd」および 111 ページの「userdel」を参照してください。
c	コンソールアクセス権。このユーザーは、ホストサーバのシステムコンソールに接続できます。詳細は、55 ページの「console」を参照してください。

表 6-20 userperm のアクセス権レベル (続き)

アクセス権レベル	説明
r	リセットおよび電源アクセス権。このユーザーは、ホストサーバのリセット、およびサーバの電源投入と切断を行うことができます。詳細は、75 ページの「reset」、72 ページの「poweron」、および 70 ページの「poweroff」を参照してください。

注 – 最初に ALOM CMT を起動するときに使用するアカウントのデフォルトのユーザーアクセス権は読み取り専用です。デフォルトの admin アカウントにパスワードを設定すると、アクセス権が cuar (完全な権限) に変更されます。

ユーザーのアクセス権レベルを確認するには、usershow コマンドを使用します。詳細は、115 ページの「usershow」を参照してください。

▼ userperm コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、u レベルのユーザーアクセス権が必要です。

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> userperm username permissions
```

username は、アクセス権を割り当てるユーザーの名前です。*permissions* は、そのユーザーに割り当てるアクセス権です。

たとえば、ユーザー msmith に c および r のユーザーアクセス権を割り当てるには、ALOM CMT のコマンドプロンプトで次のように入力します。

```
sc> userperm msmith cr
```

ユーザーのアクセス権レベルを確認するには、usershow コマンドを使用します。

アクセス権を持たない (読み取り専用) ユーザーは、次のコマンドのみを使用できます。

- help
- logout
- password
- setlocator
- showdate
- showenvironment
- showfaults

- showfru
- showhost
- showkeyswitch
- showlocator
- showlogs
- shownetwork
- showplatform
- showsc
- showusers

読み取り専用アクセス権を持つユーザーは、次の例のユーザー `jeremy` のように表示されます。

sc> usershow		
Username	Permissions	Password
-----	-----	-----
admin	cuar	Assigned
jeremy	----	Assigned

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

usershow

`usershow` コマンドを使用すると、各ユーザーのアクセス権およびパスワードの割り当ての有無とともに、指定したユーザーの **ALOM CMT** アカウントを表示できます。詳細は、113 ページの「`userperm`」および 112 ページの「`userpassword`」を参照してください。

ユーザー名を入力しない場合、`usershow` はすべての **ALOM CMT** アカウントを表示します。

▼ usershow コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、`u` レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定については、113 ページの「`userperm`」を参照してください。

sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> usershow username
```

username は、指定するユーザーの名前です。

次に例を示します。

```
sc> usershow  
Username Permissions Password?  
admin      cuar      Assigned  
wwilson    cuar      Assigned  
jadams     --cr      None
```

```
sc> usershow wwilson  
Username Permissions Password?  
wwilson  cuar      Assigned
```

関連情報

- 44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

第7章

ALOM CMT 構成変数の使用

この章では、ALOM CMT 構成変数に関する情報について説明します。この章は、次のセクションで構成されています。

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 118 ページの「シリアル管理ポート変数」
- 119 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 119 ページの「ネットワーク管理および通知変数」
- 120 ページの「システムユーザー変数」
- 121 ページの「診断制御変数」

ALOM CMT 構成変数の概要

ALOM CMT には、ALOM CMT の動作を変更できる非揮発性の構成変数があります。これらの変数のデフォルト値はプリインストールされています。対話型のスクリプトコマンド `setupsc` を使用して、最初にこれらの変数をカスタマイズします。ALOM CMT シェルを使用すると、個々の変数の設定を変更できます。詳細は、84 ページの「`setupsc`」を参照してください。

▼ ALOM CMT コマンドシェルで構成変数を使用する

注 – ALOM CMT シェルから構成変数を設定するには、a レベルのユーザーアクセス権が必要です。ユーザーアクセス権の設定の詳細は、113 ページの「`userperm`」を参照してください。

ALOM CMT コマンドシェルで、次のコマンドを使用します。

- 設定可能な変数の値を指定するには、`setupsc` コマンドを使用します。
詳細は、84 ページの「`setupsc`」を参照してください。
- 構成変数およびその設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。
詳細は、105 ページの「`showsc`」を参照してください。
- 構成変数の値を設定するには、`setsc` コマンドを使用します。
詳細は、83 ページの「`setsc`」を参照してください。
- すべての変数を出荷時のデフォルトにリセットするには、`setdefaults` コマンドを使用します。
詳細は、79 ページの「`setdefaults`」を参照してください。

シリアル管理ポート変数

シリアル管理ポート変数は、ホストシステムの起動時に設定されるため、読み取り専用になります。ALOM CMT は、シリアル管理ポート変数を使用してホストサーバ上のシリアル管理 (SER MGT) 設定を報告します。これらの変数の設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。詳細は、105 ページの「`showsc`」を参照してください。

次のシリアルポート変数の設定値を表示できますが、設定または調整することはできません。

- 146 ページの「`ser_baudrate`」
- 146 ページの「`ser_data`」
- 146 ページの「`ser_parity`」
- 147 ページの「`ser_stopbits`」

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 84 ページの「`setupsc`」
- 83 ページの「`setsc`」
- 105 ページの「`showsc`」

ネットワークインタフェース変数

ネットワークインタフェース変数を使用すると、ALOM CMT がホストサーバの NET MGT ポートの Ethernet 接続に使用するネットワーク設定を指定できます。

ALOM CMT は、次のネットワークインタフェース変数を使用します。

- 126 ページの「if_connection」
- 128 ページの「if_network」
- 133 ページの「netsc_dhcp」
- 134 ページの「netsc_ipaddr」
- 136 ページの「netsc_ipnetmask」
- 135 ページの「netsc_ipgateway」
- 133 ページの「netsc_enetaddr」

ALOM CMT コマンドシェルで、次のコマンドを使用します。

- この変数の値を指定するには、`setupsc` コマンドを使用します。
詳細は、84 ページの「`setupsc`」を参照してください。
- 構成変数およびその設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。
詳細は、105 ページの「`showsc`」を参照してください。
- 構成変数の値を設定するには、`setsc` コマンドを使用します。
詳細は、83 ページの「`setsc`」を参照してください。
- すべての変数を出荷時のデフォルトにリセットするには、`setdefaults` コマンドを使用します。
詳細は、79 ページの「`setdefaults`」を参照してください。

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」

ネットワーク管理および通知変数

ネットワーク管理および通知変数を使用すると、ALOM CMT によるホストシステムの管理方法および警告の送信方法を指定できます。

ALOM CMT では、次のネットワーク管理および通知変数がサポートされています。

- 127 ページの「if_emailalerts」
- 131 ページの「mgt_mailhost」
- 129 ページの「mgt_mailalert」

ALOM CMT コマンドシェルの `sc>` プロンプトで、次のコマンドを使用します。

- これらの変数を設定するには、`setupsc` コマンドを使用します。
詳細は、84 ページの「`setupsc`」を参照してください。
- 現在の設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。
詳細は、105 ページの「`showsc`」を参照してください。
- 変数の値を変更するには、`setsc` コマンドを使用します。
詳細は、83 ページの「`setsc`」を参照してください。

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」

システムユーザー変数

システムユーザー変数を使用すると、ALOM CMT によるホストサーバの識別方法およびホストサーバとの対話方法をカスタマイズできます。`setupsc` スクリプトを使用して ALOM CMT をカスタマイズする場合は、`setupsc` でプロンプトが表示されたときに `y` と応答することによって、これらの変数にアクセスできます。詳細は、84 ページの「`setupsc`」を参照してください。

- 138 ページの「`sc_clieventlevel`」
- 141 ページの「`sc_clipasswdecho`」
- 139 ページの「`sc_cliprompt`」
- 140 ページの「`sc_clitimeout`」
- 142 ページの「`sc_customerinfo`」
- 143 ページの「`sc_escapechars`」
- 144 ページの「`sc_powerondelay`」
- 145 ページの「`sc_powerstatememory`」
- 148 ページの「`sys_eventlevel`」

ALOM CMT コマンドシェルの、次のコマンドを使用します。

- 設定可能な変数の値を指定するには、`setupsc` コマンドを使用します。
詳細は、84 ページの「`setupsc`」を参照してください。

- 構成変数およびその設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。
詳細は、105 ページの「`showsc`」を参照してください。
- 設定可能な変数の値を設定するには、`setsc` コマンドを使用します。
詳細は、83 ページの「`setsc`」を参照してください。
- すべての変数を出荷時のデフォルトにリセットするには、`setdefaults` コマンドを使用します。
詳細は、79 ページの「`setdefaults`」を参照してください。

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」

診断制御変数

診断制御変数を使用すると、ホストサーバ上でエラーが発生した場合の ALOM CMT の動作方法を指定できます。

ALOM CMT は、次の診断システムインタフェース変数を使用します。

- 147 ページの「`sys_autorestart`」
- 122 ページの「`diag_level`」
- 123 ページの「`diag_mode`」
- 124 ページの「`diag_trigger`」
- 125 ページの「`diag_verbosity`」
- 148 ページの「`sys_autorunonerror`」

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」

構成変数の説明

このセクションでは、ALOM CMT 構成変数の説明をアルファベット順に示します。

diag_level

この変数を使用すると、診断が使用可能な場合に実行される診断テストのレベルを指定できます。

表 7-1 diag_level のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
値の設定または変更	83 ページの「setsc」

▼ setsc コマンドを使用して diag_level 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc diag_level value
```

value は、次のいずれかの値です。

- min – 最小レベルの診断を実行してシステムを検証します (デフォルト値)。
- max – 最大設定の診断を実行してシステムの健全性を完全に検証します。
- none – 診断を実行しません。

▼ setupsc コマンドを使用して diag_level 変数を変更する

- setupsc コマンドの実行中に、次の質問に回答します。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、1 つめの質問に対する回答として **y** を入力し、2 つめの質問で指定される値を設定できるようにします。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
[...]
Enter the test coverage level of the system diagnostic [min]? max
```


diag_mode

この変数を使用すると、診断を使用可能にするかどうかを制御し、使用可能にする診断モードを指定できます。

表 7-2 diag_mode のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
値の設定または変更	83 ページの「setsc」

▼ setsc コマンドを使用して diag_mode 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc diag_mode value
```

value は、次のいずれかの値です。

- off – 診断を実行しません。
- normal – 診断を実行します (デフォルト値)。
- service – 保守技術者による診断を実行します。これは、diag_trigger、diag_verbosity、および max に設定された diag_level の事前設定値を使用する場合と同じ機能です。diag_mode を service に設定すると、setkeyswitch diag コマンドを実行した場合と同じ処理が行われます。

▼ setupsc コマンドを使用して diag_mode 変数を変更する

- setupsc コマンドの実行中に、次の質問に回答します。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、1 つめの質問に対する回答として **y** を入力し、2 つめの質問で指定される値を設定できるようにします。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
[...]
Enter the automatic system diagnostic mode [normal]? normal
```

diag_trigger

この変数を使用すると、診断が使用可能な場合に POST が実行される条件を制御できます。

表 7-3 diag_trigger のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
値の設定または変更	83 ページの「setsc」

▼ setsc コマンドを使用して diag_trigger 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc diag_trigger value
```

value は、次のいずれかの値またはその組み合わせです。

- user-reset – システムのリセット時に診断を実行します。75 ページの「reset」も参照してください。
- error-reset – システムをリセットして回復する必要がある致命的エラーが発生した場合に診断を実行します。
- power-on-reset – システムの電源投入時に診断を実行します。72 ページの「poweron」も参照してください。
- all-resets – user-reset、error-reset、および power-on-reset によって指定されるすべての診断を実行します。
- none – 診断をスキップします。

デフォルト値は、power-on-reset と error-reset の組み合わせです。

次に例を示します。

```
sc> setsc diag_trigger user-reset power-on-reset  
sc> showsc diag-trigger  
user-reset power-on-reset
```

▼ setupsc コマンドを使用して diag_trigger 変数を変更する

- setupsc コマンドの実行中に、次の質問に回答します。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、1 つめの質問に対する回答として **y** を入力し、2 つめの質問で指定される値を設定できるようにします。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
[...]
Enter the type of reset which will initiate system diagnostic
[power-on-reset error-reset]? power-on-reset error-reset
```

diag_verbosity

診断が使用可能な場合は、この変数を使用すると、POST 診断からの出力の冗長性レベルを指定できます。

表 7-4 diag_verbosity のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
値の設定または変更	83 ページの「setsc」

▼ setsc コマンドを使用して diag_verbosity 変数を変更する

- **sc>** プromptで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc diag_verbosity value
```

value は、次のいずれかの値です。

- **none** – 障害が検出されないかぎり、診断の実行時にシステムコンソールには出力が表示されません。
- **min** – 診断で、制限された量の出力がシステムコンソールに表示されます。
- **max** – 診断で、実行されている各テストの名前と結果を含む完全な出力がシステムコンソールに表示されます。
- **normal** – 診断で、適度な量の出力がシステムコンソールに表示されます (デフォルト値)。
- **debug** – 診断で、テストされているデバイスと各テストのデバッグ出力を含む広範囲なデバッグの出力がシステムコンソールに表示されます。

▼ setupsc コマンドを使用して diag_verbosity 変数を変更する

- setupsc コマンドの実行中に、次の質問に回答します。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、1 つめの質問に対する回答として **y** を入力し、2 つめの質問で指定される値を設定できるようにします。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
[...]
Enter the verbosity level of diagnostic output [normal]? normal
```

if_connection

setsc コマンドでこの変数を使用して、SC への遠隔接続のタイプを指定します。
126 ページの「if_connection のオプション」

表 7-5 if_connection のオプション

オプション	説明
none	接続なしを指定します。
ssh	Secure Shell 接続を指定します。セキュリティー保護された出荷時構成のデフォルトです。
telnet	Telnet 接続を指定します。

showsc コマンドのオプションとして if_connection を指定できます。この場合は、現在指定されている遠隔接続のタイプが表示されます。

▼ setsc コマンドを使用して if-connection 変数を設定する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc if_connection value
```

value は、none、ssh、または telnet です。デフォルトは ssh です。詳細は、16 ページの「デフォルトの DHCP 接続」を参照してください。

3つのオプションのうち1つだけを選択できます。SSH サーバと Telnet サーバを同時に使用可能にすることはできません。

注 – 接続タイプを変更したあとで、SC を再起動してその接続タイプを有効にしてください。

関連情報

- 83 ページの「setsc」
- 105 ページの「showsc」

if_emailalerts

この変数を使用すると、電子メールによる警告を使用可能にすることができます。この変数が true (使用可能) に設定されている場合は、ALOM CMT ネットワーク管理および通知変数の値を設定できます。詳細は、119 ページの「ネットワーク管理および通知変数」を参照してください。ネットワーク管理および通知変数 (mgt_mailhost および mgt_mailalert) は、電子メールによる警告の管理方法を指定し、警告を使用可能にします。詳細は、131 ページの「mgt_mailhost」および 129 ページの「mgt_mailalert」を参照してください。

注 – if_emailalerts を使用可能にするには、if_network 変数を使用可能にする必要があります。詳細は、128 ページの「if_network」を参照してください。

ALOM CMT コマンドシェルで、次のコマンドを使用します。

- この変数の値を指定するには、setupsc コマンドを使用します。
詳細は、84 ページの「setupsc」を参照してください。
- 値を設定または変更するには、setsc コマンドを使用します。
詳細は、83 ページの「setsc」を参照してください。
- この変数の現在の値を表示するには、showsc コマンドを使用します。
詳細は、105 ページの「showsc」を参照してください。

▼ **setupsc コマンドを使用して if_emailalerts 変数を設定する**

1. `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

setupsc スクリプトを実行すると、次のプロンプトが表示されます。

```
Should the SC email alerts be enabled [y]?
```

2. インタフェースを構成する場合、つまり値を `true` に設定する場合は、`y` を入力します。

この変数のデフォルト値は、`true` (使用可能) です。

▼ **setsc コマンドを使用して if_emailalerts 変数を変更する**

- `sc>` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc if_emailalerts value
```

value は、電子メールによる警告を使用可能にする場合は `true`、使用不可にする場合は `false` です。

if_network

この変数を使用すると、ALOM CMT ネットワークインタフェースを使用可能にすることができます。この変数が `true` (使用可能) に設定されている場合は、ALOM CMT ネットワークインタフェース変数を使用できます。詳細は、119 ページの「ネットワークインタフェース変数」を参照してください。

表 7-6 if_network のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
設定可能な変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
構成変数の設定の表示	105 ページの「showsc」
構成変数の設定または変更	83 ページの「setsc」

表 7-6 if_network のタスク (続き)

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
すべての変数の出荷時のデフォルトへのリセット	79 ページの「setdefaults」

▼ setupsc コマンドを使用して if_network 変数を設定する

1. SC> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
SC> setupsc
```

setupsc スクリプトを実行すると、次のプロンプトが表示されます。

Should the SC network interface be enabled [y]?

2. インタフェースを構成する場合は、y を入力します。

この変数のデフォルト値は、true (使用可能) です。

▼ setsc コマンドを使用して if_network 変数を変更する

- SC> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
SC> setsc if_network value
```

value は、ネットワークインタフェースを使用可能にする場合は true、使用不可能にする場合は false です。

mgt_mailalert

この変数を使用すると、電子メールによる警告を構成できます。電子メールによる警告の設定手順は、使用する方法によって多少異なります。最大 8 個の電子メールアドレスを指定できます。

表 7-7 mgt_mailalert のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
値の設定または変更	83 ページの「setsc」

▼ setupsc コマンドを使用して mgt_mailalert 変数を設定する

1. sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

setupsc スクリプトを実行すると、次のプロンプトが表示されます。

setupsc コマンドを使用して mgt_mailalert を構成する場合は、次の質問の回答を求めるプロンプトが表示されます。各質問の後ろの角括弧内にデフォルト値が表示されます。

```
Enter the number of email recipients to configure [0]? 2
```

2. 電子メール受信者数を入力します。

プロンプトの後ろの角括弧内にデフォルト値 0 が表示されます。

指定する各受信者に対して、スクリプトによって次の質問が表示されます。*n* には、現在構成している受信者の番号が表示されます。たとえば、前述の例で 2 と入力した場合は、アドレス 1 の電子メールによる警告の構成を求めるプロンプトが表示されてから、アドレス 2 について同様のプロンプトが表示されます。

```
Enter the email address for recipient n (maximum of 30 characters)
[]? johnsmith@sysadmin.com
```

3. 前述の例で示したように、受信者の電子メールアドレスを入力します。

ALOM CMT では、最大 30 文字の電子メールアドレスを構成できます。スクリプトによって、次の質問が表示されます。

```
Enter the level of events to send to recipient <n> where valid
settings are 1 (critical), 2 (critical and major) and 3 (critical,
major and minor) [2]?
```

4. 受信者に送信する警告のレベルに対応する数字を入力します。

▼ setsc コマンドを使用して mgt_mailalert 変数を変更する

- 電子メールによる警告を送信するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc mgt_mailalert email level
```


email は警告の送信先の電子メールアドレス、*level* は送信する警告のレベル (クリティカル、メジャー、マイナー) です。

次に例を示します。

```
sc> setsc mgt_mailalert kevin@abc.com 1
```

- mgt_mailalert エントリを削除するには、警告レベルを省略してこの変数の値を再度指定します。
- たとえば、前述の例のエントリを削除するには、次のように入力します。

```
sc> setsc mgt_mailalert kevin@xyz.com
```

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 119 ページの「ネットワーク管理および通知変数」
- 105 ページの「showsc」

mgt_mailhost

この変数を使用すると、ALOM CMT が電子メールによる警告を配信する 1 または 2 台のメールサーバのインターネットプロトコル (IP) アドレスを指定できます。

表 7-8 mgt_mailhost のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
この変数の現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

```
Enter the number of mail servers to configure [0]? 1
Enter the IP address for mail server 1 [100.100.100.100]?
100.100.100.100
```

▼ setsc コマンドを使用して mgt_mailhost 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc mgt_mailhost ipaddr1 ipaddr2
```

ipaddr1 および *ipaddr2* は、指定するメールホストの IP アドレスです。

たとえば、setsc を使用して 1 台のメールサーバを指定するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。*xxx.xxx.xxx.xxx* はメールサーバの IP アドレスに置き換えます。

```
sc> setsc mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx
```

デフォルトの IP アドレスは、アドレスなしです。

注 – このコマンドでは、有効な IP アドレスを入力する必要があります。

2 台のメールサーバを指定するには、次のコマンドを入力します。1 つの空白文字を使用して、最初のメールサーバの IP アドレスと 2 番めのメールサーバの IP アドレスを区切ります。

```
sc> setsc mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx yyy.yyy.yyy.yyy
```

関連情報

- 119 ページの「ネットワーク管理および通知変数」
- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 105 ページの「showsc」

netsc_dhcp

この変数を使用すると、動的ホスト構成プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol、DHCP) を使用してネットワーク構成を取得するかどうかを指定できます。使用可能な値は true および false です。デフォルト値は true です。

表 7-9 netsc_dhcp のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

Should the SC use DHCP to obtain its network configuration [y]?

関連情報

- 119 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 105 ページの「showsc」

netsc_enetaddr

この変数を使用すると、0a:2c:3f:1a:4c:4d のように、標準の 6 バイト形式でシステムコントローラの MAC アドレスを表示できます。この変数は出荷時に設定されます。この変数を設定または変更することはできません。

ALOM CMT コマンドシェルで、次のコマンドを使用します。

- この変数の現在の値を表示するには、showsc コマンドを使用します。詳細は、105 ページの「showsc」を参照してください。

関連情報

- 119 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 105 ページの「showsc」

netsc_ipaddr

この変数を使用すると、システムコントローラの IP アドレスを指定できます。

表 7-10 netsc_ipaddr のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

この変数で提供されるデフォルトの IP アドレスは、0.0.0.0 です。

注 – システムコントローラのネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合は、この変数を設定する必要はありません。netsc_dhcp が true に設定されている場合は、setupsc スクリプトによって netsc_ipaddr の設定は求められません。詳細は、133 ページの「netsc_dhcp」および 84 ページの「setupsc」を参照してください。

IP アドレスは、通常、0 ～ 255 の 4 つの数字を小数点で区切って表記します。これは、標準ドット表記と呼ばれます。

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

Enter the SC IP address [100.100.100.100]? 100.100.100.100
Enter the SC IP netmask [255.255.255.0]? 255.255.255.0

指定する IP アドレスが指定したサブネットマスクおよびゲートウェイアドレスに対応していない場合は、警告メッセージが返されます。次に例を示します。

WARNING: Subnet mask must have all ones for natural network ID.
WARNING: The ip_netmask is not compatible with the specified IP
address. Choose another ip_netmask to fix this problem.

入力したすべての値が正しいことを確認します。詳細は、135 ページの「netsc_ipgateway」および 136 ページの「netsc_ipnetmask」を参照してください。正しい IP アドレスの取得にサポートが必要な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

関連情報

- 119 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 105 ページの「showsc」

netsc_ipgateway

この変数を使用すると、デフォルトの IP ゲートウェイ (ルーターとも呼ばれる) の IP アドレスを指定できます。このゲートウェイを使用すると、ALOM CMT は接続しているサブネットワーク以外のサブネットワークにアクセスできます。

表 7-11 netsc_ipgateway のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

この変数で提供されるデフォルトの IP アドレスは、0.0.0.0 です。

注 – システムコントローラのネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合は、この変数を設定する必要はありません。netsc_dhcp が true に設定されている場合は、setupsc スクリプトによって netsc_ipgateway の設定は求められません。詳細は、133 ページの「netsc_dhcp」および 84 ページの「setupsc」を参照してください。

IP アドレスは、通常、0 ～ 255 の 4 つの数字を小数点で区切って表記します。これは、標準ドット表記と呼ばれます。

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

Enter the SC IP gateway address [100.100.100.100]? 100.100.100.100

指定する IP アドレスが指定したサブネットマスクおよび IP アドレスに対応していない場合は、次のエラーメッセージが返されます。このメッセージの netsc_ipnetmask と netsc_ipaddr には、それぞれサブネットマスクと IP アドレスが表示されます。

Error: Invalid IP gateway address for IP address netsc_ipaddr and IP netmask netsc_ipnetmask.

入力したすべての値が正しいことを確認します。これらのコマンドの詳細は、135 ページの「netsc_ipgateway」および 134 ページの「netsc_ipaddr」を参照してください。正しい IP アドレスの取得にサポートが必要な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

関連情報

- 119 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 105 ページの「showsc」

netsc_ipnetmask

この変数を使用すると、システムコントローラのネットマスクを指定できます。

表 7-12 netsc_ipnetmask のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

この変数で提供されるデフォルトの IP アドレスは、255.255.255.0 (クラス C ネットワーク) です。

注 – システムコントローラのネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合は、この変数を設定する必要はありません。netsc_dhcp が true に設定されている場合は、setupsc スクリプトによって netsc_ipnetmask の設定は求められません。詳細は、133 ページの「netsc_dhcp」および 84 ページの「setupsc」を参照してください。

IP アドレスは、通常、0 ～ 255 の 4 つの数字を小数点で区切って表記します。これは、標準ドット表記と呼ばれます。

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

```
Enter the SC IP netmask [255.255.255.0]? 255.255.255.0
```

指定する IP アドレスが指定したサブネットマスクおよび IP アドレスに対応していない場合は、次のエラーメッセージが返されます。このメッセージの `netssc_ipnetmask` と `netssc_ipaddr` には、それぞれサブネットマスクと IP アドレスが表示されます。

Error: Invalid IP netmask for IP address *netssc_ipaddr* and IP gateway *netssc_ipgateway*.

入力したすべての値が正しいことを確認します。これらのコマンドの詳細は、135 ページの「`netssc_ipgateway`」および 134 ページの「`netssc_ipaddr`」を参照してください。正しい IP アドレスの取得にサポートが必要な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

関連情報

- 119 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 105 ページの「`showssc`」

sc_backupuserdata

この変数を使用すると、ALOM CMT 上のローカルユーザーデータベース (ユーザー、パスワード、およびアクセス権情報など) をバックアップするかどうかを指定できます。この変数が `true` に設定されている場合は、このデータはシステムの取り外し可能なシステム構成カード (SCC PROM) にバックアップされます。

この変数の値は、次のとおりです。

- `true` – ユーザーデータベースを SCC にバックアップします。これはデフォルト値です。
- `false` – バックアップしません。

表 7-13 `sc_backupuserdata` のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	105 ページの「 <code>showssc</code> 」
変数の値の変更	83 ページの「 <code>setssc</code> 」

▼ **setsc コマンドを使用して sc_backupuserdata 変数を変更する**

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_backupuserdata value
```

ここで、*value* は、true または false です。

たとえば、ALOM CMT 上のローカルユーザーデータベースをバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_backupuserdata true  
sc>
```

sc_clieventlevel

この変数を使用すると、ALOM CMT セッション中に ALOM CMT シェルに表示する ALOM CMT イベントのレベルを指定できます。次の 4 レベルのイベントがあります。

- 0 (なし) – イベントを表示しません。
- 1 (クリティカル) – クリティカルイベントのみ表示します。
- 2 (クリティカル、メジャー) – クリティカルおよびメジャーのイベントを表示します。
- 3 (クリティカル、メジャー、マイナー) – クリティカル、メジャー、およびマイナーのイベントを表示します。

この変数のデフォルト値は、2 (メジャー) です。

表 7-14 sc_clieventlevel のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

setupsc スクリプトを実行している場合は、setupsc によって、次の質問が表示されます。

```
Enter level of events to be displayed over the CLI where valid
settings are 0 (none), 1 (critical), 2 (critical and major) and 3
(critical, major and minor) [2]? 2
```

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 105 ページの「showsc」

sc_cliprompt

この変数を使用すると、ALOM CMT シェルプロンプトを変更できます。デフォルトのプロンプトは、sc> です。

プロンプトには、最大 16 文字の任意の文字列を指定できます。文字列で使用できる文字は、英数字、ハイフン、および下線です。

表 7-15 sc_cliprompt のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

▼ setsc コマンドを使用して sc_cliprompt 変数を変更する

- sc> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_cliprompt prompt
```

prompt は、使用する ALOM CMT コマンドプロンプトです。

たとえば、ホスト名が `ernie` でホストの ALOM CMT 名が `ernie-sc` の場合は、次のコマンドを入力して `ernie-sc` を ALOM CMT シェルプロンプトとして指定します。

```
sc> setsc sc_cliprompt ernie-sc
ernie-sc>
```

また、`setupsc` コマンドを使用してこの変数を設定することもできます。詳細は、84 ページの「`setupsc`」を参照してください。`setupsc` コマンドでは、次のプロンプトが表示されます。

```
Enter the SC cli prompt (maximum of 16 characters) [sc] ?
```

デフォルトの `sc>` プロンプトを使用するには、**Return** を押します。

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 120 ページの「システムユーザー変数」
- 105 ページの「`showsc`」

sc_clitimeout

この変数を使用すると、自動ログアウトが行われるまで ALOM CMT シェルセッションがアイドル状態になる秒数を指定できます。0 ～ 10,000 秒の値を指定できます。1 ～ 59 秒の値を指定した場合、変数は自動的に最小値の 60 秒に設定されます。デフォルト値は、0 秒 (タイムアウトは使用不可) です。6 桁以上の値を指定した場合、タイムアウトは 0 に設定されます。

注 – ALOM CMT セッションが `console` モードの場合は、この変数が設定されていても自動ログアウトは行われません。詳細は、55 ページの「`console`」を参照してください。

たとえば、自動ログアウト間隔を 60 秒に設定するには、ALOM CMT シェルプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_clitimeout 60
```

setupsc コマンドを使用すると、タイムアウトの値を指定できます。詳細は、84 ページの「setupsc」を参照してください。setupsc スクリプトを実行すると、値の入力を求める次のプロンプトが表示されます。

```
Enter the SC CLI timeout in seconds (maximum of 10000s) [0]?
```

表 7-16 sc_clitimeout のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 120 ページの「システムユーザー変数」
- 105 ページの「showsc」

sc_clipasswdecho

この変数を使用すると、パスワードのエコー表示をオンまたはオフにすることができます。パスワードのエコー表示がオンの場合、ALOM CMT へのログイン時にユーザーが入力する各文字は、アスタリスク (*) で画面に表示されます。実際のパスワードが画面に表示されることはありません。

この変数のデフォルト値は、y (画面にアスタリスクを表示) です。

たとえば、この変数の値を n (エコー表示なし) に変更するには、ALOM CMT シェルプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
SC> setsc sc_clipasswdecho n
```

setupsc コマンドを実行して、この変数に値を指定できます。setupsc スクリプトを実行すると、値の入力を求める次のプロンプトが表示されます。

```
Should password entry echo '*'s [y] ?
```

表 7-17 `sc_clipasswdecho` のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「 <code>setupsc</code> 」
現在の値の表示	105 ページの「 <code>showsc</code> 」
変数の値の変更	83 ページの「 <code>setsc</code> 」

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 120 ページの「システムユーザー変数」
- 105 ページの「`showsc`」

`sc_customerinfo`

この変数を使用すると、ホストサーバに関する情報、または ALOM CMT にホストサーバを認識させるために入力するその他の任意の情報を格納できます。この情報は、すべての電子メールによる警告に含まれます。

`setupsc` ユーティリティーによって「Do you wish to configure the SC parameters [y]?」という質問が表示されたときに y と回答した場合は、`setupsc` ユーティリティーによって次のプロンプトが表示されます。

```
Enter any customer data for this platform (maximum of 40
characters) []?
```

次に例を示します。

```
Enter any customer data for this platform (maximum of 40
characters) []? This is the test lab server.
```

このコマンドの詳細は、84 ページの「setupsc」を参照してください。

表 7-18 sc_customerinfo のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 120 ページの「システムユーザー変数」
- 105 ページの「showsc」

sc_escapechars

エスケープ文字シーケンスを使用して、システムコンソールセッションから ALOM CMT に戻すことができます。シーケンスは、2 文字に制限されています。2 番めの文字には、必ず . (ピリオド) を使用します。デフォルトの値は、#. (ハッシュとピリオド) です。シーケンスはカスタマイズできます。

setupsc コマンドを実行して、この変数に値を指定できます。setupsc スクリプトを実行すると、値の入力を求める次のプロンプトが表示されます。

Enter the console session escape sequence (2 characters). The first character can be any printable characters or control-A through control- Y except for control-C, control-D, control-H, control-J, or control-M. The second character must be a ".". [#.]

このコマンドの詳細は、84 ページの「setupsc」を参照してください。

表 7-19 sc_escapechars のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 120 ページの「システムユーザー変数」
- 105 ページの「showsc」

sc_powerondelay

この変数を使用すると、電源が自動的に入る前にサーバを短時間待機させることができます。遅延は、1 ～ 5 秒のランダムな間隔です。サーバの電源投入を遅延させると、主電源に対する電流サージを最小限に抑えることができます。この機能は、電源異常後にラック内の複数のサーバの電源を入れる場合に重要です。

この変数は、sc_powerstatememory が true に設定されている場合にのみ有効です。

setupsc コマンドの sc_powerstatememory の質問にすでに yes と回答した場合は、setupsc コマンドを使用して、電源投入の遅延を設定できます (145 ページの「sc_powerstatememory」を参照)。setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、遅延を使用可能にするには **y** を、使用不可能にするには **n** を入力します。

Should poweron sequencing be enabled [y]?

このコマンドの詳細は、84 ページの「setupsc」を参照してください。

ALOM CMT コマンドシェルでは、この変数の値は true または false です。

表 7-20 sc_powerondelay のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
変数の値の指定	84 ページの「setupsc」
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 120 ページの「システムユーザー変数」
- 105 ページの「showsc」

sc_powerstatememory

サーバの電源が切れている場合でも、ホストサーバの電源が入ると ALOM CMT はすぐに動作します。ホストサーバに最初に電源を入れると、ALOM CMT は実行を開始しますが、サーバは電源を入れるまで起動しません。

sc_powerstatememory 変数を使用すると、ホストサーバの状態を false (ホストサーバを停止状態にしておく) または true (サーバを電源が切断されたときの状態に戻す) に指定できます。この機能は、電源障害発生時、またはサーバを別の場所に物理的に移動する場合に役立ちます。

たとえば、ホストサーバの動作中に電源が遮断された場合、sc_powerstatememory 変数が false に設定されていると、ホストサーバは電源の回復後も停止したままになります。sc_powerstatememory 変数が true に設定されていると、電源の回復時にホストサーバは再起動します。

この変数の値は、次のとおりです。

- true – 電源の回復時に、サーバは電源切断前の状態に戻ります。
- false – 電源が入っても、サーバは停止したままになります。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、その状態を使用可能にする場合は **y** を、使用不可にする場合は **n** と入力します。

Should powerstate memory be enabled [y]?

この質問に yes と回答した場合は、setupsc スクリプトによって、sc_powerondelay も設定するように求めるプロンプトが表示されます (144 ページの「sc_powerondelay」を参照)。

表 7-21 sc_powerstatememory のタスク

タスク	ALOM CMT シェルコマンド
現在の値の表示	105 ページの「showsc」
変数の値の変更	83 ページの「setsc」

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 120 ページの「システムユーザー変数」
- 105 ページの「showsc」

ser_baudrate

この変数は、シリアル管理ポート (SER MGT) のボーレートを設定します。この値はあらかじめ設定されているため、変更できません。

デフォルト設定は、9600 です。

- この変数の現在の設定を表示するには、showsc コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、105 ページの「showsc」を参照してください。

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 120 ページの「システムユーザー変数」
- 105 ページの「showsc」

ser_data

この変数は、シリアル管理ポート (SER MGT) のデータビット数を設定します。この値はあらかじめ設定されているため、変更できません。

デフォルト設定は、8 です。

- この変数の現在の値を表示するには、showsc コマンドを使用します。
このコマンドの詳細は、105 ページの「showsc」を参照してください。

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 120 ページの「システムユーザー変数」
- 105 ページの「showsc」

ser_parity

この変数は、シリアル管理ポート (SER MGT) のパリティを設定します。この値はあらかじめ設定されているため、変更できません。

デフォルト設定は、none です。

- この変数の現在の設定を表示するには、showsc コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、105 ページの「showsc」を参照してください。

関連情報

- 118 ページの「シリアル管理ポート変数」
- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 105 ページの「showsc」

ser_stopbits

この変数は、シリアル管理ポート (SER MGT) のストップビット数を設定します。この値はあらかじめ設定されているため、変更できません。

デフォルト設定は、1 です。

sc> プロンプトで、次のコマンドを使用します。

- この変数の現在の設定を表示するには、showsc コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、105 ページの「showsc」を参照してください。

関連情報

- 118 ページの「シリアル管理ポート変数」
- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 105 ページの「showsc」

sys_autorestart

この変数を使用すると、ALOM が Solaris ウォッチドッグタイマーの有効期限をどのように処理するかを指定できます。有効な値は、none、reset、および dumpcore で、デフォルト値は reset です。

setupsc スクリプトによって次の質問が表示されたら、1 つめの質問に対する回答として **y** を入力し、2 つめの質問で指定される値を設定します。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y

What action should the SC invoke if the OS is hung. The available
options are 'none', 'dumpcore' or 'reset' where a dumpcore will
attempt to force an OS Core Dump Panic [reset]? reset
```

注 – デフォルトのオプション (reset) は、Solaris ウォッチドッグタイマーをサポートしています。

sys_autorunonerror

この変数を使用すると、システム診断によるエラーの検出後、ホストが起動を続行するかどうかを指定できます。デフォルト値は、`false` です。

`setupsc` スクリプトによって次の質問が表示されたら、最初の質問に対する回答として **y** を入力してから、2 つめの質問で指定される値を設定します。これに対しては、起動の継続を有効にする場合は **y**、無効にする場合は **n** と回答できます。

```
Do you wish to configure the platform diagnostic parameters [y]? y
[...]
Should the host continue to boot after error is encountered [n]?
```

- この変数の現在の設定を表示するには、`showsc` コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、105 ページの「`showsc`」を参照してください。

sys_eventlevel

この変数を使用すると、ALOM からホストサーバに送信する ALOM イベントのレベルを指定できます。次の 4 レベルのイベントがあります。

- 0 (なし) – イベントを送信しない
- 1 (クリティカル) – クリティカルイベントのみ
- 2 (メジャー) – クリティカルイベントおよびメジャーイベント
- 3 (マイナー) – クリティカルイベント、メジャーイベント、およびマイナーイベント

この変数のデフォルト値は、2 (メジャー) です。

- この変数の現在の設定を表示するには、`showsc` コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、105 ページの「`showsc`」を参照してください。

sys_enetaddr

この変数は、システムソフトウェアによって自動的に構成されるため、設定または変更はできません。値はサーバの MAC アドレスから読み取られて識別され、ALOM CMT に変数として格納されます。

`sys_enetaddr` は、`net0` ポートの MAC アドレスです。各追加ポートの MAC アドレスは、`sys_enetaddr` から増分されます。たとえば、`net1` は `sys_enetaddr+1` です。

- この変数の現在の設定を表示するには、`showsc` コマンドを実行します。
このコマンドの詳細は、105 ページの「`showsc`」を参照してください。

関連情報

- 117 ページの「ALOM CMT 構成変数の概要」
- 105 ページの「`showsc`」

付録 A

障害追跡

この付録では、ALOM CMT で発生する可能性のあるもっとも一般的な問題、ALOM CMT に表示されるシェルエラーメッセージ、および障害追跡の提案について説明します。この付録は、次のセクションで構成されています。

- 152 ページの「ALOM CMT の問題の障害追跡」
- 153 ページの「ALOM CMT を使用したサーバの問題の障害追跡」
- 154 ページの「ALOM CMT シェルエラーメッセージ」
- 159 ページの「ALOM CMT パスワードの復元」

ALOM CMT の問題の障害追跡

表 A-1 に、一般的な ALOM CMT の問題とその解決方法のリストを示します。

表 A-1 ALOM CMT の診断

問題	説明
ALOM CMT にログインできない	次の処理を実行して、ALOM CMT のログインの問題を障害追跡します。 • bert-sc など、接続している ALOM CMT デバイス名を確認します。対応するサーバの ALOM CMT 名が正しいかどうかを確認します。 • 正しい ALOM CMT ユーザー名を使用しているかどうかを確認します。ALOM CMT ユーザー名は、システムユーザー名と異なる場合があります。 • 正しい ALOM CMT パスワードを使用しているかどうかを確認します。
telnet または ssh コマンドを使用して ALOM CMT に接続できない	ALOM CMT は、サーバごとに合計 8 つの Telnet または SSH セッションをサポートしています。最大数の Telnet または SSH セッションがアクティブな場合は、telnet または ssh コマンドを使用してさらに接続を試行すると、connection closed エラーが表示されます。UNIX オペレーティング環境のシステムメッセージの例を次に示します。 <pre>% ssh 129.148.49.120 Trying 129.148.49.120... ssh_exchange_identification: Connection closed by remote host</pre>
Ethernet 接続を使用して ALOM CMT に接続できない	まず、ALOM CMT が動作しているかどうか、Ethernet 構成に問題がないかどうかを確認します。また、次の処理を実行して、Ethernet の問題の障害追跡を行うこともできます。 • シリアル管理ポート (SER MGT) を使用して ALOM CMT にログインし、shownetwork コマンドを使用して現在の設定を確認します。詳細は、103 ページの「shownetwork」を参照してください。 • ネットワーク上の別のマシンにログインし、ping コマンドを使用して ALOM CMT が動作しているかどうかを確認します。ping コマンドの引数には、ホストサーバの名前ではなく、ALOM CMT デバイス名 (servername-sc など) を使用してください。 • resetsc コマンドを使用して ALOM CMT VxDiags を実行します。SER MGT 接続での出力を監視します。ALOM CMT はリセットが実行されるたびに Ethernet ハードウェアを自動的にテストし、結果をシリアル管理 (SER MGT) ポートに出力します。

表 A-1 ALOM CMT の診断 (続き)

問題	説明
ALOM CMT から警告を受信しない	ALOM CMT コマンドシェルの <code>sc_clieventlevel</code> 変数および電子メールによる警告の <code>mgt_mailalert</code> 変数の設定を確認し、指定した場所で適切なレベルのイベントを受信しているかどうかを確認します。 <code>if_emailalerts</code> が <code>true</code> に設定されており、 <code>mgt_mailhost</code> が電子メールによる警告用に正しく設定されているかどうかを確認します。詳細は、138 ページの「 <code>sc_clieventlevel</code> 」および 129 ページの「 <code>mgt_mailalert</code> 」を参照してください。
ALOM CMT パスワードが不明である	ユーザーが ALOM CMT パスワードを忘れた場合またはパスワードが機能しない場合は、パスワードを再作成します。 <code>userpassword</code> コマンドを使用します。112 ページの「 <code>userpassword</code> 」を参照してください。ユーザーパスワードがすべて不明な場合は、159 ページの「ALOM CMT パスワードの復元」を参照してください。
一部の ALOM CMT 機能は実行できるが、その他の機能が実行できない	機能を実行するには、特定のユーザーアクセス権が必要です。付与されているアクセス権レベルを確認します。詳細は、113 ページの「<code>userperm</code>」を参照してください。また、次の問題がある場合があります。 • コンソールログが表示されない、または ALOM CMT を使用してサーバのコンソールにアクセスできない。 • サーバをデバッグモードにできない、または ALOM CMT <code>break</code> コマンドを使用できない。サーバの仮想キースイッチの状態が <code>locked</code> になっています。 • <code>poweroff</code> コマンドが機能しない。サーバの電源はすでに切断されています。 • <code>poweron</code> コマンドが機能しない。サーバの電源がすでに入っているか、仮想キースイッチがスタンバイ状態になっています。

ALOM CMT を使用したサーバの問題の障害追跡

ALOM CMT は、応答していないサーバの障害追跡を行う場合に役立ちます。サーバが応答する場合は、そのサーバに接続し、Sun Management Center、Sun VTS、OpenBoot ファームウェアなどの標準の障害追跡ツールを使用します。

サーバが応答しない場合は、ALOM CMT アカウントにログインし、次の手順を実行します。

- ALOM CMT イベントログおよびサーバの環境状態に問題がないか確認します。詳細は、94 ページの「`showfaults`」、101 ページの「`showlogs`」、および 88 ページの「`showenvironment`」を参照してください。

- 最新のエラーメッセージのコンソールログを確認します。詳細は、58 ページの「consolehistory」を参照してください。
- システムコンソールに接続して、システムを再起動します。詳細は、55 ページの「console」を参照してください。

システムコンソールの書き込みロックの概要

複数のユーザーが ALOM CMT からシステムコンソールに接続できますが、コンソールへの書き込み権は一度に 1 人のユーザーのみが持ちます。つまり、システムコンソールにコマンドを入力できるのは 1 人のユーザーのみです。ほかのユーザーが入力した文字は、すべて無視されます。これは「書き込みロック」と呼ばれており、その他のユーザーセッションは「読み取り専用モード」となります。その他のユーザーが現在システムコンソールにログインしていない場合は、console コマンドを実行することによって、書き込みロックを自動的に取得します。書き込みロックを持っているユーザーを確認するには、showusers コマンドを使用します。詳細は、108 ページの「showusers」を参照してください。

ALOM CMT は、システムコンソールのフローレートを制御して、書き込みロックを保持しているユーザーセッションのフローレートに一致させます。これによって、書き込みロックを保持するユーザーセッションでデータが損失されないことが保証されます。ただし、この処理によって、読み取り専用のコンソールアクセス権を持つユーザーセッションのデータが失われる可能性があります。たとえば、書き込みロックを持つユーザーセッションが高速の NET MGT ポートを介して接続されており、読み取り側のセッションが低速の SER MGT ポートを介して接続されている場合、読み取り側のセッションの容量を超過する速度でコンソールの出力が生成される可能性があります。このようなコンソールデータの損失の可能性を低減するため、コンソールの各読み取り側セッションには 65535 文字のバッファ領域が割り当てられます。

ALOM CMT シェルエラーメッセージ

このセクションでは、ALOM CMT コマンドシェルを使用するときに表示される可能性のある特定のタイプのエラーメッセージについて説明します。

- 155 ページの「使用方法に関するエラー」
- 156 ページの「一般的なエラー」
- 158 ページの「FRU 状態に関する CLI メッセージ」

これらのメッセージは、sc> プロンプトで入力したコマンドに対する応答として表示されます。

使用方法に関するエラー

次の表では、不適切なコマンド構文を使用してコマンドを入力した場合に表示される使用方法に関するエラーメッセージについて説明します。正しい構文については、コマンドの説明を参照してください。

表 A-2 使用方法に関するエラーメッセージ

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Error: Invalid command option. Type help to list commands.	Help.	65 ページの「help」
Error: Invalid command options Usage: <i>usage string</i>	シェルコマンドは正しく入力されましたが、そのコマンドのオプションに誤りがあります。 <i>usage string</i> は、コマンドオプションの正しい構文を示します。コマンドオプションを確認し、コマンドを再入力してください。	
Error:Invalid configuration parameter.	setsc または showsc コマンドに、存在しない構成変数が指定されました。構成テーブルで構成変数およびその値を確認し、コマンドを再入力してください。	83 ページの「setsc」、105 ページの「showsc」、19 ページの「構成ワークシート」
Error: Invalid image. Please check file integrity and specified path.	flashupdate コマンドの実行時にエラーが発生しました。ダウンロードするファームウェアイメージの正しいパスが指定されていることを確認してください。パスが正しい場合は、サーバの管理者にイメージの保存場所を確認してください。	
Error: Invalid setting for parameter <i>param</i> .	<i>param</i> で指定した構成変数に誤った値を指定しました。使用する構成変数を確認し、コマンドを再入力します。	19 ページの「構成ワークシート」
Error: Unable to program flash SC because keyswitch is in LOCKED position.	ホストサーバの仮想キースイッチがロック位置に設定されています。キースイッチを標準位置に設定したあと、再度 flashupdate コマンドを実行してください。	
Error: Unable to set clock while managed system is running.	ホストサーバの動作中に ALOM CMT の日付および時刻を設定しようとしてしました。ALOM CMT の日付および時刻を設定する必要がある場合は、最初にシステムの電源が切断されていることを確認してください。	

一般的なエラー

ALOM CMT では、次の一般的なエラーが報告されます。

表 A-3 一般的なエラーメッセージ

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Error adding user <i>username</i>	<code>useradd</code> コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとに、エラーの内容について説明するより詳細なメッセージが表示されます。	110 ページの「 <code>useradd</code> 」
Error: Cannot delete admin user	ALOM CMT から admin ユーザーアカウントを削除しようとした。ALOM CMT ではこのアカウントを削除できません。	
Error changing password for <i>username</i>	<code>userpassword</code> コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとに、エラーの内容について説明するより詳細なメッセージが表示されます。	112 ページの「 <code>userpassword</code> 」
Error: Inconsistent passwords entered.	<code>userpassword</code> コマンドの実行時に入力した 2 回目のパスワードが最初のプロンプトで入力したパスワードと異なります。再度コマンドを実行してください。	112 ページの「 <code>userpassword</code> 」
Error: invalid password entered. Password must be 6-8 characters, differ from the previous by at least 3 characters and contain at least two alphabetic characters and at least one numeric or special character.	無効なパスワードを入力しました。パスワードの制限を参照し、再度パスワードを入力してください。	112 ページの「 <code>userpassword</code> 」
Error: invalid username string. Please re-enter username or type 'usershow' to see a list of existing users.	ユーザーアカウントのリストに存在しない ALOM CMT ユーザーアカウントを指定しました。有効なユーザーアカウントのリストを確認するには、 <code>usershow</code> コマンドを使用してください。	115 ページの「 <code>usershow</code> 」
Error displaying user <i>username</i>	<code>usershow</code> コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとに、エラーの内容について説明するより詳細なメッセージが表示されます。	115 ページの「 <code>usershow</code> 」
Error: Invalid IP address for gateway address <i>netsc_ipgateway</i> and IP netmask <i>netsc_ipnetmask</i> .	入力した <i>netsc_ipaddr</i> 変数の値が <i>netsc_ipgateway</i> および <i>netsc_ipnetmask</i> 変数に指定した値と対応していません。アドレスが正しいことを確認してから、再度 <code>setupsc</code> または <code>setsc</code> を実行してください。	134 ページの「 <code>netsc_ipaddr</code> 」、 135 ページの「 <code>netsc_ipgateway</code> 」、 84 ページの「 <code>setupsc</code> 」、または 83 ページの「 <code>setsc</code> 」

表 A-3 一般的なエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Error: Invalid IP netmask for IP address <i>netsc_ipaddr</i> and IP gateway <i>netsc_ipgateway</i> .	入力した <i>netsc_ipnetmask</i> 変数の値が <i>netsc_ipgateway</i> および <i>netsc_ipaddr</i> 変数に指定した値と対応していません。アドレスが正しいことを確認してから、再度 <i>setupsc</i> または <i>setsc</i> を実行してください。	135 ページの「 <i>netsc_ipgateway</i> 」、136 ページの「 <i>netsc_ipnetmask</i> 」、84 ページの「 <i>setupsc</i> 」、または 83 ページの「 <i>setsc</i> 」
Error: Invalid IP gateway for IP address <i>netsc_ipaddr</i> and IP netmask <i>netsc_ipnetmask</i> .	入力した <i>netsc_ipgateway</i> 変数の値が <i>netsc_ipnetmask</i> および <i>netsc_ipaddr</i> 変数に指定した値と対応していません。アドレスが正しいことを確認してから、再度 <i>setupsc</i> または <i>setsc</i> を実行してください。	135 ページの「 <i>netsc_ipgateway</i> 」、136 ページの「 <i>netsc_ipnetmask</i> 」、134 ページの「 <i>netsc_ipaddr</i> 」、84 ページの「 <i>setupsc</i> 」、または 83 ページの「 <i>setsc</i> 」
Error setting permission for <i>username</i>	<i>userperm</i> コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとに、エラーの内容について説明するより詳細なメッセージが表示されます。	113 ページの「 <i>userperm</i> 」を参照
Error: Invalid username string. Please re-enter a username of no more than 16 bytes consisting of characters from the set of alphabetic characters, numeric characters, period (.), underscore (_), and hyphen (-). The first character should be alphabetic and the field should contain at least one lower case alphabetic character.	無効なユーザー名を入力しました。ユーザー名の正しい構文を確認し、再度入力してください。	110 ページの「 <i>useradd</i> 」
Error: Unable to execute break because keyswitch is in LOCKED position.	キースイッチの状態を変更し、再度 <i>break</i> コマンドを入力してください。	51 ページの「 <i>break</i> 」
Failed to get password for <i>username</i>	<i>userpassword</i> コマンドの実行中に <i>SEEPROM</i> エラーが発生しました。再度コマンドを実行してください。	112 ページの「 <i>userpassword</i> 」
Failed to set <i>variable</i> to <i>value</i>	<i>setsc</i> コマンドの実行中に、 <i>ALOM CMT</i> で <i>SEEPROM</i> エラーが発生しました。	83 ページの「 <i>setsc</i> 」
Invalid login	ログインに失敗しました。このメッセージは、ログインプロンプトに表示されます。	

表 A-3 一般的なエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Invalid password	userpassword コマンドで無効なパスワードを入力しました。	112 ページの「userpassword」
Invalid permission: <i>permission</i>	無効なユーザーアクセス権を入力しました。	113 ページの「userperm」
Error: Maximum number of users already configured.	ALOM CMT にすでに最大 16 個のアカウントが設定されている場合にユーザーアカウントを追加しようとすると、このエラーが発生します。別のアカウントを追加する前にアカウントを削除する必要があります。	111 ページの「userdel」
Passwords don't match	新しいパスワードの 2 つの入力が一致しません。再度パスワードを入力してください。	
Permission denied	適切なレベルのユーザーアクセス権を付与されていないシェルコマンドを実行しようとした。	113 ページの「userperm」
Sorry, wrong password	誤ったパスワードを入力しました。再度パスワードを入力してください。	
Error: User <i>username</i> already exists.	追加しようとしているユーザーには、このサーバ上にすでに ALOM CMT アカウントがあります。	

FRU 状態に関する CLI メッセージ

ALOM CMT によって現場交換可能ユニット (FRU) に問題が検出されると、次のエラーメッセージが表示されます。

表 A-4 FRU エラーメッセージ

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Error: xxx is currently powered off.	xxx は、コマンドを送信しようとした FRU の名前です。この FRU は現在電源が切断されています。この FRU がコマンドを受け取るには、電源を入れる必要があります。	
Error: xxx is currently powered on.	xxx は、poweron コマンドを送信しようとした FRU の名前です。この FRU にはすでに電源が入っています。	72 ページの「poweron」
Error: xxx is currently prepared for removal.	xxx は、removefru コマンドを送信しようとした FRU の名前です。この FRU はすでに電源が入っていない状態になっており、取り外す準備ができています。	73 ページの「removefru」

表 A-4 FRU エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	コマンドおよび説明	参照先
Error: Invalid FRU name.	オプションを指定せずに FRU コマンドを入力したか、コマンドで無効な FRU 名を指定しました。FRU 名が有効であることを確認し、再度コマンドを入力してください。	95 ページの「showfru」

関連情報

44 ページの「ALOM CMT シェルコマンド」

ALOM CMT パスワードの復元

セキュリティ上の理由から、この手順はシリアルポートを使用して直接システムにアクセスしている場合にのみ実行できます。この手順を実行すると、すべての ALOM CMT NVRAM 設定がリセットされます。

▼ ALOM CMT パスワードを復元する

1. システムコントローラのシリアルポートに接続します。
2. サーバの電源を切ります。
両方の電源装置の電源コードを取り外します。電力が排出されるまで数秒間待機したあと、再度コードを差し込みます。

3. コンソールに次のテキストが表示されたら、ALOM CMT の起動中に Escape キーを押します。

```
Boot Sector FLASH CRC Test
Boot Sector FLASH CRC Test, PASSED.

Return to Boot Monitor for Handshake
```

Escape キーを押すと、次の ALOM CMT 起動エスケープメニューが表示されます。

```
ALOM <ESC> Menu

e - Erase ALOM NVRAM.
m - Run POST Menu.
R - Reset ALOM.
r - Return to bootmon.
Your selection:
```

4. e を入力して、ALOM CMT NVRAM を消去します。

```
Your selection: e
ALOM NVRAM erased.

ALOM <ESC> Menu

e - Erase ALOM NVRAM.
m - Run POST Menu.
R - Reset ALOM.
r - Return to bootmon.
Your selection:
```

5. r を入力して、ALOM CMT 起動処理に戻ります。

```
Your selection: r

ALOM POST 1.0
Status = 00007fff
```

ALOM CMT が起動し、すべての NVRAM 設定がリセットされます。パスワードおよびアクセス権なしで、ユーザー admin として自動的にログオンします。すべての ALOM CMT NVRAM 設定は、出荷時のデフォルト値にリセットされます。

ALOM CMT イベントメッセージ

イベントメッセージの概要

ALOM CMT は、次の複数の宛先にイベントメッセージを送信します。

- メッセージは、`sys_clieventlevel` 変数の設定に基づいて、ログインしているすべてのユーザーに送信されます。
- メッセージは、ALOM CMT ログに記録されます。記録されたメッセージは、ALOM CMT の `showlogs` コマンドを使用して参照します。
- イベントの重要度がメジャーまたはクリティカルである場合、メッセージは ALOM CMT 持続ログに記録されます。持続ログ内のメッセージは、ALOM CMT の `showlogs -p p` コマンドを使用して参照します。
- メッセージは、`mgt_mailalert` 変数の設定に基づいて、電子メールメッセージに送信されます。個々の電子メールアドレスは、さまざまな重要度のメッセージを受信するように構成できます。
- イベントが障害を示している場合は、ALOM CMT の `showfaults` コマンドの出力にそのイベントメッセージが表示されます。たとえば、`FAN at FT0/FM0 has failed` などが表示されます。
- メッセージは、`sys_eventlevel` 変数の設定に基づいて、管理対象システムのオペレーティングシステムに送信され、Solaris の `syslog` 機能に記録されます。すべてのバージョンの Solaris オペレーティングシステムで、この機能がサポートされるとはかぎりません。

イベントの重要度レベル

各イベントには、重要度レベルと対応する数値が割り当てられています。これらのレベルと数値は、次のとおりです。

- クリティカル (1)
- メジャー (2)
- マイナー (3)

ALOM CMT の構成パラメータは、重要度レベルを使用して、表示するイベントメッセージを判断します。sc_clieventlevel および mgt_mailalert で重要度レベルの数値を使用する方法の詳細は、138 ページの「sc_clieventlevel」および 129 ページの「mgt_mailalert」を参照してください。

イベントメッセージ

付録 B に、システムコントローラの起動イベントメッセージを示します。

表 B-1 システムコントローラの起動イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SC System booted.	ALOM CMT は、SC が起動するたびにこのメッセージを送信します。このイベントは、通常イベントです。
クリティカル	Preceding SC reset due to watchdog.	内部の SC ウォッチドッグによって自身がリセットされたことを SC が検出すると、ALOM CMT は SC の起動時にこのメッセージを送信します。問題が続く場合、このメッセージは SC ハードウェアに問題があることを示している可能性があります。
クリティカル	Host flash image invalid, flashupdate required.	flashupdate コマンドの実行中に SC が再起動すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このイベントは、ホストのフラッシュが無効な状態で、flashupdate コマンドを使用してホストのフラッシュを再プログラムする必要があることを示しています。この障害が続く間は、システムの電源を入れることができません。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
マイナー	DHCP network configuration initiated.	ALOM CMT パラメータ if_dhcp が true に設定されていると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、ALOM CMT が DHCP ネゴシエーションを開始したことを示しています。
メジャー	DHCP configuration complete (from server IP_address).	DHCP ネゴシエーションが完了すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。IP_address は、リース情報を提供した DHCP サーバの IP アドレスです。

表 B-1 システムコントローラの起動イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	No SC IP gateway has been assigned by the DHCP server	DHCP が使用されているが、DHCP サーバが DHCP リースで IP ゲートウェイ構造を提供しなかった場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。RFC 1533 に詳細に記述されているように、この情報は、通常はタグ 3、DHCP_ROUTER_TAG で提供されます。
メジャー	DHCP lease lost.	DHCP が使用されており、DHCP リースが失われた場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このイベントは、SC がネットワーク上に存在しなくなったことを示しています。ALOM CMT は、DHCP リースの取得を定期的に再試行します。
メジャー	Invalid SC IP gateway address for the specified SC IP address and mask.	手動の IP アドレスおよびゲートウェイを使用して、ユーザーが無効なゲートウェイアドレスを指定した場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。IP ゲートウェイは、指定された IP アドレスおよび IP ネットマスクに基づいて、ローカルサブネット上の到達可能な場所に存在する必要があります。

付録 B に、システムコントローラの SCC PROM イベントメッセージを示します。

表 B-2 システムコントローラの SCC PROM イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SCC data cannot be accessed.	ALOM CMT は、起動時にこのメッセージを送信します。このメッセージは、SCC PROM にアクセスできないことを示します。SCC PROM または SC ハードウェアに問題があります。この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
メジャー	SCC is not valid.	起動時、または ALOM CMT の実行中に SCC が挿入された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、SCC PROM が無効で、交換する必要がありますことを示しています。この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
メジャー	Replace SCC to avert managed system shutdown in 60 seconds.	ホストの電源が入っているときに SCC PROM が取り外された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SCC PROM はカバーを開いた状態でのみ取り外すことができますが、カバーを開くと管理対象システムの電源は自動的に切断されるため、通常、このイベントが発生する可能性はありません。このメッセージは、SCC PROM または SC ハードウェアに問題があることを示しています。
クリティカル	Correct SCC not replaced - shutting managed system down.	割り当てられた 60 秒の間に SCC PROM が交換されなかった場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このイベントのあとで、システムの電源が切断されます。
メジャー	SCC has been inserted.	SCC PROM が挿入されたときに、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	Correct SCC replaced - managed system shutdown cancelled.	60 秒の停止間隔の間に SCC PROM が交換された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。

表 B-2 システムコントローラの SCC PROM イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	Correct SCC not replaced - managed system shutdown continuing.	管理対象システムの停止中に、別の SCC PROM が挿入された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	Different SCC detected. SC will reset itself momentarily.	別の SCC PROM が挿入された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SC は自身をリセットして、交換した SCC PROM の内容に基づき、構成パラメータおよびネットワークパラメータを再初期化する必要があります。
クリティカル	SCC platform data is not valid, will be replaced by SC nvram data.	SCC PROM に無効な内容が挿入された場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SCC PROM の内容は、データの破壊を検出するために、チェックサムによって保護されています。データが破損している場合、SCC PROM データは消去され、SC NVRAM データで置換されます。
クリティカル	SCC NVRAM data updated to new version while preserving data.	新しい SC ファームウェアの NVRAM データが、NVRAM ハードウェアに現在格納されているデータより新しいバージョンである場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、データ形式が更新されていることを示します。既存データは、保持されるはずで、このメッセージが表示されたあとで、ユーザーは showsc コマンドの出力を参照して、構成パラメータが有効な状態のまま、正しく設定されていることを必ず確認してください。新しいファームウェアイメージには、新しい構成パラメータが追加されるか、以前存在していたパラメータが削除されている場合があります。詳細は、ファームウェアイメージのリリースノートを参照してください。

付録 B に、システムコントローラの使用状況イベントメッセージを示します。

表 B-3 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
メジャー	SC Request to Power Off Host.	ユーザーが <code>poweroff</code> コマンドを入力した場合などで、SC がホストの電源切断を要求すると常に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	SC Request to Power Off Host Immediately.	ユーザーが <code>poweroff -f</code> コマンドを入力した場合などで、SC がホストの即時電源切断を要求すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host system has shut down.	ホストの電源が切断されると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。また、ホストが自身をリセットした場合にも、通常、このイベントが送信されます。
マイナー	SC Request to Power On Host.	<code>sc_powerstatememory</code> か、ユーザーによる <code>poweron</code> コマンドの入力のいずれかにより、SC がホストの電源投入を要求すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	SC Request to Reset Host.	ユーザーによる <code>reset</code> コマンドの入力などで、SC がホストのリセットを要求すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host System has Reset.	ホストがリセットされたことを SC が検出すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。これらのシステムでは、リセットが <code>powercycle</code> として実装されているため、このメッセージの直後に <code>Host system has shut down</code> イベントメッセージが続きます。
メジャー	SC Request to send Break to host.	ユーザーが <code>break</code> コマンドを入力した場合などで、SC がホストに切断要求を送信すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
マイナー	SC date/time has been set to <i>date_and_time</i> .	SC の日付または時刻を変更するために、ユーザーが <code>setdate</code> コマンドを入力すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。

表 B-3 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	SC firmware was reloaded.	flashupdate コマンドの処理を行なったあとに SC ファームウェアが再読み込みされると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
マイナー	SC set bootmode to normal.	ユーザーが bootmode コマンドを使用して、起動モードを normal に変更すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
マイナー	SC set bootmode to reset_nvram, will expire <i>date_and_time</i> .	ユーザーが bootmode コマンドを使用して起動モードを reset_nvram に変更すると、ALOM CMT はこのコマンドを送信します。 <i>date_and_time</i> は、bootmode の設定が期限切れになる日付と時刻で、コマンドが実行された時刻から 10 分後です。
マイナー	SC set bootscript to <i>bootscript</i> .	ユーザーが bootmode の bootscript を変更すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>bootscript</i> は、ユーザーが指定した起動スクリプトのテキストです。
マイナー	Host System has read and cleared bootmode.	ホストが起動し、bootmode および bootscript が読み込まれると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このイベントのあとで、bootmode および bootscript は normal にリセットされます。
マイナー	Keyswitch position has been changed to <i>keyswitch_position</i> .	ユーザーが setkeyswitch コマンドを使用してキースイッチの位置を変更すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>keyswitch_position</i> は新しいキースイッチの位置です。

表 B-3 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
マイナー	Indicator <i>indicator_name</i> is now <i>indicator_state</i> .	LED などのインジケータの状態が変更されるたびに、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>indicator_name</i> はインジケータの名前で、 <i>indicator_state</i> はインジケータの新しい状態です。通常、このメッセージは、ホストからの電源投入または電源切断イベント、障害イベント、ディスク取り外し可能イベントなど、プラットフォームイベントに対応しています。プラットフォームのインジケータとその状態に関する詳細は、使用しているプラットフォームの管理マニュアルを参照してください。
メジャー	Failed to send email alert for recent event.	<i>if_emailalerts</i> パラメータが true に設定されているが、電子メールによる警告が送信できない場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。この問題を解決するには、 <i>mgt_mailhost</i> と <i>mgt_mailalert</i> の設定、および使用しているネットワークのメールサーバの状態を確認してください。
メジャー	Failed to send email alert to the primary mailserver.	<i>if_emailalerts</i> パラメータが true に設定されているが、電子メールによる警告が送信できない場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。この問題を解決するには、 <i>mgt_mailhost</i> と <i>mgt_mailalert</i> の設定、および使用しているネットワークのメールサーバの状態を確認してください。
メジャー	Email alerts will not be sent while network is disabled.	<i>if_emailalerts</i> が true に設定されているが、 <i>if_network</i> が false に設定されている場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。この問題を修正するには、電子メールによる警告を使用不可にするか、または SC ネットワークを使用可能にします。
マイナー	SC Login: User <i>username</i> Logged on.	ユーザーがログインすると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>username</i> はログインしたユーザーの名前です。

表 B-3 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
マイナー	SC Login: User <i>username</i> Logged out.	ユーザーがログアウトすると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>username</i> はログアウトしたユーザーの名前です。
メジャー	SC Login Failure for user <i>username</i> .	あるユーザー名が 5 分間に 5 回ログインに失敗すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>username</i> は、ログインの試みが失敗したユーザーの名前です。
メジャー	SC Request to Dump core host.	ALOM CMT ユーザーが、break - D コマンドを入力して、ホストにコアダンプ要求を送信すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
メジャー	SC Host Watchdog Reset Disabled.	ユーザーが <code>sys_autorestart</code> 変数を <code>none</code> に設定すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host Watchdog timeout.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、 <code>sys_autorestart</code> 変数が <code>none</code> に設定されていると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SC が、修正措置を実行することはありません。
クリティカル	SC Request to Dump core Host due to Watchdog.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、 <code>sys_autorestart</code> 変数が <code>dumpcore</code> に設定されていると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SC は、エラーの状態情報を取得するために、ホストのコアダンプの実行を試みます。すべてのバージョンの OS で、コアダンプ機能がサポートされるとはかぎりません。
クリティカル	SC Request to Reset Host due to Watchdog.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、 <code>sys_autorestart</code> 変数が <code>reset</code> に設定されていると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。その後、SC はホストのリセットを試みます。

付録 B に、システムコントローラの環境監視イベントメッセージを示します。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SC can't determine platform type.	SC がプラットフォームハードウェアのプロパティを判断できない場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。SC は縮退モードになり、多くの操作が抑制されます。このメッセージは、プラットフォームハードウェアまたは SC ハードウェアに問題があることを示しています。
マイナー	SC Environment Poller: Cannot open i2c device.	I2C インタフェースを開くことができない場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。環境監視が使用できなくなります。このメッセージは、SC ハードウェアに問題があることを示しています。このイベントは、SC can't determine platform type など、その他のイベントに伴って発生します。
メジャー	Required <i>device_type</i> at <i>location</i> is not present.	ハードウェア監視の必須要素が存在しない場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。これは、プラットフォームハードウェアに問題があることを示しています。 <i>device_type</i> はデバイスのタイプ (センサー、インジケータなど) で、 <i>location</i> はデバイスの場所と名前を示します。デバイスの場所は、そのデバイスが取り付けられている FRU を示します。通常、これは FRU に問題があることを示します。複数の FRU が表示された場合は、 <i>location</i> は、個々の FRU ではなく SC ハードウェアに問題があることを示している可能性があります。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	Chassis cover removed.	シャーシカバーが取り外されている場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。ブラットフォームハードウェアは、予防措置として、管理対象システムの電源をただちに切ります。シャーシカバーが取り外されている間、poweron コマンドが使用されないように、このメッセージと同時に、イベントメッセージ System poweron is disabled が発生するはずです。
クリティカル	System poweron is disabled.	ユーザーの poweron コマンド、またはフロントパネルの電源ボタンのいずれかによるシステムの電源投入を SC が拒否すると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。メッセージ Chassis cover removed で示されるイベントなど、これと同時に発生するイベントによって、SC の電源投入が使用不可になります。そのほかに、デバイス障害またはファンの冷却の不足などが考えられます。
マイナー	System poweron is enabled.	前述の System poweron is disabled メッセージによって示される、電源投入が使用不可になったことの原因である状況が修正されると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。たとえば、シャーシカバーを取り付け直した場合、またはシステムの冷却に必要な十分なファンを取り付けた場合などです。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	<i>Device</i> at <i>location</i> has FAILED. <i>Device</i> at <i>location</i> has FAULTED.	故障または障害が検出されると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。障害は優先順位が低い方の状態で、システムが縮退モードで動作していることを示しています。故障は優先順位が高い方の状態で、FRU に障害が発生し、交換する必要があることを示しています。<i>Device</i> は障害が発生したデバイスのタイプで、SYS_FAN、PSU、CURRENT_SENSOR、DOC、FPGA などです。<i>location</i> は、エラー状況になったデバイスの場所と名前です。デバイスの場所と名前は、ALOM CMT の <code>showenvironment</code> コマンドの出力と一致します。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の <code>showfaults</code> コマンドの出力に表示されます。
マイナー	<i>Device</i> at <i>location</i> is OK.	以前の障害または故障が回復または修復されたことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。フィールドの <i>Device</i> および <i>location</i> は、障害または故障に関する以前のイベントで示された値と同じです。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low warning threshold. <i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low soft shutdown threshold. <i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low hard shutdown threshold. <i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high warning threshold. <i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high soft shutdown threshold. <i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high hard shutdown threshold.	アナログ測定センサーが指定されたしきい値を超えた場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。メッセージには、超過したしきい値の種類が含まれています。<i>Device_type</i> は障害が発生したデバイスのタイプで、VOLTAGE_SENSOR、TEMP_SENSOR などです。<i>location</i> は、エラー状況になったデバイスの場所と名前です。デバイスの場所と名前は、ALOM CMT の showenvironment コマンドの出力と一致します。 TEMP_SENSOR イベントの場合、このメッセージは、室内の温度、サーバに出入りする通気の遮断など、サーバの外側で問題が発生していることを示します。 VOLTAGE_SENSOR イベントの場合、このメッセージは、プラットフォームハードウェア、または場合によっては取り付けられているアドオンカードで問題が発生していることを示します。 これらの障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
マイナー	<i>Device_type</i> at <i>location</i> is within normal range.	アナログ測定センサーが警告または障害しきい値を超えなくなった場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、センサーの読み取り値が故障パラメータの境界範囲内まで十分に回復した場合に送信されます。このメッセージは、ALOM CMT の showenvironment コマンドの現在の出力と一致しない場合があります。
クリティカル	SC initiating soft host system shutdown due to fault at <i>location</i>. SC initiating hard host system shutdown due to fault at <i>location</i>.	障害が原因で SC がシステムの停止を開始した場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。<i>location</i> は、停止の原因となった障害が発生したデバイスの場所と名前です。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SC initiating soft host system shutdown due to insufficient fan cooling.	システムの冷却の維持に必要なファンが十分に動作していないために、SC が停止を開始したことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。システムの冷却を維持するために必要なファンの数は、プラットフォームによって異なります。詳細は、使用しているプラットフォームのマニュアルを参照してください。
クリティカル	Host Power Failure: MB_DC_POK Fault.	電源コンバータまたは電源 OK センサーで問題が発生したことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。この問題が発生すると、システムは電源が入った状態を続けることはできません。このメッセージは、プラットフォームハードウェアに問題があることを示しています。SC は、システムの電源を再投入して、障害からの回復を試みます。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
メジャー	Power cycling Host System. Please wait.	電源 OK センサーの障害のあとで、SC がプラットフォームの電源の再投入を実行していることを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host Power: MB_DC_POK is OK.	以前の電源 OK センサーの障害からシステムが回復したことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。故障がふたたび発生した場合は、プラットフォームハードウェアまたは SC ハードウェアのいずれかに問題が発生あることを示している可能性があります。

表 B-4 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	Host system poweron failed due to fault at <i>sensor</i> .	SC がシステムの電源を入れることができないことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>sensor</i> は MB/FF_POK などのデバイスです。この障害は、プラットフォームハードウェアまたは SC ハードウェアのいずれかに問題があることを示しています。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
クリティカル	Host system failed to power off.	SC がシステムの電源を切ることができないことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。これは、プラットフォームハードウェアまたは SC ハードウェアのいずれかに問題があることを示しています。プラットフォームハードウェアの損傷を防ぐため、システムのプラグを手で外してください。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。
メジャー	<i>FRU_type</i> at <i>location</i> has been removed. <i>FRU_type</i> at <i>location</i> has been inserted.	FRU の取り外しまたは挿入を示す場合に、ALOM CMT はこれらのメッセージを送信します。フィールド <i>FRU_type</i> は、SYS_FAN、PSU、HDD などの FRU のタイプを示します。フィールド <i>location</i> は、showenvironment コマンドの出力に表示されるものと同じ、FRU の場所と名前を示します。
メジャー	Input power unavailable for PSU at <i>location</i> .	電源装置に入力電力が供給されていないことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、通常、電源装置が AC 電源に接続されていないことを示しています。電源コードが電力が供給されているコンセントに接続されている場合、このメッセージは電源装置自体に問題があることを示しています。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の showfaults コマンドの出力に表示されます。

付録 B に、システムコントローラのホスト監視イベントメッセージを示します。

表 B-5 ホスト監視イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	<i>Component</i> deemed faulty and disabled.	POST での障害の検出によって自動的にコンポーネントが使用不可になった場合、またはユーザーの <code>disablecomponent</code> コマンドの入力によってコンポーネントが使用不可になった場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>Component</i> は使用不可になったコンポーネントで、プラットフォームの <code>showcomponent</code> コマンドで表示されます。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の <code>showfaults</code> コマンドの出力に表示されます。
クリティカル	<i>Component</i> reenabled.	コンポーネントが使用可能になると、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。これには、ユーザーが <code>enablecomponent</code> コマンドを入力した場合や、コンポーネント自体が DIMM などの FRU で、その FRU が交換された場合などが含まれます。 <i>Component</i> は、プラットフォーム <code>showcomponent</code> コマンドの出力に表示される、コンポーネントの名前です。
メジャー	Host detected fault, MSGID: <i>SUNW-MSG-ID</i> .	Solaris PSH ソフトウェアが障害を診断する場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。障害の <i>SUNW-MSG-ID</i> は ASCII 識別子で、 http://www.sun.com/msg でこれを入力すると、障害の性質と修復手順の詳細を確認することができます。 この障害イベントメッセージは、ALOM CMT の <code>showfaults</code> コマンドの出力に表示されます。

表 B-5 ホスト監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	Dropping ereports, message queue is full.	発生元で無効にすることができない膨大なハードウェアエラーをハードウェアが検出したことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。このメッセージは、過度のイベントを格納できるだけの十分なメモリー領域がないために、いくつかのエラーが失われたことを示します。
メジャー	<i>Location</i> has been replaced; faults cleared.	ホストで検出された障害を含む FRU を交換したあとで、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。 <i>Location</i> は、交換された FRU の場所と名前です。SC の起動時、または FRU を交換してシャーシカバーを閉じたあとに、このイベントを受信する可能性があります。
メジャー	Existing faults detected in FRU_PROM at <i>location</i> .	新しい FRU で、その FRU PROM に以前の障害が記録されていることを SC が検出したことを示す場合に、ALOM CMT はこのメッセージを送信します。FRU または SC カードのいずれかを、あるシステムから別のシステムに移動させた場合に、このイベントが発生する可能性があります。 <i>location</i> は、MB/SEEPROM など、交換した FRU の SEEPROM の名前です。 最新の既存の障害は、FRU PROM から showfaults リストにインポートされます。showfaults リストの項目は、インポートされた障害で、このメッセージではありません。

索引

A

ALOM (Advanced Lights Out Management) CMT

- コマンドシェル, 43
- コマンドのリスト, 44
- ソフトウェア, 3

ALOM CMT エラーメッセージ, 154 ~ 159

ALOM CMT コマンド

- bootmode, 49
- break, 51
- clearasrdb, 53
- clearfault, 53
- console, 55
- consolehistory, 58
- disablecomponent, 60
- enablecomponent, 62
- flashupdate, 64
- help, 65
- logout, 68
- powercycle, 70
- poweroff, 70
- poweron, 72
- removefru, 73
- reset, 75
- resetsc, 76
- setdate, 78
- setdefaults, 79
- setfru, 81
- setkeyswitch, 81
- setlocator, 82
- setsc, 83
- setupsc, 84
- showcomponent, 86

- showdate, 87
- showenvironment, 88
- showfaults, 94
- showfru, 95
- showhost, 99
- showkeyswitch, 99
- showlocator, 100
- showlogs, 101
- shownetwork, 103
- showplatform, 104
- showsc, 105
- showusers, 108
- useradd, 110
- userdel, 111
- userpassword, 112
- userperm, 113
- usershow, 115
- パスワード, 69

ALOM CMT コマンドの入力, 43

ALOM CMT ソフトウェアのカスタマイズ

- setupsc を使用, 84

ALOM CMT の再起動, 27

ALOM CMT ファームウェアのダウンロード, 64

B

- boot ログ, 58
- bootmode コマンド, 49
- break コマンド, 51

C

clearasrddb コマンド, 53
clearfault コマンド, 53
CLI (コマンド行インタフェース), 1, 43
console コマンド, 55
consolehistory コマンド, 58

D

DHCP, 16
DHCP サーバ情報、表示, 103
DHCP 変数, 133
disablecomponent コマンド, 60

E

enablecomponent コマンド, 62
Ethernet
 MAC 変数, 133
 アドレス変数, 148
 ポート, 16

F

flashupdate コマンド, 64
FRU
 PROM の状態, 95
 エラーメッセージ, 158
 取り外し, 73

H

help コマンド, 65

I

if_network 変数, 128
IP 変数
 アドレス, 134
 ゲートウェイ, 135

ネットマスク, 136

L

LED の状態, 30, 88
logout コマンド, 68

N

NET MGT ポート, 16
netsc_enetaddr 変数, 133
netsc_ipaddr 変数, 134
netsc_ipgateway 変数, 135
netsc_ipnetmask 変数, 136

O

OpenBoot PROM
 プロンプト、取得, 30
OpenBoot PROM コマンド, 41

P

password コマンド, 69
powercycle コマンド, 70
poweroff コマンド, 70
poweron コマンド, 72

R

removefru コマンド, 73
reset コマンド, 75
resetsc コマンド, 76
run ログ, 58

S

sc コマンド, 43 ~ 115
sc_backupuserdata 変数, 137

sc_clieventlevel 変数, 138
sc_clipasswdecho 変数, 141
sc_cliprompt 変数, 139
sc_clitimeout 変数, 140
sc_customerinfo 変数, 142
sc_powerondelay 変数, 144
sc_powerstatememory 変数, 145
SER MGT ポート, 15
ser_baudrate 変数, 146
ser_data 変数, 146
ser_parity 変数, 146
ser_stopbits 変数, 147
setdate コマンド, 78
setdefaults コマンド, 79
setfru コマンド, 81
setkeyswitch コマンド, 81
setlocator コマンド, 82
setsc コマンド, 83
setupsc コマンド, 84
setupsc スクリプトの実行, 31, 33
showcomponent コマンド, 86
showdate コマンド, 87
showenvironment コマンド, 30, 88
showfaults コマンド, 94
showfru コマンド, 95
showhost コマンド, 99
showkeyswitch コマンド, 99
showlocator コマンド, 100
showlogs コマンド, 101
shownetwork コマンド, 103
showplatform コマンド, 104
showsc コマンド, 105
showusers コマンド, 108
Solaris オペレーティングシステムのオンラインマ
ニュアル, xxv
ssh コマンド, 3, 26
sys_autorestart 変数, 147
sys_autorunonerror 変数, 148
sys_enetaddr 変数, 148

T

telnet コマンド, 3, 25
Telnet セッション、数, 43

U

useradd コマンド, 110
userdel コマンド, 111
userpassword コマンド, 112
userperm コマンド, 113
usershow コマンド, 115

あ

アイドル状態のセッション, 140
アクセス権
 admin アカウント, 26
 設定または変更, 113

い

イベント警告、ALOM シェル, 138
イベントレベル, 138

う

ウォッチドッグタイマー, 147

え

エラーメッセージ、リスト, 154
遠隔接続の解除, 154

お

オプション、入力, 44
温度, 30, 88

か

- 書き込み権, 55
- 書き込みロック
 - 解放, 57
 - コンソール, 154
- 数、Telnet セッション, 43
- 仮想キースイッチ
 - 設定, 81
- 仮想キースイッチの位置, 81
- 環境, 30, 88
- 監視対象のコンポーネント, 2
- 関連マニュアル, xxiv

き

- 協定世界時 (UTC), 78
- 切り替え、プロンプト, 28

け

- 計画、構成, 14
- 警告
 - 電子メール, 129
 - 電子メール、構成, 22
- 現在のユーザー、表示, 108
- 現場交換可能ユニット
 - 「FRU」を参照

こ

- 更新
 - 構成設定, 83
- 構成
 - ALOM, 84
 - 計画, 14
 - 電子メールによる警告, 22
 - 変数, 117, 148
- 構成設定、変更, 83
- 顧客データ, 142
- コマンドシェル, 43 ~ 115
 - 「sc コマンド」も参照

- エラーメッセージ, 154 ~ 159
- 数, 43
- 入力、オプション, 44
- コンソールへの接続, 55
- コンソールユーザー
 - 表示, 108
 - 複数, 55
- コンポーネント、監視対象, 2

さ

- サーバ
 - 停止、強制, 29, 30
 - プラットフォーム情報, 104
 - 問題, 152
 - リセット、ハード, 76
- サーバの停止の強制, 29, 30, 75
- サーバのリセット, 75
 - オプション, 30

し

- シェルプロンプト、変更, 139
- システム
 - 温度, 30, 88
 - コンソール、リダイレクト, 28
 - 変数, 121
- 出荷時のデフォルト, 79
- 取得、OpenBoot PROM プロンプト, 30
- 障害追跡, 151
 - ALOM CMT シェルエラーメッセージ, 154
 - ALOM、問題, 152
 - サーバの問題, 153
- シリアルポート, 15
 - データビットの設定, 146
 - パリティ, 146
 - 変数, 118
 - ボーレートの設定, 146
- 診断, 151

す

スクリプト、`setupsc`、実行, 31, 33
スクリプト、設定、実行, 84
スタンバイモード、電源の供給, 70
ストップビット、シリアルポート, 147

せ

制御
 起動動作, 49
セッション、アイドル, 140
セッションの終了, 68
接続の終了, 68
設定
 OpenBoot NVRAM 変数, 49
 ユーザーアクセス権, 113
設定スクリプト, 84
設定スクリプトの実行, 84

そ

ソフトウェア
 指示, 14

た

タイマー、ウォッチドッグ, 147

つ

通信ポート, 14
通知変数, 119

て

停止、強制、サーバ, 29, 30
データビット、設定, 146
デバイスの `failed` 状態、定義, 4
デバイスの `faulty` 状態、定義, 4

デフォルト、リセット, 79
デフォルトの起動デバイス, 49
電圧の状態, 30, 88
電源状態の記憶, 145
電源切断、ホストサーバ, 70
電源装置の状態, 30, 88
電源投入の遅延, 144
電源の状態, 145
電子メールによる警告, 129
 構成, 22

と

動的ホスト構成プロトコル, 16
取り外し、FRU, 73

ね

ネットマスク変数, 136
ネットワーク
 使用可能への切り替え, 128
 表示、現在の構成, 103
 変数, 119

は

ハードドライブの状態, 30, 88
ハードリセット、サーバ, 76
パスワード
 エコー, 141
 規則, 69, 112
 すべての ALOM パスワードの復元, 159
 変更, 69
 変更、別, 112
バックアップ、ユーザーデータ, 137
バッファ内のメッセージ, 58
パリティ、シリアルポート, 146

ひ

日付

現在, 87

設定、日付および時刻, 78

表示

仮想キースイッチの情報, 99

現在の日付, 87

システム情報, 105

ホスト情報, 99

ユーザー, 115

ロケータ LED の状態, 100

表示、FRU の状態, 95

ふ

ファームウェア

インストール、新しいバージョン, 64

仮想キースイッチの状態, 99

バージョン, 99, 105

複数のオプション、入力, 44

プラットフォーム、表示, 104

プロンプト

切り替え, 28

変更, 139

プロンプトの指定, 139

へ

変更

アクセス権, 113

自分のパスワード, 69

プロンプト, 139

別のパスワード, 112

変数, 117 ~ 148

DHCP, 133

Ethernet, 133

Ethernet アドレス, 148

IP アドレス, 134

IP ゲートウェイ, 135

アイドル時間の設定, 140

システムインタフェース, 121

システムユーザー, 120

使用可能への切り替え、ネットワーク, 128

シリアルポート, 118

シリアルポートのストップビット, 147

シリアルポートのデータビットの設定, 146

シリアルポートのパリティの設定, 146

シリアルポートのボーレートの設定, 146

通知, 119

電源状態の記憶, 145

電源投入の遅延, 144

ネットマスク, 136

ネットワーク, 119

パスワードのエコー表示, 141

バックアップデータ, 137

ホスト識別子, 142

ほ

ポート

NET MGT, 16

SER MGT, 15

ボーレート、設定, 146

ホストサーバの電源切断および投入, 70

ホスト識別子, 142

ゆ

ユーザー

削除, 111

追加, 110

表示, 115

ユーザーアカウントの削除, 37, 111

ユーザーアカウントの追加, 36, 110

ユーザー制限, 110

ユーザーセッション情報, 108

よ

読み取り, 58

読み取り専用モード, 55

読み取り専用ユーザー、表示, 108

り

リダイレクト、システムコンソール, 28

履歴、イベントバッファ, 101

ろ

ログ, 58

ロケータ LED, 82

切り替え、オンとオフ, 82

状態, 100

